

京都市立繪畫專門學校	大日本武德會武道專門學校	元東北學院專門部	東北學院	元私立關西學院	關西學院專門部	私立戶板裁縫學校
本	本	師範	高等學部 師範	文學部 商業學部 文學部	文學部 商業學部 文學部	高等師範部
科	科	科	科	科	科	科
毛筆畫、用器畫	漢國柔擊	英	英	英	英	裁縫
日	日	日	日	日	日	日
大正六年四月五日	大正七年四月一日 大正十五年二月二日	大正九年九月二日	大正九年九月二日 昭和八年七月二日	大正十三年一月九日 大正十四年五月十二日	昭和八年六月二日	大正十年三月十日 昭和十年一月二日 昭和三年二月二日
大正七年三月以後ノ卒業者ニ限ル	大正十年三月以後ノ卒業者ニ限ル 大正八年八月一日私立大日本武德會武術專門學校ヲ改稱認可同年更ニ改稱 大正十五年三月以後ノ卒業者ニ限ル	大正十一年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和四年九月九日專門學校令ニ依リ設置セル東北學院專門部ヲ東北學院ト改稱認可 昭和八年三月以後ノ卒業者ニ限ル	大正十三年三月以後ノ卒業者ニ限ル 大正十四年三月以後ノ卒業者ニ限ル 昭和七年三月七日專門學校令ニ依リ設置セル私立關西學院ヲ關西學院專門部ト改稱認可	昭和七年三月以後ノ卒業者ニ限ル	大正十二年三月以後ノ卒業者ニ限ル 大正十年三月以後ノ卒業者ニ限ル 昭和三年三月以後ノ卒業者ニ限ル

改〔甲學一〇四〕

帝國婦人協會實踐女學校	元專門學部	元神戶女學院	神戶女學院專門部	京都市立女子高等專門學校
英國文藝科 家政科 英文科	英國文藝科 家政科 英文科	英國文藝科 家政科 英文科	英國文藝科 家政科 英文科	英國文藝科 家政科 英文科
英國文藝科 家政科 英文科	英國文藝科 家政科 英文科	英國文藝科 家政科 英文科	英國文藝科 家政科 英文科	英國文藝科 家政科 英文科
英國文藝科 家政科 英文科	英國文藝科 家政科 英文科	英國文藝科 家政科 英文科	英國文藝科 家政科 英文科	英國文藝科 家政科 英文科
大正十四年三月十日	大正十四年三月十日	大正十四年三月十日	大正十四年三月十日	大正十四年三月十日
大正十四年三月十日以後ノ卒業者ニ限ル	大正十四年三月十日以後ノ卒業者ニ限ル	大正十四年三月十日以後ノ卒業者ニ限ル	大正十四年三月十日以後ノ卒業者ニ限ル	大正十四年三月十日以後ノ卒業者ニ限ル

改〔甲學一〇三〕

私立聖心女子學院高等專門學校	元明治學院高等學部	明治學院	私立東京女子體操音樂學校	東京女子大學	福岡縣女子專門學校
元	商	高等學部	體操科	文學部	家政科
本國文	商業科	英文科	本體	英語及文學專修科	家政科(家事)研究科
科英	商業簿記	英語	英語	國語專攻部	家政科
語	記	語	操	語	事
大正十四年一月七日	大正十四年四月十七日	昭和五年四月二十二日	大正十四年二月二十四日	昭和五年五月十五日	昭和三年一月十四日
大正十三年三月以後ノ卒業生ニ限ル	大正十四年三月以後ノ卒業生ニ限ル	昭和三年三月以後ノ卒業生ニ限ル	昭和六年三月以後ノ卒業生ニ限ル	昭和五年三月以後ノ卒業生ニ限ル	昭和七年三月十八日家政科研究科ヲ分チテ家政科(家事)研究科(裁縫)研究科トナスノ件認可

改(甲學一〇三)

大阪府女子專門學校	立正大學	法政大學專門部	大妻技藝學校	鹿兒島縣立第一高等女學校	長野縣松本高等女學校	長野縣上田高等女學校	大阪市立高等西華女學校
國文	專門部	元高等師範科	高等師範部	專攻科	專攻科	專攻科	家政高等科
國文	國語漢文	國語漢文	國語漢文	第一	第二	第一	(三年課程)裁
科英	國語漢文	國語漢文	國語漢文	部裁	部裁	部裁	裁
語	語	語	語	事	事	事	縫
昭和三年一月十四日	昭和三年一月十四日	昭和三年一月十四日	昭和三年一月十一日	昭和五年四月十六日	昭和五年四月十六日	昭和五年四月十六日	昭和三年三月八日
昭和三年三月以後ノ卒業生ニ限ル	昭和三年三月以後ノ卒業生ニ限ル	昭和三年三月以後ノ卒業生ニ限ル	昭和三年三月以後ノ卒業生ニ限ル	昭和五年三月以後ノ卒業生ニ限ル	昭和五年三月以後ノ卒業生ニ限ル	昭和五年三月以後ノ卒業生ニ限ル	昭和三年三月以後ノ卒業生ニ限ル

改(甲學一一)

學校	京都府立女子專門學校	智山專門學校	私立廣島女學院專門學校	廣島女學院專門學校	二松學舎專門學校	明善高等女學校	長野縣女子專門學校	京都專門學校	天理外國語學校	平安女學院	長崎縣立長崎高等女學校	立命館大學專門學部
家政科	家政科ノ内裁縫科	家政科ノ内裁縫科	家政科ノ内裁縫科	家政科ノ内裁縫科	家政科ノ内裁縫科	家政科ノ内裁縫科	家政科ノ内裁縫科	家政科ノ内裁縫科	家政科ノ内裁縫科	家政科ノ内裁縫科	家政科ノ内裁縫科	家政科ノ内裁縫科
文理科	文理科ノ内家政科	文理科ノ内家政科	文理科ノ内家政科	文理科ノ内家政科	文理科ノ内家政科	文理科ノ内家政科	文理科ノ内家政科	文理科ノ内家政科	文理科ノ内家政科	文理科ノ内家政科	文理科ノ内家政科	文理科ノ内家政科
漢語	漢語	漢語	漢語	漢語	漢語	漢語	漢語	漢語	漢語	漢語	漢語	漢語
事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事
昭和六年十一月十日	昭和七年四月二日	昭和五年四月二日	昭和五年四月二日	昭和五年四月二日	昭和五年四月二日	昭和五年四月二日	昭和五年四月二日	昭和五年四月二日	昭和五年四月二日	昭和五年四月二日	昭和五年四月二日	昭和五年四月二日
昭和六年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和七年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和五年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和五年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和五年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和五年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和五年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和五年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和五年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和五年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和五年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和五年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和五年三月以後ノ卒業者ニ限ル

改〔甲學一六〕

日本女子高等學院	國士館專門學校	關西大學專門部	同志社專門學校	東京府立第五高等女學校	明治大學專門部	櫻井女子英學塾
英國	本	文	英	專	文	高
文	文	政	語	攻	科	師
研	研	科	師	師	師	師
究	究	本	範	範	範	範
科	科	科	部	部	部	部
英	英	英	英	英	英	英
語	語	語	語	語	語	語
身	身	身	身	身	身	身
昭和七年五月二日	昭和八年三月十日	昭和八年三月十日	昭和八年三月十日	昭和八年三月十日	昭和八年三月十日	昭和八年三月十日
昭和七年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和八年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和八年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和八年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和八年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和八年三月以後ノ卒業者ニ限ル	昭和八年三月以後ノ卒業者ニ限ル

改〔甲學一六〕

●教員免許令施行前ニ授與ノ師範學校中學校女子師範學校高等女學校教員免許狀效力

明治四十一年三月十三日 文部省令第七號

明治三十三年勅令第三百三十四號教員免許令第三條ニ依リ又ハ同令施行前ニ授與シタル師範學校中學校女子師範學校師範學校女子部又ハ高等女學校ノ教員免許狀ニ記載ノ學科目ニ就キテハ其ノ免許狀ノ效力ハ交互他ノ學校ニ及ブ但シ女子師範學校師範學校女子部及高等女學校ノ教員免許狀ノ效力ハ師範學校中學校ニ及ハス

許狀ノ效力ニ關スル件

昭和七年八月三十日 文部省令第十六號

師範學校中學校高等女學校法制及經濟理科農業工業手工教員免許狀ノ效力ニ關シ左ノ通定ム
法制及經濟ノ教員免許狀ハ公民科ノ教員免許狀ト同一ノ效力ヲ有ス
本令施行前授與セラレタル理科ノ教員免許狀ハ高等女學校ニ限リ其ノ效力ヲ有ス
農業、工業、手工ノ教員免許狀ハ當分ノ内作業科ノ教員免許狀ト同一ノ效力ヲ有ス

●師範學校中學校高等女學校法制及經濟理科農業工業手工教員免許

第九章 職員 第三節 教員免許、資格

●中學校倫理科教員免許狀ヲ同修

二九〇ノ一

身科教員免許狀ト同一效力トス

明治三十四年三月三十日
文部省告示第七十二號

中學校倫理科教員免許狀ハ明治三十四年四月一日以後中學校修身科教員免許狀ト同一ノ效力ヲ有ス

●教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用ノ件

明治三十三年九月七日
文部省令第十五號

沿革 明治三十八年一月文部省令第一號、四一年一月第一號、大正三年四月第一號改正
明治三十三年勅令第三百三十四號教員免許令第二條但書ニ依リ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得ルノ件左ノ通相定ム
第一條 師範學校中學校ニ於テ教員免許狀ヲ有スル者ヲ得難キ場合及高等女學校ニ於テ教員免許狀又ハ第二條ノ資格ヲ有スル者ヲ得難キ場合ニハ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得
第一條ノ二 師範學校中學校ノ擊劔又ハ柔術ノ教授ヲ擔任セシムル爲當分ノ内左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得
一 文部大臣ノ指定シタル專門學校ノ卒業者
二 教員檢定ニ關スル規程第五條第一號若ハ第三號乃至第六號ノ一ニ該當スル者ニシテ主トシテ擊劔又ハ柔術ヲ教授スル學校ニ於テ三箇年以上修業シ文部大臣ニ於テ特ニ其ノ成績優良ナリト認定シタル者
第二條 高等女學校ニ於テ第二學年以下ノ教授ヲ擔任セシムル爲小學校本科正教員免許狀ヲ有スル者ヲ採用スルコトヲ得
第三條 第一條ニ依リ採用シタル教員ハ公立學校ニ在リテハ教諭助教諭又

ハ訓導ト稱スルコトヲ得ス

第四條 中學校高等女學校ニ於テ新ニ採用セントスル者ヲ加算シ教員免許狀ヲ有セサル者ノ數教員免許狀ヲ有スル者ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ニハ文部大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ公立學校ニ在リテハ管理
者、私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ本人ノ氏名、履歷及分擔學科並當
該學校現在教員ノ氏名及資格ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ
第五條 第一條ニ掲ケタル學校及特別ノ規定アル學校ヲ除ク外公立學校ニ於テハ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

附則

第六條 本令ハ明治三十三年九月十日ヨリ施行ス
第七條 本令施行ノ際教員免許狀ヲ有セスシテ第一條ノ學校ノ教授ニ從事スル者ハ本令ノ規定ニ依リ採用セラレタル者ト看做ス
第八條 明治三十年文部省令第十九號第七條明治三十二年文部省令第二十二號同第四十三號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

大正三年四月二日
文部省告示第六十一號

私立大日本武德會武術專門學校 本國語漢文兼修科 卒業者
右ハ明治三十三年文部省令第十五號第一條ノ二第一號ニ依リ之ヲ指定ス

改(甲學一六)

●私立中等學校校長及教員ノ認可ニ關スル件

大正十四年四月二十八日
發售第二一五號文部次官通牒

各地方長官 私立中等學校校長宛

從來私立ノ中學校、高等女學校(實科ヲ含ム)、實業學校ノ校長若ハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ハ貴官ニ於テ之ヲ認可シ其ノ都度本省ニ報告スルコトトシ又其ノ教員ハ法定ノ資格ヲ有セサル者ト雖別ニ私立學校令第五條ニ依リ認可ヲ要セサルコトニ取扱ハレ來リタル處自今右私立中等學校ノ校長若ハ學校代表者ノ認可ニ就テハ本省大臣ニ申請セシメ又此等學校及私立高等學校尋常科ノ教員ニシテ法定ノ資格ヲ有セサル者ハ總テ私立學校令第五條ノ認可ヲ受ケルヲ要スルコトニ省議決定相成リタルニ付御了知ノ上關係者ニモ夫々御通達相成度
追テ現在右學校ノ校長ノ職ニ在リ又ハ教員ニ採用サレ居ル者ニ就テハ別ニ手續ヲ要セサルニ付御含ミ相成度

改(甲學一六)

●公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程

明治四十年九月二十一日
文部省令第二十八號

二九〇ノ三

第九章 職員 第三節 教員免許、資格

沿革 大正八年七月文部省令第二六號、九年二月第三四號、一一年一月第五號、一三年

二月第三三號、昭和四年一月第四八號、一〇年四月第九號改正

明治三十二年勅令第二十九號實業學校令第十五條ニ基キ公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ實業學校ノ教員タルコトヲ得

一 學位ヲ有スル者

二 大學ヲ卒業シタル者、大學ニ於テ試験ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ官立學校ノ卒業者ニシテ學士ト稱スルコトヲ得ル者

三 文部大臣ノ指定シタル者

四 教員免許令ニ依リ教員免許狀ヲ有スル者

第二條 (削除)

第三條 (削除)

第四條 特別ノ必要アルトキハ公立實業學校ニ在リテハ地方長官、私立實業學校ニ在リテハ設立者ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル者ヲ教員トシテ採用スルコトヲ得

前項ニ依リ採用シタル教員ハ公立實業學校ニ在リテハ教諭及助教諭ト稱スルコトヲ得ス

第五條 職業學校以外ノ實業學校ニ於テハ第一條ノ資格ヲ有セサル教員ノ數之ヲ有スル教員ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

職業學校ニ於テハ第一條ノ資格ヲ有セサル教員ノ數之ヲ有スル教員ヲ超過スルコトヲ得ス

第六條 本令ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘク地方長官ハ其ノ意見ヲ具スヘシ

第七條 本令ハ實業專門學校ニ關シテハ之ヲ適用セス

第八條 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

第九條 本令公布ノ際現ニ公立實業學校ノ教諭、助教諭又ハ調導ノ職ニ在リテ第一條又ハ第二條ノ資格ヲ有セサル者ニ對シテハ第四條第二項ノ規定ヲ適用セス

第十條 本令公布ノ際現ニ實業學校ノ教員タル者ハ第一條又ハ第二條ノ資格ヲ有セサルモ引續キ同一學校ニ在職スル場合ニ限り本令施行ノ日ヨリ一箇年間第五條ノ關係ニ於テ第一條又ハ第二條ノ資格ヲ有スル教員ノ數ニ算入ス

附則 (大正九年文部省令第三十四號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年文部省告示第九十二號公立私立實業學校教員タルコトヲ得ル者ノ指定第二號各項ノ一ニ該當シ本令施行ノ際現ニ實業學校ノ教諭又ハ助教諭ノ職ニ在ル者ハ實業學校教員ノ資格ヲ有スルモノトス

本令施行ノ際現ニ實業補習學校ノ調導ノ職ニ在ル者ハ實業補習學校教員ノ資格ヲ有スルモノトス

本令施行ノ際現ニ實業補習學校調導ノ職ニ在ル者ニシテ第二條ノ資格ヲ有スルモノニ付テハ第四條ノ二ノ適用ニ關シ助教諭ノ在職年數ヲ相當酌スルコトヲ得

大正十一年三月三十一日マテニ設置セラレタル實業補習學校教員養成所ニ準スヘキ施設ニシテ文部大臣ノ指定シタルモノハ本令ノ適用ニ關シ實業補習學校教員養成所ト看做ス

附則 (大正十一年文部省令第五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ文部大臣ノ認可シタル者ノ公立私立實業學校教員資格ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

附則 (昭和四年文部省令第四十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員數ノ制限ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ル

方長官ハ其ノ意見ヲ具スヘシ

附則

第七條 本令ハ實業專門學校ニ關シテハ之ヲ適用セス

第八條 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

第九條 本令公布ノ際現ニ公立實業學校ノ教諭、助教諭又ハ調導ノ職ニ在リテ第一條又ハ第二條ノ資格ヲ有セサル者ニ對シテハ第四條第二項ノ規定ヲ適用セス

第十條 本令公布ノ際現ニ實業學校ノ教員タル者ハ第一條又ハ第二條ノ資格ヲ有セサルモ引續キ同一學校ニ在職スル場合ニ限り本令施行ノ日ヨリ一箇年間第五條ノ關係ニ於テ第一條又ハ第二條ノ資格ヲ有スル教員ノ數ニ算入ス

附則 (大正九年文部省令第三十四號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年文部省告示第九十二號公立私立實業學校教員タルコトヲ得ル者ノ指定第二號各項ノ一ニ該當シ本令施行ノ際現ニ實業學校ノ教諭又ハ助教諭ノ職ニ在ル者ハ實業學校教員ノ資格ヲ有スルモノトス

本令施行ノ際現ニ實業補習學校ノ調導ノ職ニ在ル者ハ實業補習學校教員ノ資格ヲ有スルモノトス

本令施行ノ際現ニ實業補習學校調導ノ職ニ在ル者ニシテ第二條ノ資格ヲ有スルモノニ付テハ第四條ノ二ノ適用ニ關シ助教諭ノ在職年數ヲ相當酌スルコトヲ得

大正十一年三月三十一日マテニ設置セラレタル實業補習學校教員養成所ニ準スヘキ施設ニシテ文部大臣ノ指定シタルモノハ本令ノ適用ニ關シ實業補習學校教員養成所ト看做ス

附則 (大正十一年文部省令第五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ文部大臣ノ認可シタル者ノ公立私立實業學校教員資格ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

附則 (昭和四年文部省令第四十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員數ノ制限ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (大正十一年文部省令第五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員數ノ制限ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (昭和四年文部省令第四十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員數ノ制限ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (大正十一年文部省令第五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員數ノ制限ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (昭和四年文部省令第四十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員數ノ制限ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (大正十一年文部省令第五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員數ノ制限ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (昭和四年文部省令第四十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員數ノ制限ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (大正十一年文部省令第五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員數ノ制限ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (昭和四年文部省令第四十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員數ノ制限ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (大正十一年文部省令第五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員數ノ制限ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (昭和四年文部省令第四十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員數ノ制限ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (大正十一年文部省令第五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員數ノ制限ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (昭和四年文部省令第四十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員數ノ制限ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (大正十一年文部省令第五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員數ノ制限ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (昭和四年文部省令第四十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員數ノ制限ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ル

●公立私立實業學校教員タルコトヲ得ル者ノ指定

大正八年七月八日
文部省告示第九十二號

沿革 大正九年五月文部省告示第三〇七號、一〇年四月第二三八號、一一年一月第一八號、
昭和五年三月第五八號、六年三月第八七號、一一月第三一九號、七年二月第二三
五號改正

明治四十年文部省告示第二百四十八號公立私立實業學校教員タルコトヲ得ル者ノ指定ヲ左ノ通改正ス
明治四十年文部省令第二十八號公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第一條第三號ニ依リ指定スルコト左ノ如シ
一、實業學校ノ教員タルコトヲ得ル者左ノ如シ
帝國大學各學部選科修了者
帝國大學元分科大學選科修了者
官立公立實業專門學校本科卒業者
元東京工業大學附屬工業專門部卒業者並元同學附屬工業教員養成所卒業者
元大阪工業大學附屬工業專門部卒業者並元同學附屬工業教員養成所卒業者
元東京高等工業學校本科卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス
元東京工業學校本科卒業者
元東京職工學校本科卒業者
元東京高等工業學校附設工業教員養成所卒業者

改〔甲學一〇二〕

改〔甲學一〇一六〕

元高等商業學校附屬主計學校卒業者
大阪商科大學豫科修了者
大阪商科大學高等商業部卒業者
通信省所管商船學校卒業者 但シ簡易科卒業者及別科卒業者ヲ除ク
甲種二等運轉士又ハ一等機關士以上ノ海技免狀ヲ有スル者
實業學校教員養成規程第八條ニ依リ學費給費生ニシテ其ノ學校卒業者
高等學校卒業者
元高等中學校卒業者
官立公立專門學校本科卒業者
千葉醫學專門學校卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス
岡山醫學專門學校卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス
金澤醫學專門學校卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス
長崎醫學專門學校卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス
東北帝國大學元醫學專門部卒業者
元仙臺醫學專門學校卒業者
東京外國語學校本科卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス
東京美術學校本科卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス
東京美術學校元特別ノ課程履修者
東京美術學校圖書講習科卒業者
東京音樂學校本科卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス
元高等師範學校附屬音樂學校本科卒業者

元東京工業學校機械工藝部特別生ノ課程修了者
元大阪高等工業學校卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス
元大阪工業學校卒業者
元大阪高等工業學校附設工業教員養成所卒業者
元東北帝國大學附屬工業專門部卒業者
元仙臺高等工業學校卒業者
東京帝國大學農學部實科卒業者
東京帝國大學元農科大學實科卒業者
東京帝國大學元農科大學乙科卒業者
東京帝國大學農學部附屬農業教員養成所卒業者
東京帝國大學元農科大學附屬農業教員養成所卒業者
北海道帝國大學農學部實科卒業者
北海道帝國大學附屬大學豫科、土木專門部、水產專門部卒業者
東北帝國大學元農科大學實科、附屬大學豫科、土木工學科、林學科、水產學科卒業者
元札幌農學校土木工學科卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス
元札幌農學校森林科卒業者
農商務省所管元實業講習所本科卒業者
農商務省所管水產講習所本科卒業者
東京商科大學豫科、附屬商學專門部、附屬商業教員養成所卒業者
元神戸商學大學附屬商學專門部卒業者
元東京高等商業學校卒業者 但シ明治三十六年四月以前ノ卒業者トス
元高等商業學校卒業者
元東京商業學校卒業者
元東京高等商業學校附設商業教員養成所卒業者

元東京音樂學校本科卒業者
學習院高等科卒業者
學習院元高等學科卒業者
神宮皇學館本科卒業者
私立日本體育會體操學校高等本科卒業者
二、小學校本科正教員又ハ小學校專科正教員ノ免許狀ヲ有スル者ハ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル實業學校ノ第二學年以下ノ教授ヲ擔任スル場合ニ限リ實業學校ノ教員タルコトヲ得但シ男子ノ實業學校ニ在リテハ大正十五年三月三十一日マテニ實業學校教員ノ職ニ就キタル者ニ限ル

●實業補習學校教員タルコトヲ得ル者ノ指定

沿革 大正一五年三月文部省告示第一七七號、五月第二八二號、一〇月第三五九號、昭和二年二月第三三〇號、五年三月第五一號、四月第一三九號、七年二月第二三八號改正

公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第二條第三號ニ依リ指定スルコト左ノ如シ
修業年限一年ノ實業補習學校教員養成所卒業者ト同等ト看做スモノ
鹿兒島高等農林學校農學別科卒業者但シ大正十四年三月以後ノ卒業者ニ限ル
元京都高等實業學校實業實科卒業者但シ大正十五年三月以後ノ卒業者ニ限ル
京都高等蠶絲學校蠶業實科卒業者
東京高等蠶絲學校蠶業實科卒業者但シ昭和二年三月以後ノ卒業者ニ限ル

盛岡高等農林科、校元農學別科卒業者但シ昭和二年三月以後ノ卒業者ニ限ル
盛岡高等農林科、校農學實科卒業者
彦根高等商業學校別科卒業者但シ教育學及教授法ヲ履修シタル者ニ限ル
高松高等商業學校專修科卒業者但シ教育ヲ兼修シタル者ニ限ル

●實業補習學校教員資格ニ關スル

指定

大正十年六月二十二日
文部省告示第三百九十八號

公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程附則第五項ニ依リ實業補習學校教員資格ニ關シ指定スルコト左ノ如シ

- 元東京府立農業教員養成所
- 元滋賀縣農業教員養成所
- 元石川縣立農業教員養成所
- 元山口縣農業教員養成所
- 元熊本縣立熊本農業學校附設農業教員養成所

大正十年九月八日
文部省告示第四百十三號

大正九年文部省令第三十四號附則第五項ニ依リ指定スルコト左ノ如シ

- 村山臨時實業教員養成所
- 庄内臨時實業教員養成所
- 置賜臨時實業教員養成所
- 元長野縣實業補習學校教員養成所
- 元長野縣立農事講習所元第二部
- 廣島縣立西條農學校附設農業教員講習所

巖手縣實業補習學校教員養成所
群馬縣師範學校農業講習科

大正十一年二月二十四日
文部省告示第九十六號

大正九年文部省令第三十四號附則第五項ニ依リ指定スルコト左ノ如シ
茨城縣立水戸農學校農業教員養成所
大正一二年二月文部省令第四八號ヲ以テ同年四月ヨリ「茨城縣立農學校」ヲ改稱

大正十二年三月九日
文部省告示第四百十二號

大正九年文部省令第三十四號附則第五項ニ依リ指定スルコト左ノ如シ
但シ指定ノ效力ハ大正十二年二月以前ニ及ハス
兵庫縣立農學校甲種別科

大正十二年十一月十二日
文部省告示第四百十七號

大正九年文部省令第三十四號附則第五項ニ依リ指定スルコト左ノ如シ
元愛知縣立農林學校附設農業補習學校教員養成所

改「甲學一六」

●青年學校教員資格規程

昭和十年四月一日
文部省令第五號

青年學校教員資格規程左ノ通定ム

青年學校教員資格規程

- 第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ青年學校ノ教員タルコトヲ得
 - 一 青年學校教員養成所ヲ卒業シタル者
 - 二 實業學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有スル者
 - 三 小學校本科正教員又ハ小學校專科正教員ノ免許狀ヲ有スル者
 - 四 文部大臣ノ指定シタル者
- 第二條 職業、家事又ハ裁縫ニ關スル特別ノ知識技能ヲ有スル者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ青年學校ノ教員タルコトヲ得
- 第三條 前條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ其ノ擔任セントスル教授及訓練科目ヲ記載シタル願書ニ履歷書ヲ添ヘ地方長官ニ申請スベシ
- 第四條 公立青年學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ、私立青年學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ設置者ニ於テ第一條及第二條ノ資格ヲ有セザル者ヲ教員トシテ採用スルコトヲ得
- 前項ニ依リ採用シタル教員ハ公立青年學校ニ在リテハ教諭及助教諭ト稱スルコトヲ得ズ
- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニアラザレバ公立青年學校ノ教諭ト稱スルコトヲ得ズ
 - 一 青年學校教員養成所ヲ卒業シタル者
 - 二 實業學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有スル者

改「甲學一六」

三 小學校本科正教員又ハ小學校專科正教員ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ六年以上助教諭ノ職ニ在リタルモノ
青年學校以外ノ公立學校ノ教諭又ハ助教諭ノ職ニ在リタル者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ公立青年學校ノ教諭ト稱スルコトヲ得

第六條 青年學校ニ於テ第四條ニ依リ採用スル教員數ノ制限ニ關シテハ地方長官ノ定ムル所ニ依ルベシ

第七條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第八條 青年學校教員養成所令附則第三項ノ青年學校教員養成所ニシテ修業年限二年未滿ノモノヲ卒業シタル者ハ第五條第一項ノ適用ニ付テハ三年以上助教諭ノ職ニ在リタル場合ニ限ル

第九條 本令中助教諭ノ在職年數ノ計算ニ付テハ從前ノ公立實業補習學校ハ之ヲ公立青年學校ト看做ス

第十條 從前ノ公立實業補習學校ハ第五條第二項ノ適用ニ付テハ之ヲ青年學校ト看做ス

第十一條 本令施行前ニ於テ公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第二條第三號ノ規定ニ依リ文部大臣ノ指定シタル者ハ之ヲ第一條第四號ノ規定ニ依リ指定シタルモノト看做ス

第十二條 本令施行前ニ於テ公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第二條ノ二ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ實業補習學校ノ教員タルコトヲ認可シタル者ハ之ヲ第二條ノ規定ニ依リ認可シタルモノト看做ス

第十三條 從前ノ實業補習學校教員養成所又ハ大正九年文部省令第三十四號附則第五項ノ規定ニ依リ實業補習學校教員養成所ト看做サレタルモノ

卒業シタル者ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ青年學校教員養成所ヲ卒業シタルモノト看做ス但シ修業年限二年未滿ノモノニ在リテハ第五條第一項ノ適用ニ付テハ三年以上助教諭ノ職ニ在リタル場合ニ限ル

第十四條 本令施行前ニ於テ大正九年文部省令第三十四號附則第三項ノ規定ニ依リ實業補習學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有シタル者ハ之ヲ本令ニ依リ青年學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有スルモノト看做ス

●實業學校教員檢定ニ關スル規程

文部省令第四號(大正十一年一月二十四日)

第九章 職員 第三節 教員免許、資格

大正十一年九月文部省令第二八號、一二年四月第一九號改正
實業學校教員檢定ニ關スル規程左ノ通定ス

實業學校教員檢定ニ關スル規程

第一條 實業學校教員檢定ハ受檢者ノ學力、性行及身體ニ就キ之ヲ行フ

第二條 檢定ヲ爲スヘキ學科目ハ實業ニ關スル學科目中ニ就キ之ヲ定メ文部大臣告示ス

第三條 試驗檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ

試驗檢定ノ出願期限ハ文部大臣之ヲ告示シ試驗施行ノ期日ハ教員檢定委員會長之ヲ公告ス

第四條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ノ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ試驗檢定ニ在リテハ其ノ住所ノ地方廳ヲ經由シ無試驗檢定ニ在リテハ其ノ住所ノ地方廳又ハ當該學校ヲ經由シテ文部大臣ニ出願スヘシ

一 第二號書式ノ履歷書

二 受檢資格ニ關スル學校卒業證書、教員免許狀又ハ認可指令ノ寫

三 第五條第一號、第二號、第四號、第五號及第九號ニ該當スル者ニ在リテハ第三號書式ノ當該學校長證明書、同條第三號ニ該當スル者ニ在リテハ第四號書式ノ試驗檢定合格證明書、同條第六號ニ該當スル者ニシテ教員免許狀授與地方廳以外ノ地方廳ヲ經由スル場合ニ在リテハ第五號書式ノ授與地方廳證明書

四 第六號書式ノ醫師法ニ依ル醫師ノ身體檢查書

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ性行ニ就キ意見ヲ具申スヘシ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試驗檢定ヲ受ケルコトヲ得

一 實業學校又ハ實業補習學校教員養成所ヲ卒業シタル者

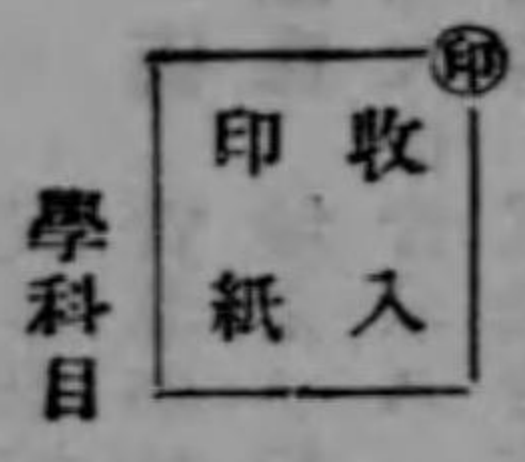
二 中學校、高等女學校、高等女學校實科又ハ實科高等女學校ヲ卒業シタル者

第九章 職員 第三節 教員免許、資格

三 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者
 四 專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ依リ專門學校入學ニ關シ指定ヲ受ケタル者
 五 徵兵令第十三條又ハ文官任用令第六條ニ依リ中學校ト同等以上ト認定セラレタル學校ヲ卒業シタル者
 六 小學校本科正教員、尋常小學校本科正教員、小學校專科正教員又ハ小學校准教員ノ免許狀ヲ有スル者
 七 教員免許令ニ依リ教員免許狀ヲ有スル者又ハ本令施行前實業學校教員資格ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル者
 八 外國ニ於テ實業學校、師範學校、中學校又ハ高等女學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者
 九 文部大臣ニ於テ適當ト認定シタル學校ヲ卒業シタル者
 第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ無試験檢定ヲ受ケルコトヲ得但シ第三號又ハ第四號ニ該當スル者ハ實習科目ノ檢定ニ限リ之ヲ受ケルコトヲ得
 一 相當ノ學歷ヲ有シ實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ五年以上檢定ヲ受ケムトスル科目ノ教授ヲ擔任シ成績優良ナル者
 二 實業補習學校教員養成所ヲ卒業シ三年以上教諭ノ職ニ在リ且檢定ヲ受ケムトスル科目ノ教授ヲ擔任シ成績優良ナル者
 三 實業學校ヲ卒業シ五年以上檢定ヲ受ケムトスル科目ニ關スル實地ノ經驗ヲ有シ技術優良ナル者
 四 五年以上實地ノ經驗ヲ有シ實業學校ニ於テ三年以上檢定ヲ受ケムトスル科目ノ實習教授ヲ擔任シ成績優良ナル者
 五 第五條第一號乃至第八號ニ該當スル者ニシテ教員無試験檢定ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル學校ヲ卒業シ成績優良ナル者
 六 實業專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ヲ卒業シ實業學校又ハ之ト同等

二九二ノ二

以上ノ學校ニ於テ三年以上檢定ヲ受ケムトスル科目ノ教授ヲ擔任シ成績優良ナル者
 第七條 試驗檢定ヲ分チテ豫備試驗及本試驗トス但シ豫備試驗ハ便宜之ヲ行ハサルコトアルヘシ
 豫備試驗ヲ施行スル科目ニ在リテハ豫備試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ本試驗ヲ受ケルコトヲ得ス
 豫備試驗ニ合格シタル者ハ次ノ試驗檢定ニ同一學科目ニ就キ出願スル場合ニ限リ豫備試驗ヲ免ス
 第七條ノ二 豫備試驗ハ願書經由ノ地方廳所在地ニ於テ之ヲ行フ前項試驗ノ施行ハ東京府ヲ除クノ外地方長官之ヲ監督ス
 本試驗ヲ行フヘキ場所ハ教員檢定委員會長ニ於テ之ヲ公告ス
 第八條 不正ノ方法ニ依リ檢定ヲ受ケムトシタル者又ハ試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ當該檢定ヲ受ケルコトヲ得ス
 檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トスルコトアルヘシ
 第九條 本令中實業學校ニハ實業補習學校ヲ包含セス
 附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第一號書式 (用紙美濃紙)
 教員檢定願



本籍地
 現住所
 受驗資格
 族稱
 氏名
 年月日生

改(甲學四七)

私儀實業學校教員志願ニ付前記學科目ニ就キ(試験、無試験)檢定相受度書類ヲ具シ此段相願候也
 年月日

文部大臣宛
 右
 氏名
 名
 年月日生

(記載注意)

- 一 族稱ハ華士族ニ限リ記載スヘシ
- 二 受驗資格ハ最主要ノ事項ノミテ記載スヘシ
- 三 出願者氏名ノ漢字ニハ振假名ヲ附スヘシ

第二號書式 (用紙美濃紙)

氏名

學業

- 一 年月日何學校何科第何學年ニ入學、年月日卒業
- 一 年月日何教員免許狀、何教員認可指令受領

年月日生

廢業

- 一 年月日何官職拜命若ハ何業ニ従事、年月日何事由ニ依リ退官職若ハ廢業

- 一 年月日何事由ニ依リ何賞若ハ何罰ヲ受ケ
- 一 年月日何事由ニ依リ何ト改氏名等

年月日

第九章 職員 第三節 教員免許、資格

改(甲學三三〇二十版)

(注意事項)

- 一 學業ハ受驗資格ニ關係アル事項ニ限リ記載スヘシ
- 二 卒業證書、教員免許狀、教員認可指令ハ別紙ニ其ノ寫ヲ添付スヘシ
- 三 業務ハ現在若ハ最近ノ經歷ニ限リ記載スヘシ
- 四 賞罰ハ經歷上特ニ重要ナル事項ニ限リ記載スヘシ
- 五 身上ニ關スル事項ハ族稱氏名ノ變更等身上ノ異動ヲ詳記スヘシ

第三號書式

本籍

氏名

年月日生

右ハ年月日本校何科第何學年ニ入學シ年月日同科ヲ卒業セシ者ナルコトヲ證明ス
 年月日

(注意)

學科ノ區別ナキ場合ニ在リテハ科名ヲ記載スルニ及ハス
 第四號書式
 證明書

本籍

氏名

年月日生

右ハ年月日本校ニ於テ施行ノ專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ス

二九二ノ三

經驗トニ由テ其原理實際ニ精通セシムルヲ要スヘシ否ラレハ假令收養々況々トシテ教育ニ從事スルモ遂ニ態度妄作ノ弊ヲ免ル、丁能ハサルナリ。一 學校管理ノ事ハ之ヲ教授ノ事業ニ比スレハ更ニ困難ナリトス故ニ教員タルモノハ常ニ人情世態ヲ審ニシ通義公道ヲ辨シ且事ヲ處スルノ方法、務ヲ理スルノ順序等ヲ諳練セサルヘカラス。一 校則ハ校内ノ秩序ヲ整肅ナラシムルニ止ラス兼テ生徒ノ德誼ヲ勸誘スルノ要具タリ故ニ教員タル者ハ能ク此旨趣ヲ體認シ以テ之ヲ執行セサルヘカラス。一 熟練懇切阻勉ノ三者ハ亦教育上ニ缺クヘカラサルノ美事タリ故ニ教員タル者能ク此三者ヲ具備シテ其事ニ從フトキハ獨リ教授ノ實效ヲ奏スルヲ得ヘキノミナラス又生徒ヲシテ不知不識此等ノ美事ニ感化シ習慣自然ノ如クナラシムルニ至ルヘシ。一 學校ヲ統率スルハ殊ニ剛毅、忍耐、威重、懇誠、勉勵等ノ諸德ニ由ルヘシ蓋シ剛毅ニアラサレハ難ニ勝ル能ハス忍耐ニアラサレハ久ナリ持スル能ハス威重ニアラサレハ人ヲ服スル能ハス懇誠ニアラサレハ衆ヲ懷ル能ハス勉勵ニアラサレハ事ヲ成ス能ハス。一 生徒若シ黨派ヲ生シ爭論ヲ發スル等ノ事アラハ之ヲ處置スル極メテ穩當詳密ニシテ偏頗ノ弊ナク苛刻ノ失ナカラシムルヲ要ス故ニ教員タル者ハ常ニ寬厚ノ量ヲ養ヒ中正ノ見ヲ持シ就中政治及宗教上ニ涉リ執拗矯激ノ言論ヲナス等ノトアルヘカラス。一 人トシテ善良ノ性行ヲ有スヘキハ言ヲ俟タスト雖モ教員タル者ニ至テハ最モ善良ノ性行ヲ有セサルヘカラス否ラサルトキハ獨リ幼童ノ德性ヲ涵養シ善行ヲ誘掖スル丁能ハサルノミナラス却テ其天賦ヲ戕賊スルニ至ルヘシ蓋シ幼童ノ中心タル至虛至沖ニシテ外物ノ爲ニ感染セラレ、コト極メテ鋭敏ナレハナリ。

● 小學校教員私宅教授及贈遺受領者ニ關スル取締方

明治二十八年四月二十七日 文部大臣訓令

一 教員タル者ノ品行ナクシテ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムヘキハ亦其職業ニ對シテ盡スヘキノ務ト謂フヘシ蓋シ品行ナクシテ其職業ノ品位ヲ貴グスル所以ニシテ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムハ其職業ノ光澤ヲ増ス所以ナリ。一 小學校教員私宅ニ於テ教授時間外ニ其生徒ヲ教授スルトキハ生徒心身ノ發達ヲ害スルノミナラス徒ラニ教授ノ標準ヲ高メ生徒管理上偏愛ノ嫌疑ヲ受クルニ至リ且教授ノ準備ヲ妨グルコト尠カラサルヘシ又教員小使等ニ於テ生徒若ハ父兄ノ贈遺ヲ受クルカ如キハ是亦生徒間ノ感情ヲ害シ一般就學ノ妨ト爲ル等教育上弊害尠カラス候條特ニ公立小學校ニ在テハ注意ヲ加ヘ嚴重ノ取締ヲ爲スヘシ。

● 女教員ノ産前産後ニ於ケル休養ニ關スル件

大正十一年九月十八日 文部省訓令第十八號

北海道廳 府 廳

女教員ノ産前産後ニ於ケル休養ニ關スル件。女教員ノ産前産後ニ就キ特ニ保護方法ヲ講スルハ頗ル必要ナルコトニシテ若シ其ノ方法宜シキヲ得サレハ母體胎兒並嬰兒ノ健康障害ヲ來スノミナラス直接間接ニ教育上不良ノ影響ヲ及ボシ國民保健上並教育上忽ニスヘカラス問題ナレハ各地方長官ハ左ニ指示スル事項ニ則リ適當ノ方法ヲ講シ此訓令ノ趣意ヲ貫徹スル様努メラレ度。一 女教員ノ産前産後ニ於ケル休養ニ關シテハ左記各號ニ依ルコト

改〔甲學一〇〕

改〔甲學一一〇〕

イ、分娩後六週間休養ヲ爲サシムルコト。ロ、醫師ノ診斷書ニ依ル分娩豫定日前二週間休養ヲ爲サシムルコト但シ特別ノ事情アル場合ニ在リテハ産婆ノ證明書ヲ以テ醫師ノ診斷書ニ代フルヲ得。ハ、前號ノ分娩豫定日ヲ超エテ尙分娩セサル場合ニハ事實分娩アルマテ休養ヲ繼續セシムルコト。ニ 幼稚園ノ保姆ニ對シテモ前項ニ準シ休養ヲ爲サシムルコト。

● 高等師範學校等卒業生服務規則

大正十四年四月二十六日 文部省令第二十九號

附則 昭和九年三月文部省令第三號改正

高等師範學校等卒業生服務規則左ノ通定ム

高等師範學校等卒業生服務規則

第一條 本令ハ高等師範學校、女子高等師範學校、臨時教員養成所、東京美術學校圖書師範科及東京音樂學校甲種師範科卒業生並ニ高等師範學校第三學年修了者ニシテ文理科大學ニ入學シタル者ニ適用ス。第二條 卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ左ノ期間引續キ教育ニ關スル職務ニ從事スル義務ヲ有ス。一、學費ノ支給ヲ受ケサル者ハ其ノ修業年限ノ二分ノ一ニ相當スル期間ニ、學費ノ支給ヲ受ケタル者ハ其ノ支給ヲ受ケタル年限ニ第一號ノ期間ヲ加ヘタル期間。

前項ノ期間ハ二學科以上ヲ修メタル場合ニ於テハ通シテ八年ヲ超エス。第二條ノ二 高等師範學校第三學年修了者ニシテ文理科大學ニ入學シタル者ハ卒業ノ日ヨリ左ノ期間引續キ教育ニ關スル職務ニ從事スル義務ヲ有ス。

一、高等師範學校在學中學費ノ支給ヲ受ケサル者ハ同校ニ於ケル修業期間ノ二分ノ一ニ相當スル期間。二、高等師範學校在學中學費ノ支給ヲ受ケタル者ハ其ノ支給ヲ受ケタル年限ニ第一號ノ期間ヲ加ヘタル期間。第三條 乃至第七條ノ規定ハ本條ノ場合ニ之ヲ準用ス。第三條 卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ一年間文部大臣ノ指定ニ從ヒ就職スルノ義務ヲ有ス但シ前條ノ義務一年未滿ナル場合ハ其ノ期間トス。一 學科ヲ卒業シタル者ニシテ更ニ他ノ學科ヲ卒業シタルモノニ在リテハ後ノ卒業證書受得ノ日ヨリ一年間前項ノ義務ヲ有ス。第四條 卒業生ニシテ特別ノ事情ニ依リ第二條ノ義務ヲ履行スルコト能ハサルモノハ其ノ理由ヲ具シ在職スル者ニ在リテハ本屬長官其ノ他ノ者ニ在リテハ出身學校長ヲ經テ義務ノ猶豫又ハ免除ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得。前項ニ依リ出願シタル者アリタルトキハ本屬長官又ハ學校長ハ事實ヲ審査シ意見ヲ付シテ願書ヲ進達スヘシ。第二條ノ義務ヲ猶豫又ハ免除シタル場合ニ於テハ第三條ノ義務ハ之ト同時ニ猶豫又ハ免除セラレタルモノトス。第五條 卒業生ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリタルトキハ第一條ニ掲ケタル學校ノ學校長ニ於テ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ學費ノ支給ヲ受ケタル者ニ對シテハ授業費及在學中支給セラレタル學費、學費ノ支給ヲ受ケタル者ニ對シテハ授業費ヲ償還セシム但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ。一、第二條又ハ第三條ノ義務ヲ履行セサル者。二、服務年限中懲戒免職又ハ免許狀撤奪ノ處分ヲ受ケタル者。前項授業費ノ金額ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ。

第六條 卒業者ニシテ服務年限中學校ニ入學セムトスルモノアルトキハ時宜ニ依リ許可スルコトアルヘシ但シ卒業者ニシテ引續キ更ニ他ノ學科又ハ文理科大學ニ入學セントスル者ハ許可ナク要セス入學ノ上直ニ届出ツヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス 本令施行前ノ卒業者ニシテ未タ服務義務ヲ了ラサルモノ、服務年數ニ關シテハ本令ノ規定ニ依ル 大正九年度以前ノ入學者ニシテ從前ノ規定ニ依リ服務義務ナキモノ、服務ハ仍從前ノ例ニ依ル

明治四十二年文部省令第二十五號高等師範學校卒業者服務規則、同年文部省令第二十七號女子高等師範學校卒業者服務規則、明治四十三年文部省令第二號東京美術學校圖書師範科卒業者服務規則、同年文部省令第三號東京音樂學校甲種師範科卒業者服務規則及明治四十五年文部省令第八號臨時教員養成所卒業者服務規則ハ之ヲ廢止ス

官吏服務紀律

明治二十年七月三十日 勅令第三十九號

第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ 第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見

符ヲ受ケルコトヲ得ス

第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知リ隠蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レズ

文官分限令

明治三十二年三月二十八日 勅令第六十二號

第一條 本令ハ親任式ヲ以テ敘任スル官、公使、秘書官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外一般ノ文官ニ適用ス 第二條 官吏ハ刑法ノ宣告、懲戒ノ處分又ハ本令ニ依ルニ非サレハ其ノ官職ヲ免レルコトヲ得ス 第三條 官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ官職ヲ免レルコトヲ得 一 不具、癡疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ 二 傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ免官ヲ願出タルトキ 三 官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ 前項第一號ニ依リ其ノ官職ヲ免スルトキハ高等官ニ在テハ文官高等懲戒委員會、判任官ニ在テハ文官普通懲戒委員會ノ審査ニ付ス 第四條 官吏ハ廢官若ハ廢職ノ場合ニ於テハ當然退官者トス 第五條 第十一條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ニ至リタルトキハ當然退官者トス 第六條 官吏ハ其ノ意ニ反シテ同等官以下ニ轉官セララルコトヲ得 第七條 文官高等懲戒委員會ニ顧問醫二人ヲ置ク 審査上必要ノ場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

見テ述ルコトヲ得 第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス 第四條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ威權ヲ濫用セズ謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ 第五條 官吏ハ職務ニ關スルトモ又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトモ聞ハス所ノ機密ヲ洩スルコトヲ禁ズ其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス 第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受ケルコトヲ得 第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス 第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接ト問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受ケルコトヲ得ス 第九條 官吏ハ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給贈遺ヲ受ケルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス 第十條 官吏ハ左ノ揭ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其獎勵ヲ受ケルコトヲ得ス 官廳ノ工事ヲ受負フ者 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受ケル者 官廳ノ補助金ヲ受ケル起業者 官廳ノ用品ヲ調達スル者 官廳ノ諸般ノ契約ヲ結フ者 第十一條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハズ所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受ケルコトヲ得ス 第十二條 官吏ハ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接ト問ハズ商業ヲ營ムコトヲ得ス 第十三條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス 第十四條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス 第十五條 浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切

改(甲學一〇〇)

改(甲學九八)

第八條 文官普通懲戒委員會ニ臨時顧問醫ヲ置ク 第九條 懲戒委員會ハ本令ニ依ル審査ヲ爲ス前豫メ顧問醫ノ意見ヲ徵スヘシ 第十條 第三條第二項ニ依ル懲戒委員會ノ審査ニ關シテハ文官懲戒令第十條第二十三條第二十四條第二十五條第二十九條乃至第三十四條ノ規定ヲ準用ス 第十一條 官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ得 一 懲戒令ノ規定ニ依リ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ 二 刑事事件ニ關シ起訴セラレタルトキ 三 官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ 四 官廳事務ノ都合ニ依リ必要ナルトキ 前項休職ノ期間ハ第一號及第二號ノ場合ニ在テハ其ノ事件ノ懲戒委員會又ハ裁判所ニ繫屬中トシ第三號及第四號ノ場合ニ在テハ高等官ニ付テハ滿二年、判任官ニ付テハ滿一年トス 第十二條 官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ高等官ニ在リテハ文官高等分限委員會、判任官ニ在リテハ文官普通分限委員會ノ諮問ヲ經ルコトヲ要ス但シ其ノ諮問ヲ經ザルコトニ付本人ノ同意アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ 第十三條 休職者ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セス其ノ他總テ在職官吏ト異ナルコトヲ得 第十四條 前條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ本屬長官ハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ復職ヲ命スルコトヲ得 第十五條 第十一條ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ給ス 第十六條 免官ハ勅任官ニ在テハ内閣總理大臣、委任官ニ在テハ内閣總理大臣ヲ經テ本屬長官奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ 休職ハ勅任官ニ在テハ内閣總理大臣奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ委任官ニ在テハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ本屬長官之ヲ命ス其ノ復職ヲ命スルト

キ亦同シ

附則

第十五條 本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

官吏非職條例、明治二十三年勅令第二百八十六號其ノ他從前ノ命令ニシ

テ本令ノ規定ニ抵觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十六條 本令施行前官吏非職條例又ハ明治二十三年勅令第二百八十六號

ニ依リ非職又ハ休職ヲ命セラレ未タ滿期ニ至ラサル者ハ本令第十一條第

一項第四號ノ休職者ニ關スル規定ヲ適用ス但シ本令第十三條ハ此ノ限ニ

在ラス

第十七條 本令中休職トアルハ他ノ法令ニ於テ規定スル非職ト看做ス

附則 (昭和七年勅令第二百五十三號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ第十一條第一項第二號ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレ本令施行ノ際現

ニ休職中ナル者ニ付テハ同號ノ規定ノ改正ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

公立學校職員分限令

大正四年一月二十七日 勅令第三號

沿革 大正一〇年四月勅令第九〇號、一一年八月第三六五號、一二年八月第三八〇號、一

三年四月第六八號、昭和三年五月第八六號、一〇年四月第五二號改正

公立學校職員分限令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

公立學校職員分限令

第一條 本令ハ公立ノ大學專門學校高等學校師範學校中學校高等女學校實

業學校青年學校育學校及聾啞學校ノ職員ニシテ勅任官、奏任官又ハ判任

官ノ待遇ヲ受ケル者ニ適用ス

第二條 公立學校職員ハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依ル

ニ非サレハ其ノ職ヲ免セラレコトナシ

第三條 公立學校職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ職ヲ免スルコト

ヲ得

一 不具、癡疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ハ

サルトキ

二 傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜

ニ因リ免職ヲ願出テタルトキ

三 學校編制ノ變更ニ因リ過員チ生シタルトキ

前項第一號ノ規定ニ依リ其ノ職ヲ免スルトキハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇

ヲ受ケル者ニ在リテハ文官高等懲戒委員會、判任官ノ待遇ヲ受ケル者ニ

在リテハ文官普通懲戒委員會ノ審査ニ付ス

第四條 公立學校職員ハ廢職若ハ廢校ノ場合又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ

タル場合ニ於テハ當然退職者トス

第五條 第八條第一項第三號乃至第五號ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレ又ハ

第八條第二項ノ規定ニ依リ休職ト爲リ滿期ニ至リタルトキハ當然退職者

トス

第六條 公立學校職員ハ其ノ意ニ反シテ待遇ヲ下シ又ハ俸給ヲ減セラレ

コトナシ

第七條 文官分限令第九條及第十條ノ規定ハ公立學校職員ニ關シ之ヲ準用

ス

第八條 公立學校職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ

得

一 懲戒事件ニ關シ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ

二 刑事事件ニ關シ告訴又ハ告發セラレタルトキ

三 學校編制ノ變更其ノ他ノ事由ニ因リ過員チ生シタルトキ

四 教員養成ヲ目的トスル官立府縣立ノ學校ニ入學スルトキ

五 教育上又ハ事務上必要ナルトキ

公立學校職員ニシテ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタ

ル者ハ當然休職者トス但シ師範學校訓練ニシテ兵役法第十條ノ規定ニ依

ル短期現役ニ服スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 休職ノ期間ハ前條第一項第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ其ノ事

改(甲學一五六)

改(甲學一五五)

公立學校職員ノ外國出張手續勵

昭和七年七月七日 發給三〇二號秘書課長通牒

公立學校職員ノ外國出張ニ關シテハ大正六年八月二十八日付發給第一七〇

號通牒(別紙參照)ニ依リ夫々御手續相成リ居ルコト存セラルルモ近來勸

モスレバ其ノ手續ヲ了セズ當該地方長官限リ出張ヲ命セラレタルコト後日

ニ至リテ發見セラレ爲ニ旅券ノ請求或ハ其ノ查證要求等ニ當リテモ行違ヲ

生シ事務上支障ヲ來シタルコト抄シトセズ斯ノ如キハ洵ニ遺憾ノ儀ニ付今

後遲滞ナク御手續相成様致度依命此段通牒ス

追テ本件ニ關スル上申書(判任官ノ待遇ヲ受ケル者ニツイテハ履歷書壹

通添付ノコト)ハ少クトモ三週間以前ニ當省到着ノ豫定ヲ以テ御進達相

成度爲念申添フ

尙官吏同待遇者ノ海外出張ニ關スル閣議決定寫御參考ノ爲添付ス

(別紙)

公立學校、圖書館並地方潤候所職員ノ外國出張ニ關シテハ高等官ノ待遇

ヲ受ケル者ニ在リテハ文部大臣ニ稟申可相成判任官ノ待遇ヲ受ケル者ニ

在リテハ文部大臣ニ伺出ノ上貴官ニ於テ出張可被命筋ニ有之候間御承知

相成度

尙公立學校等職員ノ私費外國旅行ハ詮議不相成儀ニ有之候處今般内閣

告示ノ暑中賜暇ノ期間ニ限リ文部大臣ニ出願許可ヲ受ケレハ差支無キコ

トニ決定相成候條併テ御了知相成度依命此段及通牒候也

追テ本文出張又ハ旅行ニ關シテハ左記要項ヲ具申相成様致度此段申添

候

一、出張又ハ旅行ノ目的

公立學校職員又ハ小學校職員等ニシテ公立學校職員分限令第八條第一項第

四號又ハ小學校令施行規則第二百二十二條第三號ニ依リ休職ヲ命セラレタル

者引續キ他ノ教員養成ヲ目的トスル官立府縣立ノ學校ニ入學ノ場合其ノ休

職方ニ付往々問合ノ向有之處右休職ハ繼續ノモノトシテ取扱可然コトニ省

議決定セルニ付御了知相成度

追テ奏任待遇以上ノモノニシテ休職繼續ノ場合ハ旨ヲ具シテ上申相成度

教員養成ヲ目的トスル官立府縣立ノ學校入學者休職ニ關スル件

昭和四年十月九日 發給三二八號文部大臣官房秘書課長通牒

各地方長官宛

公立學校職員又ハ小學校職員等ニシテ公立學校職員分限令第八條第一項第

四號又ハ小學校令施行規則第二百二十二條第三號ニ依リ休職ヲ命セラレタル

者引續キ他ノ教員養成ヲ目的トスル官立府縣立ノ學校ニ入學ノ場合其ノ休

職方ニ付往々問合ノ向有之處右休職ハ繼續ノモノトシテ取扱可然コトニ省

議決定セルニ付御了知相成度

追テ奏任待遇以上ノモノニシテ休職繼續ノ場合ハ旨ヲ具シテ上申相成度

二、出張又は旅行地及其ノ日程大要
三、出張ニ在リテハ其ノ旅費ノ用途

官吏同待遇者ノ海外出張ニ關スル閣議決定寫

- 記
- 一、親任官ノ海外出張ハ主務大臣朝鮮總督臺灣總督並關東長官ノ奏請ニヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズルコト
 - 一、勅任官ノ海外出張ハ從前特ニ委任セラレタル場合ヲ除クノ外内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ主務大臣朝鮮總督臺灣總督並關東長官ニ於テ之ヲ命ズルコト
 - 一、奏任官以下ノ海外出張ハ主務大臣朝鮮總督臺灣總督並關東長官ニ限リ之ヲ命ズルコト
 - 一、官吏待遇者海外出張ハ各其ノ本官ノ例ニヨルコト
 - 一、囑託雇員以下ノ海外出張ハ奏任官以下ノ例ニ依ルコト

第五節 賞罰

● 小學校教育效績狀規程

明治三十八年六月二十一日
文部省令第十一號

沿革 明治四十五年五月文部省令第一二號改正
小學校教育效績狀規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一條 小學校教員ニシテ其ノ效績顯著ナル者ハ文部大臣之ヲ選獎ス
市町村長、町村學校組合長其ノ他市町村若ハ之ニ準スヘキモノノ吏員又ハ學務委員ニシテ小學校ノ教育ニ關シ效績顯著ナル者ハ亦之ヲ選獎スルコトアルヘシ
- 第二條 小學校ノ學校醫ニシテ學校衛生ニ關シ效績顯著ナル者亦前項ニ準ス
- 第三條 前條ノ選獎ハ教育效績狀ヲ授與シテ之ヲ行ヒ官報ヲ以テ之ヲ公示ス
- 第四條 第一條ノ效績ヲ審査スル爲メ文部省內ニ委員ヲ置ク

● 小學校程度ノ實業教育ニ關シ效績顯著ナル者ニ小學校教育效績狀規程準用

明治四十三年四月二十九日
文部省令第十號

小學校教育效績狀規程ハ小學校程度ノ實業教育ニ關シ效績顯著ナル者ニ之ヲ準用ス

改(甲學一一五)

● 在外邦人小學校教育效績狀規程

昭和四年十一月十五日
外務省令第八號

在外邦人小學校教育效績狀規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一條 在外邦人小學校教員ニシテ其ノ效績顯著ナル者ハ外務大臣之ヲ選獎ス居留民團又ハ之ニ準ズベキモノノ役員、吏員又ハ學務委員ニシテ小學校ノ教育ニ關シ效績顯著ナル者及小學校ノ學校醫ニシテ學校衛生ニ關シ效績顯著ナル者ハ亦之ヲ選獎スルコトアルベシ
- 第二條 前條ノ選獎ハ效績狀ヲ授與シテ之ヲ行ヒ官報ヲ以テ之ヲ公示ス
- 第三條 在外邦人小學校教員ニシテ小學校令第四十九條ニ依リ其ノ有スル免許狀效力ヲ失ヒ若ハ免許狀ヲ褫奪セラレタルトキハ教育效績狀ヲ返納セシメ官報ヲ以テ之ヲ公示ス其ノ他ノ者ニシテ公權ヲ剝奪セラレタルトキ亦同シ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 學校職員表彰規程

昭和九年十一月三十日
文部省令第十號

沿革 昭和一〇年四月文部省令第一二號改正
學校職員表彰規程左ノ通定ム

- 第一條 學校職員ニシテ自己ノ危難ヲ顧ミズシテ職務ニ盡シ其ノ所爲教育者ノ總體ト爲スベキ者アルトキハ文部大臣之ヲ表彰ス幼稚園ノ職員ニ付亦同シ
- 第二條 表彰ハ賞狀及賞金ヲ授與シテ之ヲ行ヒ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

改(甲學一一六)

表彰セラルベキ者ノ所爲特ニ卓越セリト認メタルトキハ顯彰牌ヲ併セ授與ス

- 第三條 表彰セラルベキ者表彰前ニ死亡シタルトキハ賞狀、賞金及顯彰牌ハ之ヲ其ノ遺族ニ授與シ追彰ス
- 遺族ハ其ノ家ニ在リ親族ニシテ左ノ順序ニ從フ但シ同順位者間ニ在リテハ其ノ親等ノ近キ者ヲ先ニシ同親等者間ニ在リテハ男ヲ女ヨリ、長ヲ幼ヨリ先ニス
- 一 配偶者
- 二 直系尊屬
- 三 直系尊屬
- 四 兄弟姉妹
- 前項ニ掲グル遺族ナキトキハ本人ノ弟祭ヲ行フ者ニ之ヲ授與スルコトヲ得
- 第四條 表彰ヲ受ケタル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ有スル教員免許狀ヲ褫奪セラレタルトキハ賞狀及顯彰牌ヲ返還セシムルコトアルベシ
- 第五條 本令ニ依リ表彰ヲ受ケベキ者アリト認メタルトキハ地方長官ノ監督ニ屬スル者ニ在リテハ地方長官、其ノ他ノ者ニ在リテハ學校ノ長ニ於テ文部大臣ニ具情スベシ
- 第六條 第一條ノ事蹟ヲ審査スル爲メ文部省內ニ委員ヲ置ク

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和九年九月以後ノ事蹟ニ付之ヲ適用ス

● 文官懲戒令

明治三十二年三月二十八日
勅令第六十三號

沿革 明治三十五年勅令第二二二號、三十四年一月第二二六號、三十八年二月第二七九號、四〇年四月第一〇七號、四二年二月第五號、四三年九月第四〇四號、大正一一年三月第一二〇號、一三年一月第四四四號、昭和九年一月第三八八號改正
除樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官懲戒令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官懲戒令

第一章 總則

第一條 親任式ヲ以テ敘任スル官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外

官吏ハ本令ニ依ルニ非サレハ懲戒ヲ受クルコトナシ

第二條 官吏ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二 職務ノ内外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第三條 懲戒ハ左ノ如シ

一 免官

二 減俸

三 譴責

第四條 免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ官職ヲ失ヒタル日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス

免官ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キ者ハ位記ヲ返上セシム

第五條 減俸ハ一月以上一年以下俸月割額若ハ月俸ノ三分一以下ヲ減ス

第六條 勅任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ内閣總理大臣之ヲ奏請シ奏任官ノ免官ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ内閣總理大臣ヲ經テ本局長官之ヲ奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

奏任官ノ減俸及判任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ニ依リ本局長官之ヲ行フ

譴責ハ本局長官之ヲ行フ

一 其ノ官職ヲ失ヒタルトキ
二 委員會所在地以外ニ任所ヲ轉シタルトキ

第十六條 委員會ニ幹事一人ヲ置ク

第十七條 幹事ハ高等官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第十八條 幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ委員會ノ議事ヲ準備シ庶務ヲ統理ス

第十九條 委員會ニ書記三人ヲ置ク

第二十條 書記ハ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十一條 書記ハ幹事ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十二條 文官普通懲戒委員會ハ左ノ各官廳ニ之ヲ置ク

一 内閣

二 樞密院

三 各省

四 朝鮮總督府

五 臺灣總督府

六 關東局

七 樺太廳

八 南洋廳

九 會計検査院

十 行政裁判所

十一 辨認廳

十二 北海道廳

十三 府縣

十四 朝鮮總督府道

十五 臺灣總督府州

第九章 職員 第五節 賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

賞罰

第七條 懲戒ニ付セラレヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ對シ懲戒委員會ヲ開クコトヲ得ス

懲戒委員會ノ議決前懲戒ニ付スヘキ者ニ對シ刑事訴訟ノ始マリタルトキハ事件ノ判決ヲ終ハルマテ懲戒委員會ノ開會ヲ停止ス

第二章 懲戒委員會

第一款 總則

第八條 懲戒委員會ヲ分テ文官高等懲戒委員會及文官普通懲戒委員會トス

第九條 文官高等懲戒委員會ハ高等官ノ懲戒ヲ議決シ文官普通懲戒委員會ハ判任官ノ懲戒ヲ議決ス

第二款 文官高等懲戒委員會

第十條 文官高等懲戒委員會ハ委員長一人委員六人ヲ以テ組織ス

第十一條 委員長ハ樞密顧問官ノ中ヨリ委員ハ行政裁判所長官、勅任行政裁判所評定官、勅任判事及其ノ他ノ勅任文官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第十二條 委員會ニ豫備委員六人ヲ置キ前項ノ例ニ依リ之ヲ命ス

第十三條 委員會ハ委員長及委員ヲ併セ五人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十四條 委員會ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

第十五條 委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

第十六條 委員中事故アルトキ又ハ關員アルトキハ委員長ハ豫備委員ノ中ヨリ代理ヲ命ス

第十七條 委員及豫備委員ノ任期ハ三年トス

第十八條 委員及豫備委員中關員アリテ補闕ノ爲任命セラレタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス

第十九條 委員長及委員ハ左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ免ス

一 貴族院事務局

二 衆議院事務局

三 前項ノ外各省大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ所轄官廳ニ文官普通懲戒委員會ヲ置クコトヲ得

第二十三條 委員長ハ各官廳ノ長官ヲ以テ之ニ充ツ但シ内閣ニ在リテハ法制局長官、樞密院ニ在リテハ書記官長、各省ニ在リテハ次官、朝鮮總督府ニ在リテハ政務總監、臺灣總督府ニ在リテハ總務長官、關東局ニ在リテハ總長ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ二人乃至六人トシ當該官廳高等官ノ中ヨリ本局長官之ヲ命ス但シ内閣ニ在テハ賞勳局、法制局及内閣所屬高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

特別ノ事情アルトキハ上級官廳ノ高等官ヲ以テ下級官廳ノ委員ニ充ツルコトヲ得

第二十四條 委員會ハ委員長及委員二人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十五條 委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

第二十六條 委員會ニ書記二人ヲ置ク

第二十七條 書記ハ委員長所屬官廳ノ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十八條 書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三章 懲戒手續

第二十九條 本局長官ハ所部ノ官吏ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證據ヲ具ヘ書面ヲ以テ懲戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

第三十條 前條ノ要求アリタルトキハ委員長ハ期日ヲ定メテ委員會ヲ召集スヘシ

委員會ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人所屬官廳ヨリ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

改〔甲學一五〕

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

- 第三十一條 委員會ニ於テ議決ヲ爲シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ本局長官ニ覆申スヘシ
- 第三十二條 委員長及委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス
- 第三十三條 委員會ノ審査手續ハ委員會之ヲ定ム
- 附則
- 第三十四條 高等官候補ハ高等官ニ準シ判任官見習ハ判任官ニ準シ本令ヲ適用ス
- 第三十五條 本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件

明治四十年五月一日 勅令第七十七號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官吏待遇者ノ懲戒ニ關シテハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外高等官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用シ判任官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニハ同令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

神職懲戒令及明治三十二年勅令第三百四十九號ハ之ヲ廢止ス

第六節 俸給旅費及諸給

市町村立小學校教員俸給ニ關スル件

明治三十年一月四日 勅令第二號

沿革 明治四〇年五月勅令第二一六號改正

朕市町村立小學校教員俸給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 市町村立小學校組合及其ノ區ハ第三條ノ月俸平均額ニ基キ小學校ノ教員定數ニ應スル金額ヲ支出スルノ義務アリ但シ市町村立小學校組合及其ノ區ハ土地ノ情況ニ依リ本項ノ義務額ヲ超エタル金額ヲ支出スルコトヲ得

第二條 地方長官ハ前條ノ金額以內ニ於テ各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムヘシ

地方長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ市町村立小學校組合及其ノ區ノ同意ヲ得テ前條ノ義務額ヲ超エ各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムルコトヲ得但シ

改(甲學一五)

改(甲學九〇)

第八條 本令中町村立小學校組合及其ノ區ニ關スル規定ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學校設置區域ニ適用シ町村長ニ關スル規定ハ島司郡區長戸長又ハ之ニ準スヘキ者ニ適用ス

本令中市及市參事會ニ關スル規定ニシテ特ニ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ適用スルノ必要アルトキハ文部大臣之ヲ定ム此ノ場合ニ於テ市參事會ノ職務ハ區長戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

附則

第九條 本令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第六十條第二項ハ本令施行ノ日ヨリ削除ス

市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル件

大正八年七月十四日 勅令第三百四十號

朕市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他ノ諸給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方長官ハ當分ノ内明治三十年勅令第二號ノ規定ニ拘ラス市町村、市町村立小學校組合、町村立小學校組合又ハ學區ニ對シ市町村立小學校教員ノ俸給ニ關シ必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ハ市町村立小學校教員ノ旅費其ノ他諸給與ニ關シ之ヲ準用ス

市制又ハ町村制ヲ施行セサル地域ニ於ケル市町村ニ準スヘキ公共團體及其ノ組合ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ市町村、市町村立小學校組合又ハ町村立小學校組合ト看做ス

附則

高等小學校	男	十	二	九	四
	女	十	四	七	四
尋常小學校	男	十	七	七	四
	女	八	四	六	四

第七條 本令施行ノ際既ニ義務額ヲ超エテ教員俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ第二條ノ手續ヲ經タルモノト同視ス

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

各地方長官

市町村立小學校教員特別加俸支給ニ關スル件

今般某縣ヨリ標記ノ件ニ關シ左記申渡ノ照會アリタルニ對シ乙號ノ通回答致シタルニ付御了知相成度

甲號

記

一、尋常高等小學校ノ尋常科ニ勤務スル本科正教員ニ給スヘキ特別加俸ニ關シテハ明治三十五年二月十日丑普甲三九三七號御通牒及同年七月二十八月寅普甲二五〇號岐阜縣御回答等有之候得共本縣ノ如ク本科正教員及准教員ノ任用辭令ニ「尋常本科勤務」高等本科勤務」又ハ「補助勤務」等ヲ命スル旨併テ發令スル場合ハ之等ニ特別加俸ヲ給與シ得ルハ尋常本科勤務ヲ命シタル者ニ限ルヤ或ハ事實尋常科ノ教授ヲ擔當スル者例ハ高等本科勤務ノ學校長ヲ兼スル本科正教員カ高等科ノ一學級ヲ擔任スル外尋常五、六學年ノ修身科ヲ教授シ又ハ小學校令施行規則第三十五條第二項ニ依リ學級數以外ニ置キタル本科正教員、同條第四項ニ依リ任命セラレタル准教員カ高等科ト尋常科トニ互リ教授ヲ擔當スル場合等コレ等ニ加俸令第七條第三項ニ依リ特別加俸ヲ支給スルハ差支ナキヤ

二、尋常高等小學校ニ勤務スル專科正教員ニ加俸令第七條第三項及第四項ノ特別加俸ヲ給與シ得ルハ小學校令施行規則第三十七條ニ依リ置キタル者ニ限ルヤ或ハ同條第三十五條第二項ノ事由ヲ兼テ一名ノ專科正教員ヲ置キ之ニ尋常科及高等科ノ專科教授ヲ擔當セシメ前記ノ特別加俸ヲ支給スルハ差支ナキヤ

三、前二號各後段ノ支給差支ナシトスレハ之ニ依リ一旦特別加俸ヲ受ケタル者其ノ後尋常科ノ教授擔當ヲ廢スルトキハ特別加俸モ亦自然消滅シ隨テ加俸令第七條第四項ニ依リ勤続年數ハ其ノ尋常科教授擔當ノ繼續期間

公立大學職員俸給令

大正八年八月十四日 勅令第三百七十八號

大正九年八月廿三日第二八號、一三年四月第七六號、昭和五年一月第一八九號、六年五月第一一六號改正

朕公立大學職員俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

公立大學職員俸給令

第一條 公立大學ノ大學總長、大學長、教授、助教授、幹事、學生主事及附屬醫院藥局長ノ年俸ハ別表第一表ニ依ル

第二條 公立大學ノ助手、書記、學生主事補、附屬醫院藥劑手及附屬醫院看護長ノ月俸ハ別表第二表ニ依ル

第三條 勅任官又ハ委任官ノ待遇ヲ受ケル公立大學ノ職員ニシテ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ功績アル者ニハ六百圓以内ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

第四條 教授及助教授ニハ學科ノ種類職務ノ繁閑ニ從ヒ職務俸ヲ給スルコトヲ得

教授ノ職務俸ハ年額千九百五十圓以下、助教授ノ職務俸ハ年額千二百五十圓以下トス但シ職務俸ノ額ハ本俸ト合シテ五千三百五十圓ヲ、本俸及年功加俸ト合シテ五千九百五十圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條 助手、書記、附屬醫院藥劑手又ハ附屬醫院看護長ニシテ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ事務熟練優等ナル者ニハ特ニ月額百八十圓迄ヲ給スルコトヲ得

第六條 公立大學ノ職員ト他ノ公立大學又ハ其ノ他ノ公立學校ノ職員ト兼スル者ニハ其ノ俸給ヲ分割シテ關係學校ノ經費中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得

ニ就テノミ計算スヘキモノト解スヘキト

一、支給シ可然
二、支給シ可然
三、御意見ノ通

官立大學教官ノ職務俸ニ關スル件

大正十二年八月三十日 勅令第三百九十二號

昭和六年五月勅令第一〇七號改正

朕官立大學教官ノ職務俸ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官立大學ノ教授及助教授ニハ本俸ノ外學科ノ種類職務ノ繁閑ニ從ヒ俸給トシテ職務俸ヲ給スルコトヲ得

教授ノ職務俸ハ年額千九百五十圓以下、助教授ノ職務俸ハ年額千二百五十圓以下トス但シ職務俸ノ額ハ本俸ト合シテ五千三百五十圓ヲ、本俸及年功加俸ト合シテ五千九百五十圓ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和六年勅令第一〇七號改正)

本令ハ昭和六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ職務俸ヲ受ケタル者ハ其ノ十分ノ九ノ額ヲ受ケ但シ所定ノ最高限ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ依リ計算スル金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

改(甲學九〇)

公立學校職員俸給令第五條、第十條乃至第十三條、第十五條乃至第十八條ノ規定ハ公立大學ノ職員ニ關シ之ヲ準用ス

附則 公立大學豫科ノ教授及助教授ニ付テハ本令ヲ適用セス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正九年勅令第二百二十八號)

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケタル者ハ現ニ受ケル本俸及臨時手當ノ合計額ニ相當スル級俸ヲ受ケルモノトス但シ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受ケルモノトス

從前ノ規定ニ依リ一級俸ヲ受ケタル在職年數ハ之ヲ本令ニ依リ一級俸ヲ受ケタル在職年數ト看做ス但シ從前ノ規定ニ依リ一級俸ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額カ本令ニ依リ改正俸給ノ二級俸以下ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二項ノ規定ニ依リ從前ノ規定ニ依リ一級俸ヲ增額シタル俸給ヲ受ケタル在職年數ニ付亦前項ニ同シ

第二項ノ規定ニ依リ金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

附則 (昭和六年勅令第一〇七號改正)

本令ハ昭和六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケタル者ニ付テハ昭和六年勅令第三百九十二號附則第二項乃至第九項ノ規定ヲ準用ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ職務俸ヲ受ケル教授及助教授ハ其ノ十分ノ九ノ額ノ職務俸ヲ受ケ但シ所定ノ最高限ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ依リ計算スル金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

附則 (昭和六年勅令第五十五號)

本令ハ昭和六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケル高等官待遇ノ職員ニ付
 テハ昭和六年勅令第九十九號附則第三項乃至第七項ノ規定ヲ準用ス
 本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ左表上欄ノ俸給ヲ受ケル判任官待遇
 ノ職員ハ各其ノ相當下欄ノ俸給月額又ハ之ニ相當スル教俸ヲ受ケ

從前ノ俸給(月額)	改正 俸給 (月 額)
百六十圓ヲ超ユルモ	現ニ受ケル額ト百六十圓トノ差額ノ十分ノ 九ニ百三十一圓ヲ加ヘタル額但シ百八十圓 ヲ超ユルコトヲ得ズ
百六十圓	百四十八圓
百六十圓未滿ニシテ 百四十圓ヲ超ユルモ	現ニ受ケル額ト百四十圓トノ差額ノ十分ノ 九ニ百三十一圓ヲ加ヘタル額但シ百四十八 圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
百四十圓	百三十一圓
百四十圓未滿ニシテ 百三十圓ヲ超ユルモ	現ニ受ケル額ト百三十圓トノ差額ニ百二十 圓ヲ加ヘタル額但シ百三十一圓ヲ超ユル コトヲ得ズ
百三十圓	百二十二圓
百三十圓未滿ニシテ 百二十圓ヲ超ユルモ	現ニ受ケル額ト百二十圓トノ差額ニ百十四 圓ヲ加ヘタル額但シ百二十二圓ヲ超ユルコ トヲ得ズ
百二十圓	百十四圓

第一表

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

改〔甲學九〇〕

三〇四ノ二

百二十圓未滿ニシテ 百十圓ヲ超ユルモ	百十圓	百五十圓
現ニ受ケル額ト百十圓トノ差額ニ百五圓ヲ 加ヘタル額但シ百十四圓ヲ超ユルコトヲ得 ズ	百五圓	現ニ受ケル額ト百圓トノ差額ニ九十七圓ヲ 加ヘタル額但シ百五圓ヲ超ユルコトヲ得ズ 七圓ヲ超ユルモ

前項ノ規定ニ依リ計算スル俸給金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム
 本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ月額九十圓以下ノ俸給ヲ受ケル判任
 官待遇ノ職員ハ定額ノ改正ニ拘ラズ從前ノ俸給ヲ受ケ
 從前ノ規定ニ依リ俸給ノ各級ニ於テ經過シタル在職年數ハ之ヲ改正俸給
 ノ各級ニ於ケル在職年數ト看做ス
 從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケル職員ハ第二項乃至第五項ノ規定ニ依リ改
 正俸給ニ相當セザル俸給ヲ受ケルルキハ之ヲ從前ノ級俸ト同等ノ改正級
 俸ヲ受ケルモノト看做ス
 前項ノ規定ハ級俸ニ相當セザル俸給ヲ受ケル職員ノ級俸ニ之ヲ準用ス
 本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケル判任官待遇ノ職員ハ本
 令ニ依リ其ノ俸給額ニ變更アルモ從前ノ待遇等級ヲ降ルコトナキモノト
 ス
 (注) 昭和六年勅令第九十九號ハ高等官官俸給令中改正ナリ

改〔甲學一一六〕

第二表

大學總長	大學長	教授	附屬醫院藥局長	助教授	幹事	學生主事	功手	書記	學生主事補	附屬醫院藥劑手	附屬醫院看護長
六、二〇〇圓	五、八〇〇圓	四、〇五〇	四、〇五〇	二、七七〇	三、四〇〇	三、四〇〇	一級	一四五	一四五	一四五	一四五
五、三〇〇圓	四、九二〇	三、六六〇	三、六六〇	二、四二〇	三、〇五〇	三、〇五〇	二級	一三五	一三五	一三五	一三五
五、三〇〇圓	四、六五〇	三、四〇〇	三、四〇〇	二、一五〇	二、七七〇	二、七七〇	三級	一二五	一二五	一二五	一二五
四、〇〇〇圓	三、〇五〇	三、〇五〇	三、〇五〇	二、〇〇〇	二、四二〇	二、四二〇	四級	一一五	一一五	一一五	一一五
四、〇〇〇圓	二、七七〇	二、七七〇	二、七七〇	一、八二〇	二、一五〇	二、一五〇	五級	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五
四、〇〇〇圓	二、四二〇	二、四二〇	二、四二〇	一、六五〇	一、八二〇	一、八二〇	六級	九五	九五	九五	九五
四、〇〇〇圓	二、一五〇	二、一五〇	二、一五〇	一、四七〇	一、六五〇	一、六五〇	七級	八五	八五	八五	八五
四、〇〇〇圓	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、三〇〇	一、四七〇	一、四七〇	八級	七五	七五	七五	七五
四、〇〇〇圓	一、八二〇	一、八二〇	一、八二〇	一、一三〇	一、四七〇	一、四七〇	九級	六五	六五	六五	六五
四、〇〇〇圓	一、六五〇	一、六五〇	一、六五〇	一、〇五〇	一、三〇〇	一、三〇〇	十級	六〇	六〇	六〇	六〇
四、〇〇〇圓	一、四七〇	一、四七〇	一、四七〇	九七〇	一、一三〇	一、一三〇	十一級	五五	五五	五五	五五
四、〇〇〇圓	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	九七〇	一、〇五〇	一、〇五〇	十二級	五〇	五〇	五〇	五〇
四、〇〇〇圓	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	九七〇	九七〇	九七〇	十三級	四五	四五	四五	四五
四、〇〇〇圓	九七〇	九七〇	九七〇	九七〇	九七〇	九七〇	十四級	四〇	四〇	四〇	四〇

公立學校職員俸給令

明治三十六年三月二十八日
 勅令第六十六號

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

號、六年一月第八號、八年三月第二七號、八月第三七九號、九年八月第三二六號、
 一〇年二月第一六號、四月第八八號、七月第三一九號、一二年八月第三七九號、一
 四年四月第一四八號、昭和三年五月第八五號、五年一〇月第一九〇號、六年五月第
 一五號、一〇年四月第五〇號改正
 朕公立學校職員俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

三〇四ノ三

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

公立學校職員俸給令

- 第一條 本令ニ於テ職員ト稱スルハ公立ノ專門學校、大學豫科、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、青年學校、盲學校及聾啞學校ノ職員ニシテ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル者ヲ謂フ
- 第二條 勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル專門學校、實業專門學校、大學豫科及高等學校ノ職員ノ年俸ハ第一號表ニ依ル
- 第三條 高等科ヲ置ク高等女學校ノ學校長、教授及奏任官ノ待遇ヲ受クル教諭ノ年俸ハ第二號表ニ依ル
- 第四條 奏任官ノ待遇ヲ受クル高等學校尋常科、高等學校豫科、師範學校、中學校、高等女學校、高等科ヲ置ク高等女學校、實業專門學校、青年學校、盲學校及聾啞學校ノ職員ノ年俸ハ第三號表ニ依ル
- 第五條 判任官ノ待遇ヲ受クル職員ノ月俸ハ第四號表ニ依ル
- 第六條 官吏ニシテ在官ノ儘職員ニ任セラレタル者ノ俸給ハ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得
- 第七條 一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ特ニ功勞アル職員ニハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ六百圓以内、判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ四百圓以内ノ加俸ヲ給スルコトヲ得
- 第八條 教員ニシテ舍監、主事ヲ兼ムル者ニハ相當ノ加俸ヲ給スルコトヲ得
- 第九條 教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應ジ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得
- 第十條 二枚以上ノ職員ヲ兼ムル者ニハ其ノ俸給ヲ分割シテ關係學校ノ經費中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得
- 第十一條 陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル職員ニハ其ノ間俸給ヲ支給セス但シ其ノ俸給額職員ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ支給スルコトヲ得

額ヲ給スルコトヲ得

- 第十一條 俸給ハ毎級在職一年以上ニ至ラザレハ増給スルコトヲ得ス但シ奏任官ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ年俸千三百圓以下ノ者及判任官ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ月俸七十五圓以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十二條 名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ轉任スル場合ニ於テ支給スル俸給ハ前條ノ俸給額ニ相當スル俸給以下トス若シ相當額ナキトキハ其ノ最モ近キ上級ノ俸給以下トス但シ前職ノ等級在職一年ヲ踰エタル者ニ在リテハ一級ヲ進ムルコトヲ得
- 第十三條 前項ノ規定ハ年俸千三百圓以下又ハ月俸七十五圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス
- 第十四條 退職後一年以内ニ再任セラレル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス
- 第十五條 前項ノ場合ニ於テ其ノ前職等級在職一年ヲ踰エタル者ハ前職ノ等級ニ一級ヲ進ムルコトヲ得
- 第十六條 前二項ノ規定ハ年俸千三百圓以下又ハ月俸七十五圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス
- 第十七條 退職後一年以内ニ名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ任セラレル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス
- 第十八條 前三條ノ俸給額ニハ加俸ヲ算入セス
- 第十九條 休職者ニハ其ノ休職中俸給三分ノ一ヲ給ス但シ教員養成ヲ目的トスル官立府縣立ノ學校ニ入學スル場合ニ於テ休職中俸給全額ヲ給スル者ニ付テハ之ヲ給セス又ハ三分ノ一以下ヲ給スルコトヲ得
- 第二十條 師範學校調導ニシテ兵役法第十條ノ規定ニ依リ短期現役ニ服スル者ハ其ノ服役中俸給ノ三分ノ二ヲ減ス
- 第二十一條 特別ノ事情ニ依リ第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ其ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ支給スルコトヲ得

改(甲學一六)

改(甲學九〇)

ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條 高等官官等俸給令第二十三條乃至第二十九條ノ規定ハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル職員ニ關シ判任官俸給令第十三條及第十四條ノ規定ハ判任官ノ待遇ヲ受クル職員ニ關シ之ヲ準用ス

附則

第十九條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸給ヲ受ケ

現ニ本令ニ規定スル俸給額ニ相當セサル俸給ヲ受クル者ハ當分ノ内現在ノ儘支給スルコトヲ得但シ其ノ者ノ取扱ニ關シテハ其ノ俸給ニ最モ近キ上級ノ俸給ヲ受クルモノト看做ス

附則

(大正六年一月勅令第八號)

本令ハ大正六年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

(大正八年勅令第二十七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ師範學校又ハ實業學校ノ調導ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸給ヲ受クルモノトス但シ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸給ナキトキハ從前ノ俸給ヲ受クルモノトス

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

第九條

職員

第六節 俸給旅費及諸給

附則 (大正九年勅令第三百二十六號)

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ハ現ニ受クル本俸及臨時手當ノ合計額ニ相當スル等級俸給ヲ受クルモノトス但シ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受クルモノトス

大正九年七月三十一日現在ニ於テ休職中ノ者ニ付テハ其ノ在職最終ノ本俸ニ付前項ノ規定ヲ準用ス

從前ノ規定ニ依リ一級俸ヲ受ケタル在職年數ハ之ヲ本令ニ依リ一級俸ヲ受ケタル在職年數ト看做ス但シ從前ノ規定ニ依リ一級俸ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額カ本令ニ依リ改正俸給ノ二級俸以下ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

從前ノ規定ニ依リ加俸ヲ受クル者ハ其ノ本俸トシテ本令ニ依リ一級俸ヲ受ケタル金額ヨリ本令ニ依リ一級俸ノ金額ヲ控除シタルモノヲ受ケ但シ從前ノ本俸及加俸ノ合計額ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額カ本令ニ依リ一級俸以下ナルトキハ本俸トシテ其ノ金額ニ相當スル等級俸ヲ受ケ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受ケ

第二項但書及前項但書ノ規定ニ該當スル者ノ取扱ニ關シテハ其ノ俸給ニ最モ近キ上級ノ俸給ヲ受クルモノトス

附則 (大正十年勅令第十六號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ公立實業補習學校ノ調導タル者ニシテ辭令書ヲ用キス當該學校ノ助教諭ニ任セラレタルモノハ從前ノ俸給額ニ相當スル等級俸給ヲ受クルモノトス但シ相當級俸ナキトキハ從前ノ俸給額ヲ受クルモノトス

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

附則 (大正十年勅令第三百十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等科ヲ置ク高等女學校ノ學校長ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セラルサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸ヲ、相當級俸ナキトキハ現ニ受クル金額ノ俸給ヲ受クルモノトス

附則 (昭和六年勅令第九十五號)

本令ハ昭和六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル高等官待遇ノ職員ニ付テハ昭和六年勅令第九十九號附則第三項乃至第七項ノ規定ヲ準用ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ左表上欄ノ俸給ヲ受クル判任官待遇ノ職員ハ各其ノ相當下欄ノ俸給月額又ハ之ニ相當スル級俸ヲ受ク

從前ノ俸給(月額)	改正 俸 給 (月 額)
百六十圓ヲ超ユルモ	現ニ受クル額ト百六十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百四十八圓ヲ加ヘタル額但シ百八十圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
百六十圓	百四十八圓
百六十圓未滿ニシテ	現ニ受クル額ト百四十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百三十一圓ヲ加ヘタル額但シ百四十八圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
百四十圓	百三十一圓
百四十圓未滿ニシテ	現ニ受クル額ト百三十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百二十一圓ヲ加ヘタル額但シ百三十一圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
百三十圓	百二十二圓
百三十圓未滿ニシテ	現ニ受クル額ト百二十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百十二圓ヲ加ヘタル額但シ百二十二圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

百二十圓	百十四圓
百二十圓未滿ニシテ	現ニ受クル額ト百十四圓トノ差額ニ百五圓ヲ加ヘタル額但シ百十四圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
百十圓	百五圓
百十圓未滿ニシテ	現ニ受クル額ト百圓トノ差額ニ九十七圓ヲ加ヘタル額但シ百五圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
百圓以下ニシテ九十圓ヲ超ユルモノ	九十七圓

前項ノ規定ニ依リ計算スル俸給金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ月額九十圓以下ノ俸給ヲ受クル判任官待遇ノ職員ハ定額ノ改正ニ拘ラズ從前ノ俸給ヲ受ク

從前ノ規定ニ依ル俸給ノ各級ニ於テ經過シタル在職年數ハ之ヲ改正俸給ノ各級ニ於ケル在職年數ト看做ス

從前ノ規定ニ依ル俸給ヲ受クル職員ハ第二項乃至第五項ノ規定ニ依リ改正俸ニ相當セザル俸給ヲ受クルトキハ之ヲ從前ノ級俸ト同等ノ改正級俸ヲ受クルモノト看做ス

前項ノ規定ハ級俸ニ相當セザル俸給ヲ受クル職員ノ級俸ニ之ヲ準用ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル判任官待遇ノ職員ハ本令ニ依リ其ノ俸給額ニ變更アルモ從前ノ待遇等級ヲ降ルコトナキモノトス

附則 (昭和六年勅令第九十九號)

本令ハ昭和六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年勅令第十二號附則第二項中「七百圓」ヲ「六百圓」ニ改ム

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年額千二百圓以上ノ俸給ヲ受クル者ハ本令ニ依リ之ニ該當スル俸給(級俸ノ區分アルモノ)ニ付テハ當該額位

改(甲學九〇)

ノ級俸)ヲ受ケ年額千圓又ハ千圓ノ俸給ヲ受クル者ハ定額ノ改正ニ拘ラズ從前ノ俸給ヲ受ク

本令施行ノ際現ニ本令ニ定ムル定額ニ對當セザル俸給ヲ受クル者ハ其ノ俸給年額千二百圓ヲ超ユルモノニ在リテハ從前ノ之ニ直近スル下位ノ俸給定額ノ例ニ依リ減額シタル俸給ヲ受ケ年額千三百圓ヲ超ユルモノニ在リテハ年額千三百圓ノ俸給ヲ受ク

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年功加俸又ハ第十七條第八項ノ增加

額ヲ受クル者ハ其ノ十分ノ九ノ年功加俸又ハ增加額ヲ受ク但シ所定ノ最高限ヲ超ユルコトヲ得ズ

前二項ノ規定ニ依リ計算スル俸給金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第九條第二項、第十七條第二項第三項及第十九條第二項ノ規定ハ本令施行前ノ在職ニ付テハ從前ノ規定ニ定ムル俸給額ヲ其準トシテ之ヲ適用ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ俸給(年功加俸ヲ含ム)ヲ受クル判任官ニ付テハ其ノ意ニ反シテ現ニ受クル額ヲ減ズルコトナシ

改(甲學九〇)

第二號表

學 校	一 級	二 級	三 級	四 級	五 級	六 級	七 級	八 級	九 級	十 級	十一 級	十二 級	十三 級
學 校 長	三、六〇〇圓	三、〇〇〇圓	二、四〇〇圓	一、八〇〇圓	一、二〇〇圓	〇、八〇〇圓	〇、六〇〇圓	〇、四〇〇圓	〇、三〇〇圓	〇、二〇〇圓	〇、一五〇圓	〇、一〇〇圓	〇、七五〇圓
教 授	三、〇〇〇圓	二、四〇〇圓	一、八〇〇圓	一、二〇〇圓	〇、八〇〇圓	〇、六〇〇圓	〇、四〇〇圓	〇、三〇〇圓	〇、二〇〇圓	〇、一五〇圓	〇、一〇〇圓	〇、七五〇圓	
教 員	二、四〇〇圓	一、八〇〇圓	一、二〇〇圓	〇、八〇〇圓	〇、六〇〇圓	〇、四〇〇圓	〇、三〇〇圓	〇、二〇〇圓	〇、一五〇圓	〇、一〇〇圓	〇、七五〇圓	〇、五〇〇圓	
生 徒 主 事	一、八〇〇圓	一、二〇〇圓	〇、八〇〇圓	〇、六〇〇圓	〇、四〇〇圓	〇、三〇〇圓	〇、二〇〇圓	〇、一五〇圓	〇、一〇〇圓	〇、七五〇圓	〇、五〇〇圓	〇、三〇〇圓	

第三號表

學 校	一 級	二 級	三 級	四 級	五 級	六 級	七 級	八 級	九 級	十 級	十一 級	十二 級	十三 級
學 校 長	三、六〇〇圓	三、〇〇〇圓	二、四〇〇圓	一、八〇〇圓	一、二〇〇圓	〇、八〇〇圓	〇、六〇〇圓	〇、四〇〇圓	〇、三〇〇圓	〇、二〇〇圓	〇、一五〇圓	〇、一〇〇圓	〇、七五〇圓
教 授	三、〇〇〇圓	二、四〇〇圓	一、八〇〇圓	一、二〇〇圓	〇、八〇〇圓	〇、六〇〇圓	〇、四〇〇圓	〇、三〇〇圓	〇、二〇〇圓	〇、一五〇圓	〇、一〇〇圓	〇、七五〇圓	
教 員	二、四〇〇圓	一、八〇〇圓	一、二〇〇圓	〇、八〇〇圓	〇、六〇〇圓	〇、四〇〇圓	〇、三〇〇圓	〇、二〇〇圓	〇、一五〇圓	〇、一〇〇圓	〇、七五〇圓	〇、五〇〇圓	
生 徒 主 事	一、八〇〇圓	一、二〇〇圓	〇、八〇〇圓	〇、六〇〇圓	〇、四〇〇圓	〇、三〇〇圓	〇、二〇〇圓	〇、一五〇圓	〇、一〇〇圓	〇、七五〇圓	〇、五〇〇圓	〇、三〇〇圓	

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

第一條 地方長官ハ毎年六月一日ニ於ケル五年以上勤続ノ公立學校職員數ヲ左記各項ニ依リ調査シ第一號様式ニ依リ七月末日限り之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

一 職員ノ範圍及勤続年數ノ計算ニ關シテハ公立學校職員年功加俸令第一條及第七條ノ規定ニ依ル

二 公立學校職員俸給令第九條ニ依リ其ノ俸給ヲ分割シテ支給セラレル者ハ俸給額多キ方ノ職員ノ欄ニ掲ケ俸給額ハ其ノ合計額ニ依ル

第二條 地方長官ハ前年度ニ於ケル年功加俸資金ノ經理ノ狀況ヲ第二號様式ニ依リ毎年七月末日限り文部大臣ニ報告スヘシ

第一號様式

●公立學校職員年功加俸ニ關スル規程

大正九年十一月十一日
文部省訓令第十二號

沿革 大正一〇年文部省訓令第九號、一四年九月第二〇號、昭和一〇年四月第八號改正

公立學校職員年功加俸ニ關スル規程左ノ通定ム

公立學校職員年功加俸ニ關スル規程

北海濱監 府廳

改〔甲學一六〕

第一條 地方長官ハ毎年六月一日ニ於ケル五年以上勤続ノ公立學校職員數ヲ左記各項ニ依リ調査シ第一號様式ニ依リ七月末日限り之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

一 職員ノ範圍及勤続年數ノ計算ニ關シテハ公立學校職員年功加俸令第一條及第七條ノ規定ニ依ル

二 公立學校職員俸給令第九條ニ依リ其ノ俸給ヲ分割シテ支給セラレル者ハ俸給額多キ方ノ職員ノ欄ニ掲ケ俸給額ハ其ノ合計額ニ依ル

第二條 地方長官ハ前年度ニ於ケル年功加俸資金ノ經理ノ狀況ヲ第二號様式ニ依リ毎年七月末日限り文部大臣ニ報告スヘシ

第一號様式

第三條 地方長官ハ前年度末ニ於ケル年功加俸支給ノ狀況ヲ第三號様式ニ依リ毎年七月末日限り文部大臣ニ報告スヘシ

第四條 地方長官ハ第四號様式ニ依リ公立學校職員年功加俸臺帳ヲ調製スヘシ

年功加俸ヲ受ケル者他ノ道廳府縣ニ轉任シタルトキハ地方長官ハ遲滞ナク其ノ加俸臺帳ノ謄本ヲ轉任先ノ地方長官ニ送付スヘシ

附則 (大正十年文部省訓令第九號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス但シ第三條ニ依ル報告ハ大正九年度分ニ限り從前ノ様式ニ依ルモノトス

改〔甲學一六〕

校種別	職員種別	勤続年數	俸給月額	
			八十圓以上	八十圓未満
中等學校	校長	五年以上		
		十年以上		
高等學校	校長	五年以上		
		十年以上		
青年學校	校長	五年以上		
		十年以上		
小學校	校長	五年以上		
		十年以上		
小學校	教員	五年以上		
		十年以上		
小學校	助教	五年以上		
		十年以上		
小學校	舍長	五年以上		
		十年以上		
小學校	計監	五年以上		
		十年以上		
計			八十圓以上	八十圓未満

公立學校職員年功加俸支給ニ關スル疑義ノ件

昭和四年十月十二日
沖普一三號普通學務局長通牒

各地方長官宛

公立學校職員年功加俸支給ニ關スル疑義ノ件

標記ノ件ニ關シ沖繩縣ヨリ左記甲號ノ通照會ニ付乙號ノ通回答致シタルニ付仰了知相成度

(甲號)

左記履歷ヲ有スル者ニ關シ公立學校職員年功加俸ヲ支給シ得ヘキモノナリヤ聊カ疑義相生シ候條御指示相成度此段照會候也

記

- 大正十一年三月三十一日 沖繩縣甲小學校訓導
- 昭和二年八月九日 同 縣乙小學校訓導兼甲師範學校訓導
- 同 日 同 縣甲中學校教諭兼任
- 同 四年四月二十五日 乙小學校訓導兼甲師範學校訓導退職

以上

(乙號)

沖普一三號
昭和四年十月十二日

文部省普通學務局長 篠原英太郎

沖繩縣知事 守屋磨瑛夫殿

公立學校職員年功加俸支給ニ關スル疑義ノ件

本年六月六日學親第五九〇號ヲ以テ標記ノ件ニ付御伺出ノ處右ハ公立學校職員年功加俸令第七條ニ依リ甲乙小學校訓導在職年ヲ通算スヘク從テ大正十一年三月三十一日ヨリ起算シ勤續五年以上トナルヲ以テ公立學校職員年

功加俸令ニ依リ加俸ヲ支給スヘキ義ト御了知相成度

追テ本件ノ如ク小學校訓導ヲシテ師範學校訓導(代用附屬小學校訓導)リ師範學校訓導兼務ハ差支ナシ)又ハ中學校教諭ヲ兼任セシムルカ如キハ妥當ナラスト認メラルルニ付爾今御留意相成度

道廳府縣立師範學校長ノ俸給ニ關スル件

大正十二年九月二十九日
勅令第四百三十號

朕道廳府縣立師範學校長ノ俸給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

附則

道廳府縣立師範學校長ノ俸給ハ國庫ノ負擔トス

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

改(甲學八一)

師範學校長勤續加俸令

大正九年十月二十八日
勅令第五百二十號

沿軍 昭和六年六月勅令第一二二號改正

朕師範學校長勤續加俸令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

師範學校長勤續加俸令

第一條 師範學校長ニシテ五年以上勤續スル者ニハ勤續加俸ヲ給スルコトヲ得

第二條 勤續加俸ノ年額ハ別表ニ依ル

第三條 勤續加俸ノ支給ニ關シテハ俸給支給ノ例ニ依ル

第四條 勤續加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルキハ一定ノ期間勤續加俸ノ一部又ハ全部ヲ停止スルコトヲ得

附則

本令ハ大正九年十月分ヨリ之ヲ適用ス

大正九年九月三十日現在ニ於テ勤續五年以上ニ達シタル者ハ本令ノ適用ニ付テハ同日ニ於テ勤續五年ニ達シタルモノト看做ス

附則 (昭和六年勅令第四百二十二號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ勤續加俸ヲ受クル者別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ其ノ百分ノ九十一ノ額ヲ受ク但シ所定ノ最高限ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ依リ計算スル金額單位未滿ハ之ヲ單位ニ滿タシム

(別表)

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

改(甲學九〇)

勤續年數	勤續加俸年額
五年以上十年未滿	九十六圓乃至百二十圓
十年以上十五年未滿	百四十四圓乃至百六十八圓
十五年以上	百九十二圓乃至二百五十二圓

高等官官等俸給令 (抄錄)

明治四十三年三月二十八日
勅令第三百三十四號

沿軍略

朕高等官官等俸給令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等官官等俸給令

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

第一條 親任式ヲ以テ敘任スル官ヲ除クノ外高等官ヲ分テ九等トス親任式ヲ以テ敘任スル官及一等官二等官ヲ勅任官トシ三等官乃至九等官ヲ委任官トス

第二條 奏任官ノ任免及敘等ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其ノ各省及各省所屬ノ官廳ニ屬スルモノハ内閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス

第三條 高等官ノ官等ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第一表ニ依ル官制上他ノ官ニ在ル者ヲ以テ兼任セシムル官ニシテ別ニ官等ヲ定メサルモノハ本官ノ官等ニ依ル

第四條 初メテ高等文官ニ任セラルル者ノ官等ハ六等以下トス高等文官ニシテ退官シタル者再ヒ高等文官ニ任セラルル場合ニ於テハ其ノ官等ハ前官ノ官等以下トス但シ前官官等在職年數二年ヲ超エタル者ハ前官ノ官等ニ一等ヲ進ムルコトヲ得

第五條 高等文官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタルモノ及七等以下ノモノヲ除キ在職二年ヲ超ユルニ非サレハ陞敘スルコトヲ得ス

第六條 親任式ヲ以テ敘任スル官、内閣書記官長、特命全權公使及辨理公使ニ任セラルル場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ、文官任用令第一條第四項ノ規定ニ依リ勅任文官ニ任用セラルル場合ニ於テハ第四條ノ規定ヲ適用セス

第八條 勅任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ
帝國大學總長 年俸 一級 六千二百圓
北海道總長官 年俸 二級 五千八百圓
官立大學長 年俸 三級 五千三百圓
國民精神文化研究所長 年俸 四級 四千九百圓
府縣知事 年俸 五級 四千六百圓

三〇六

神宮皇學館長

年俸 一級 四千六百五十圓

國民精神文化研究所長

年俸 二級 四千三百圓

第九條 勅任文官親任式ヲ以テ敘任ニシテ五年以上其ノ官ノ最高俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ六百圓以内ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ勅任文官親任式ヲ以テ敘任ノ在職年數ニシテ現官ノ最高俸額以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ現官ノ最高俸額ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

第九條ノ二 高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ニシテ三年以上(各省參與官ニ在リテハ二年以上)高等官二等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ高等官一等ニ陞敘スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等官一等又ハ高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ノ最高官二等以上ノ在職年數ハ之ヲ現官ノ最高官二等ノ在職年數ニ通算ス

第十條 神宮皇學館教授陸軍大學校及海軍大學校以外ノ陸軍及海軍諸學校教官タル陸軍教授又ハ海軍教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ各一人ヲ限リ高等官二等ニ陞敘スルコトヲ得

改(甲學一)一

改(甲學一)一六

臨時教員養成所教授
水産講習所教授
各府縣書記官

第十五條 別表第二表第二號ニ依ル諸官左ノ如シ
文部理事官
維新史料編纂官
東京科學博物館學藝官
帝國大學事務官
帝國大學司書官
傳染病研究所事務官
官立大學事務官
氣象臺事務官
北海道廳視學官
地方視學官

第十六條 別表第二表第三號ニ依ル諸官左ノ如シ
國立少年教護院教諭
帝國圖書館司書官

第十八條 前數條ノ規定ニ依ルモノヲ除クノ外高等文官ノ年俸ハ別表第四表又ハ第五表ニ依ル但シ別段ノ定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 別表第二表第一號乃至第三號又ハ別表第五表ニ依ル委任文官ニシテ五年以上各其ノ官ノ一級俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ六百圓以内ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等文官ノ在職年數ニシテ現官ノ一級俸額以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ現官ノ一級俸額ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

三〇七

ニ在リ功績アル者ハ通シテ八十人ヲ限リ高等官二等ニ陞敘スルコトヲ得但シ各校二人ヲ超ユルコトヲ得ス

北海道帝國大學豫科、附屬土木専門部教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ各科ヲ通シテ二人ヲ限リ高等官二等ニ陞敘スルコトヲ得

官立大學豫科教授、官立大學附屬專門部教授、又ハ東京工業大學附屬豫備部教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ通シテ六人ヲ限リ高等官二等ニ陞敘スルコトヲ得

第十二條 奏任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第二表各號ノ一ニ依ル

第十三條 別表第二表第一號ニ依ル官ノ官等ノ高等官三等乃至七等、同第二號ニ依ルモノハ高等官四等乃至八等、同第三號ニ依ルモノハ高等官五等以下トス

第十四條 別表第二表第一號ニ依ル諸官左ノ如シ
神宮皇學館教授
文部事務官
督學官
社會教育官
圖書事務官
圖書監修官
學校衛生官
國寶鑑査官
帝國大學書記官
帝國大學醫學部附屬醫院藥局長
官立大學附屬醫院藥局長
國民精神文化研究所員

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

附則 (大正十二年勅令第九十六號)

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ千葉醫學專門學校、金澤醫學專門學校又ハ長崎醫學專門學校ノ教授ニシテ官立醫科大學附屬醫學專門學校ノ教授ニ任セラレタル者ノ千葉醫學專門學校、金澤醫學專門學校又ハ長崎醫學專門學校ノ教授トシテハ高等官三等ノ在職ハ高等官等俸給令第十條第六項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ官立醫科大學附屬醫學專門學校教授トシテノ高等官三等ノ在職ト看做ス
 本令施行ノ際現ニ千葉醫學專門學校教授ニシテ高等官二等ニ在職者ヲ官立醫科大學醫學專門部教授ニ任スル場合ニ於テハ之ヲ高等官二等ニ叙スルコトヲ得

附則 (大正十二年勅令第二百四十四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ旅順工科大学附屬工學專門部教授ニシテ旅順工科大学學科教授ニ任セラレタル者ノ旅順工科學堂及旅順工科大学附屬工學專門部ノ教授トシテノ高等官三等ノ在職ハ高等官等俸給令第十條第八項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ旅順工科大学學科教授トシテノ高等官三等ノ在職ト看做ス

附則 (大正十二年勅令第二百四十六號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ北海道帝國大學附屬大學豫科教授ニシテ北海道帝國大學豫科教授ニ任セラレタル者ノ北海道帝國大學附屬大學豫科教授トシテノ高等官三等ノ在職ハ高等官等俸給令第十條第四項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ北海道帝國大學豫科教授トシテノ高等官三等ノ在職ト看做ス
 本令施行ノ際現ニ北海道帝國大學附屬大學豫科教授ニシテ高等官二等ニ在

ル者ヲ北海道帝國大學豫科教授ニ任スル場合ニ於テハ之ヲ高等官二等ニ叙スルコトヲ得

附則 (大正十二年勅令第三百九十一號)

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ官立大學ノ教授又ハ助教教授ニシテ教授ニ在リテハ左表第一表、助教教授ニ在リテハ左表第二表上欄ノ級俸ヲ受ケルモノ別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各其ノ相當下欄ノ級俸及職務俸ヲ受ケルモノトス
 官立大學ノ教授又ハ助教教授ノ年功加俸ニ關シ第九條第二項又ハ第十條第二項第三項ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ依リ官立大學ノ教授又ハ助教教授トシテ改正俸給一級俸ノ額以上ノ俸給ヲ受ケタル在職年數ハ之ヲ通算セス但シ助教一級俸ヲ受ケタル在職年數ハ此ノ限ニ在ラス

(第一表)

現行俸給	本	改	正	職務俸	給
勅任一級俸	一	級	俸	七〇〇	四
勅任二級俸	二	級	俸	七〇〇	
勅任三級俸	三	級	俸	七〇〇	
奏任二級俸	四	級	俸	七〇〇	
奏任三級俸	五	級	俸	七〇〇	
奏任四級俸	六	級	俸	七〇〇	
奏任五級俸	七	級	俸	七〇〇	

改「甲學五三」

奏任六級俸	八	級	俸	七〇〇
奏任七級俸	九	級	俸	六〇〇
奏任八級俸	十	級	俸	四〇〇
奏任九級俸	十一	級	俸	四〇〇
奏任十級俸	十二	級	俸	四〇〇
奏任十一級俸	十二	級	俸	二〇〇

(第二表)

現行俸給	本	改	正	職務俸	給
一級俸	一	級	俸	一、四〇〇	四
二級俸	二	級	俸	一、三〇〇	
三級俸	三	級	俸	一、二〇〇	
四級俸	四	級	俸	一、〇〇〇	
五級俸	五	級	俸	九〇〇	
六級俸	六	級	俸	七〇〇	
七級俸	七	級	俸	六〇〇	
八級俸	八	級	俸	四〇〇	
九級俸	九	級	俸	四〇〇	

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

改「甲學」一六」

十級俸	十	級	俸	三〇〇
十一級俸	十一	級	俸	二〇〇
十二級俸	十二	級	俸	一〇〇

附則 (大正十三年勅令第四百號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ警視廳消防部長又ハ警視廳理事官ヨリ警視廳事務官ニ、北海道廳支廳長又ハ北海道廳理事官ヨリ北海道廳事務官ニ、各府縣ノ理事官ヨリ地方事務官ニ、各府縣ノ警視ヨリ地方警視ニ任セラレタル者ハ本令ノ規定ニ拘ラス從前受ケタル俸給額ト同一ノ俸給ヲ受ケルモノトス

附則 (大正十四年勅令第九十三號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ商船學校ノ教授ニシテ東京高等商船學校教授ニ任セラレタル者ノ商船學校教授トシテノ高等官三等ノ在職ハ高等官等俸給令第十條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ東京高等商船學校教授トシテノ高等官三等ノ在職ト看做ス
 本令施行ノ際現ニ商船學校教授ニシテ高等官二等ニ在職者ヲ東京高等商船學校教授ニ任スル場合ニ於テハ之ヲ高等官二等ニ叙スルコトヲ得

附則 (昭和四年勅令第四十六號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ文部省直轄諸學校ノ教授ニシテ官立大學附屬專門部又ハ高等師範學校ノ教授ニ任セラレタル者ノ文部省直轄諸學校ノ教授トシテノ高等官三等ノ在職ハ第十條第二項又ハ第四項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ官立大學附屬專門部又ハ高等師範學校ノ教授トシテノ高等官三等ノ在職ト看做ス
 本令施行ノ際現ニ文部省直轄諸學校ノ教授ニシテ高等官二等ニ在職者ヲ官立大學附屬專門部又ハ高等師範學校ノ教授ニ任ズル場合ニ於テハ之ヲ高等

神宮皇學館長 奏任タルモノ	四、〇五〇	圓
文部省直轄諸學校長 奏任タルモノ 但シ東京官立學校長東京聾啞學校長ヲ除ク	三、六六〇	圓
	三、四〇〇	圓
	三、〇五〇	圓
	二、七七〇	圓

(第五表)

官名	級	俸
帝國圖書館長	一級	四、〇五〇 圓
東京科學博物館長	二級	三、六六〇 圓
陸軍教授 奏任タルモノ	三級	三、〇〇〇 圓
海軍教授 奏任タルモノ	四級	二、〇五〇 圓
帝國大學教授	五級	二、七四〇 圓
帝國大學學生主事	六級	圓
帝國大學豫科教授	七級	圓
帝國大學附屬專門部教授	八級	圓
史料編纂官	九級	圓
官立大學教授	十級	一、六六〇 圓
官立大學學生主事	十一級	一、三二〇 圓
	十二級	一、〇八〇 圓

改(甲學一三)

改(甲學一三)

官名	俸
官立大學豫科教授	一、〇八〇
官立大學附屬專門部教授	一、三二〇
東京工業大學附屬豫備部教授	一、六六〇
高等師範學校教授	一、〇八〇
文部省直轄諸學校教授	一、三二〇
高等師範學校生徒主事	一、〇八〇
文部省直轄諸學校生徒主事	一、三二〇
國立少年教護院教諭 院長タルモノ	一、〇八〇
東京盲學校長	一、三二〇
東京聾啞學校長	一、六六〇
師範學校長	一、〇八〇
帝國大學助教授	一、三二〇
官立大學助教授	一、〇八〇
高等師範學校教諭	一、三二〇
文部省直轄諸學校教諭	一、〇八〇

●公立私立學校ノ校長又ハ教員ヲ
北海道廳視學官又ハ地方視學官
ニ任用スル場合ノ官等ニ關スル

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

件
昭和三年三月九日
勅令第二十七號
朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ公立私立學校ノ校長又ハ教員ヲ北海道廳視學官又ハ地方視學官ニ任用スル場合ノ官等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

第一條 公立學校ノ委任官待遇ノ校長又ハ教員ノ職ニ在リタル者ヲ北海道
 廳視學官又ハ地方視學官ニ任用スル場合ニ於ケル初級官等ハ高等官官等
 俸給令第四條ノ規定ニ拘ラズ其ノ在職年數五年ニ及ブ者ハ高等官五等以
 下トシ其ノ年數三年ヲ加フル者ハ更ニ一等級進ムルコトヲ得
 昭和三年勅令第二十六號第一條第二號ノ校長又ハ教員ノ職ニ在リタル者
 北海道廳視學官又ハ地方視學官ニ任用スル場合亦前項ニ同シ
 第二條 前ニ高等文官ノ職ニ在リタル者ニ付テハ退官又ハ退職後前條ニ揭
 グル校長又ハ教員ノ職ニ在リタル年數三年ニ付其ノ退官又ハ退職ノ時ニ
 於ケル官等ニ一等級進ムルコトヲ得
 前項ノ規定ハ高等官官等俸給令第四條第二項及第三項ノ規定ノ適用ヲ妨
 ゲズ
 高等官官等俸給令第四條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ再任ノ場合ニ依
 シ得ル官等ハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ退官又ハ退職ノ時ニ於ケ
 ル官等ト看做ス
 明治三十六年勅令第二百八十五號ノ特別文官ノ職ニ在リタル者ノ再任又
 ハ再任ノ場合ニ於テ同令ニ依リ叙シ得ル官等ハ第一項ノ規定ノ適用ニ付
 テハ之ヲ退官ノ時ニ於ケル官等ト看做ス
 第三條 本令ニ依ル北海道廳視學官又ハ地方視學官ガ北海道廳視學官又ハ
 地方視學官ニ轉任又ハ再任スル場合ニ於テハ明治三十六年勅令第二百八
 十五號ノ規定ヲ適用セズ

附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●公立學校ノ校長又ハ教員ヲ朝鮮
 總督府道視學官ニ任用スル場合

等ノ官等ニ關スル件

昭和五年十一月一日
 勅令第二百十號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ公立學校ノ校長又ハ教員ヲ朝鮮總督府道視學官ニ
 任用スル場合等ノ官等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 公立學校ノ委任官待遇ノ校長又ハ教員ノ職ニ在リタル者ヲ朝鮮總
 督府道視學官ニ任用スル場合ニ於テハ昭和三年勅令第二十七號第一條第
 一項及第二條ノ規定ヲ準用ス
 第二條 本令ニ依ル朝鮮總督府道視學官又ハ昭和三年勅令第二十七號ニ依
 ル北海道廳視學官若ハ地方視學官ガ朝鮮總督府道視學官、北海道廳視學
 官又ハ地方視學官ニ轉任又ハ再任スル場合ニ於テハ明治三十六年勅令第
 二百八十五號ノ規定ヲ適用セズ

附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●判任官俸給令

明治四十三年三月二十八日
 勅令第三百三十五號

沿革 明治四十二年九月勅令第三七八號、四十五年三月第四七號、大正二年六月第二一五號、
 一月第三〇二號、三年三月第三八號、五年三月第六六號、一月第二四七號、七
 年七月第二七九號、八月第三〇八號、一月第三七八號、八月第四九號、五月
 第一八二號、第二五四號、六月第二七六號、七月第三五八號、八月第四〇〇號、一
 〇月第四四〇號、九年八月第二五八號、九月第三五四號、一〇月第四六三號、第五
 〇六號、一〇年八月第三九三號、一二年七月第三三五號、一三年五月第一一〇號、
 一二月第四五七號、一五年八月第二七四號、昭和四年五月第一二四號、七月第二四
 七號、六年五月第一〇〇號改正

改(甲學一三)

朕判任官俸給令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

判任官俸給令

第一條 判任官ノ月俸ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表ニ依ル
 第二條 陸海軍准士官及下士ハ判任トシ其ノ月俸ハ別ニ定ムル所ニ依ル
 第三條 判任文官ハ每級在職一年以上ニ至ラザレハ増給スルコトヲ得ス但
 シ六級俸以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス
 第四條 判任文官ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ事務熟練優等ナル者ハ特
 ニ百八十圓迄ヲ給スルコトヲ得
 第五條 判任文官ノ俸給ハ月俸七十五圓未満ノ者ニ限リ級俸ニ拘ラス適宜
 ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ各所定ノ最低俸給額ヲ下ルコト
 ヲ得ス
 第六條 各廳技手ハ判任トシ各廳事務ノ繁閑ニ依リ別表最低額以下ヲ給ス
 ルコトヲ得
 第七條 警視廳、北海道廳、府縣及監獄判任官並稅務監督局屬、稅務署屬、
 專賣局書記及朝鮮總督府航路標識看守ニハ別表最低額以下二十圓迄ノ月
 俸ヲ給スルコトヲ得但シ港吏、港務醫官補、港務獸醫官補、港務藥劑手
 及府縣通譯ハ此ノ限ニ在ラス
 道廳及府縣視學ノ月俸ハ別表八級俸以上トス
 第八條 (削除)
 第九條 各廳警部補ノ月俸ハ四十圓以上八十五圓以下トス
 第十條 左ニ掲ケル者ノ月俸ハ二十五圓以上八十五圓以下トス
 各廳稅關監吏
 各廳稅務吏
 各廳森林主事
 北海道廳河川監守

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

改(甲學九〇)

第十一條 左ニ掲ケル者ノ月俸ハ二十圓以上八十五圓以下トス

貯金局書記補
 簡易保險局書記補
 逓信局書記補
 各廳逓信書記補
 各廳逓信書記補
 臺灣總督府交通主事
 第十二條 前三條ノ判任文官最上級俸ヲ受ケ三年ヲ超エ事務熟練優等ナル
 者ハ特ニ月額十圓以内ヲ加給スルコトヲ得
 第十三條 判任官死亡シタルトキハ在職最終月俸四分ノ額ニ相當スル死
 亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス
 前項遺族ト稱スルハ配偶者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ同
 一戶籍内ニ在ル者ヲ謂フ
 第一項ノ死亡賜金ヲ受ケヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ掲ケタル順序ニ依リ同
 順位内ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ
 第二項ノ遺族ナキ場合ニ於テハ實家ニ在ル實父母、家督相續人、戶主ノ
 順位ニ依リ第一項ニ定ムル金額ノ二分ノ一ヲ給スルコトヲ得
 第十四條 月俸ハ毎月下旬ノ之ヲ支給ス
 前項ノ外俸給ノ支給ニ關シテハ高等官官等俸給令ノ例ニ依ル
 第十五條 俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム
 附則 (大正九年勅令第二百五十八號)
 本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス
 大正九年勅令第二百五十七號附則第二項乃至第六項及第八項ノ規定ハ從前
 ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケル者ニ付之ヲ準用ス
 從前ノ規定ニ依ル五級俸以上ノ各級ニ於テ經過シタル在職年數ハ之ヲ改正

三一ノ四ノ三

俸給ノ五級俸以上各級ニ於ケル在職年數ト看做ス
 從前ノ規定ニ依ル五級俸以上ヲ受ケル者第二項ノ規定ニ依リ改正級俸ニ相
 當セザル俸給ヲ受ケルトキハ從前ノ級俸ト同等ノ改正級俸ヲ受ケルモノト
 看做ス
 前項ノ規定ハ五級俸以上ニ於テ級俸ニ相當セザル俸給ヲ受ケル者ノ級俸ニ
 付テ準用ス
 第八條乃至第十一條ニ掲ケル判任文官ノ從前ノ規定ニ依ル最上級俸ヲ受ケ
 タル在職年數ハ之ヲ改正級俸ノ最上級俸ヲ受ケタル在職年數ト看做ス
 判任官俸給附則ヲ削ル
 明治二十四年勅令第八十三號判任官俸給令ノ例ニ依リ五級俸以上ノ俸給ヲ
 受ケル地方稅支辨ニ屬スル判任文官ノ級俸ノ對等ニ付テハ前數項ノ規定ニ
 依ラス左表ノ區分ニ依ル但シ文武判任官等級令ノ適用ニ付テハ仍從前ノ等
 級ヲ保有ス

現行俸給	改正俸給
特別俸	一級俸
一級俸	二級俸
二級俸	四級俸
三級俸	五級俸
四級俸	六級俸
五級俸	六級俸

附則 (昭和六年勅令第百號)
 本令ハ昭和六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ左表上欄ノ俸給ヲ受ケル者ハ各其ノ相當下欄ノ俸給ヲ受
 ケ

從前ノ俸給 (月額)	改正俸給 (月額)
二百圓以下ニシテ百六十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受ケル額ト百六十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百四十圓ヲ加ヘタル額但シ百八十圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
百六十圓	百四十八圓
百三十五圓	百二十七圓
百十五圓	百十圓
百圓	九十七圓

前項ノ規定ニ依リ計算スル俸給金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム
 從前ノ規定ニ依ル五級俸以上ノ各級ニ於テ經過シタル在職年數ハ之ヲ改正
 俸給ノ五級俸以上各級ニ於ケル在職年數ト看做ス
 從前ノ規定ニ依ル五級俸以上ヲ受ケル者第二項ノ規定ニ依リ改正級俸ニ相
 當セザル俸給ヲ受ケルトキハ從前ノ級俸ト同等ノ改正級俸ヲ受ケルモノ
 ト看做ス

(別表)

級	俸	月	額
一級	俸	百	四十五圓
二級	俸	百	二十五圓

改(甲學九〇)

改(甲學九三)

和四年六月第一一號改正
 文官俸給支給細則左ノ通り相定メ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス
 但明治二十三年當省令第十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

文官俸給支給細則

- 第一條 高等文官及判任文官ノ俸給ハ各該左ノ日制定日ニ於テ支給スルモ
 ノトス但休日ニ當ルトキハ順延トス
- 外務省及其所管經費ニ屬スル官廳 每月二十一日
 - 內務省及其所管經費ニ屬スル官廳 每月二十一日
 - 大藏省及其所管經費ニ屬スル官廳 每月二十一日
 - 鐵道省及其所管經費ニ屬スル官廳 每月二十一日
 - 拓務省及其所管經費ニ屬スル官廳 每月二十一日
 - 陸軍省及其所管經費ニ屬スル官廳 每月二十二日
 - 海軍省及其所管經費ニ屬スル官廳 每月二十二日
 - 司法省及其所管經費ニ屬スル官廳 每月二十二日
 - 農林省及其所管經費ニ屬スル官廳 每月二十三日
 - 文部省及其所管經費ニ屬スル官廳 每月二十三日
 - 商工省及其所管經費ニ屬スル官廳 每月二十三日
 - 通信省及其所管經費ニ屬スル官廳 每月二十三日
- 第二條 廢官退官退職及死亡ノ時ハ當月分ノ俸給全額ヲ其際支給スルモノ
 トス
- 第三條 高等官等俸給令第二十八條ニ依リ職務調理ヲ命セラレタル者其調理翌
 月以降ニ涉リ全月分ヲ支給スルモノハ第一條ノ支給日ニ依ル但最後ノ
 月ハ日割チ以テ調理了ノ日迄ヲ其際支給ス
- 第四條 轉任者ノ俸給ハ其發令ノ當日迄ヲ甲廳ノ負擔トシ翌日以降ノ分ハ
 乙廳ニ於テ之ヲ支給スルモノトス
- 第五條 他廳ニ轉任シタルモノハ第一條ノ支給日ニ拘ラス日割計算ヲ以テ
 發令ノ當日迄ニ俸給ヲ其際支給ス
- 第六條 他廳ニ轉任ノ際俸給過渡アルトキハ前任廳ニ於テ其際之ヲ追徵ス
 ハシ
- 第六條 俸給支給日後他廳ヨリ轉任シ來リタルトキハ後任廳ニ於テ其月
 ノ殘日數ニ對スル俸給ヲ其際支給スルモノトス

三一二ノ四ノ五

級	俸	圓
三級	俸	百十圓
四級	俸	九十圓
五級	俸	八十圓
六級	俸	七十圓
七級	俸	六十圓
八級	俸	五十圓
九級	俸	五十圓
十級	俸	四十圓
十一級	俸	十五圓

●判任官俸給令第三條ノ特例ニ關スル件

昭和六年十一月三十日 勅令第二百七十八號
 朕判任官俸給令第三條ノ特例ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 判任文官ニシテ今同ノ行政整理ニ際シ退官シ又ハ休職ヲ命セラレタル者ハ判
 任官俸給令第三條ノ規定ニ拘ラズ毎級在職一年ニ至ラザルモ増給スルコト
 ナド

附則

●文官俸給支給細則

明治二十五年十二月二十三日 大藏省令第十一號

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

第七條 高等官等俸給令第二十九條ニ依リ減給ノ者廢官退官退職及死亡ノ時ハ其減給ニ係ル當月分ノ全額ヲ支給スルモノトス

第八條 傷疾忌引若クハ特旨賜暇ノ場合ハ病氣若クハ私事故障ト連續スルモ減俸トナルヘキ開動日數中ニ算入セズ又病氣ト私事故障ト連續スル場合ニ於テハ之ヲ通算セズ

●文官ニシテ陸海軍ニ召集セラレタル者ノ俸給支給ニ關スル件

勅令第三十七年九月十三日 勅令第二百六號

朕文官ニシテ陸海軍ニ召集セラレタル者ノ俸給支給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官ニシテ陸海軍ニ召集セラレ陸海軍ニ於テ俸給ヲ受クル者ハ其ノ間文官俸給ノ支給ヲ停止ス但シ陸海軍ニ於テ受クル俸給ノ額文官俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ハ奉職官廳ニ於テ文官俸給ヨリ之ヲ補給ス

●月俸七十五圓未滿ノ判任官待遇者ノ俸給ニ關スル件

明治四十年六月二十五日 勅令第二百四十四號

朕月俸(三十圓)未滿ノ判任官待遇者ノ俸給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

布セシム

判任官俸給令第五條ノ規定ハ判任官ノ待遇ヲ受クル者ノ俸給ニ之ヲ準用ス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●二以上ノ俸給ヲ受クル官吏及待遇官吏ノ減俸ニ關スル件

昭和六年六月二十二日 勅令第四百四十三號

朕二以上ノ俸給ヲ受クル官吏及待遇官吏ノ減俸ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 昭和六年六月一日ニ於テ官吏又ハ待遇官吏タル二以上ノ地位ニ基キ二以上ノ俸給(年功加俸、職務俸ノ類ヲ含マズ)ヲ受クル者ハ其ノ同日直前ノ俸給ノ各ガ夫々他ノ俸給ノ額ヲ其ノ額ニ合算シタル額ヨリシモノトセバ勅令ノ定ムル所ニ依リ同日ニ於テ減額セラルベカリシ割合ト同一ノ割合ニ依リ夫々同日直前ノ各俸給ヲ減額シタル額ノ俸給ヲ受ク

前項ニ規定スル合算額ガ昭和六年六月一日ニ於テ減額セラレタル最低俸給ノ額(判任官又ハ判任官待遇職員ノ俸給ニ在リテハ月額九十七圓)ヲ超エ且其ノ額ノ俸給ニ付減額ノ定ナキモノナルトキハ其ノ直近下位ノ俸給ニ付定メタル減額ノ割合ニ依リ(判任官又ハ判任官待遇職員ノ俸給ニシテ月額九十七圓ヲ超エ百圓ニ滿タザルモノハ九十七圓ニ減額セララルモノトシテ其ノ減額ノ割合ニ依リ)前項ノ規定ヲ適用ス但シ直近上位ノ俸給ノ減額セラレタル額ヲ超ユルコトナキモノトス

前二項ノ規定ニ依リ計算シテ得タル俸給金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第二條 公立學校職員ニシテ前條ノ規定ニ該當スル者ハ同條ノ規定ニ依リ

改(甲學九三)

改(甲學九〇)

ルモノト看做ス

附則 (昭和六年勅令第五百五號)抄錄

第三項

從前ノ規定ニ依リ四級俸以上ノ各級ニ於テ經過シタル在職年數ハ之ヲ改正俸給ノ四級俸以上ノ各級ニ於ケル在職年數ト看做ス

附則 (昭和六年勅令第五百五號)抄錄

第六項乃至第八項

從前ノ規定ニ依リ俸給ノ各級ニ於テ經過シタル在職年數ハ之ヲ改正俸給ノ各級ニ於ケル在職年數ト看做ス

從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル職員ハ第二項乃至第五項ノ規定ニ依リ改正俸ニ相當セザル俸給ヲ受クルトキハ之ヲ從前ノ級俸ト同等ノ改正級俸ヲ受クルモノト看做ス

附則 (昭和六年勅令第五百二十一號)抄錄

第二項乃至第五項

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年功加俸ヲ受クル者別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ百圓以上ノ場合ニ在リテハ其ノ百分ノ九十三ノ額ヲ百圓未滿ノ場合ニ在リテハ其ノ百分ノ九十六ノ額ヲ受ク但シ左ノ制限ニ依リ

- 一 所定ノ最高限ヲ超エ又ハ所定ノ最低限ヲ下ルコトヲ得ズ
- 二 百圓未滿ノ場合ニ在リテハ年額九十三圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 三 奏任官待遇ノ者ニ在リテハ改正本俸ト合シテ年額千三百三十圓ヲ判任官待遇ノ者ニ在リテハ改正本俸ト合シテ月額九十七圓ヲ下ルコトヲ得ズ

改正俸給額ヲ合算シタル額ガ昭和六年勅令第二百二十一號附則第二項第三號及第四項ニ規定スル改正本俸ノ額ヨリシモノトセバ同令附則第二項乃至第五項ノ規定ニ依リ昭和六年六月一日ニ於テ受クベカリシ年功加俸額ト同一ノ額ノ年功加俸ヲ受ク

第三條 昭和六年六月一日以後新ニ辭令ヲ發セラレタル俸給又ハ年功加俸ニ付テハ前二條ノ規定ニ依リ減額ヲ爲スコトナシ

第四條 第一條ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ昭和六年勅令第五百號附則第四項第五項、同年勅令第五百號附則第三項及同年勅令第五百十五號附則第六項乃至第八項ノ規定ヲ準用ス

第一條ノ規定ニ該當スル者ハ本令ニ依リ其ノ俸給額ニ變更アルモ仍從前ノ等級又ハ待遇官等等級ヲ保有ス

公立學校職員ニシテ俸給月額八十圓以上ヲ受クル者第一條ノ規定ニ依リ其ノ俸給月額八十圓未滿ニ減額セラルルモ公立學校職員年功加俸令ノ適用ニ付テハ仍俸給月額八十圓以上ヲ受クル者ト看做ス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和六年勅令第五百號)抄錄

第四項及第五項

從前ノ規定ニ依リ五級俸以上ノ各級ニ於テ經過シタル在職年數ハ之ヲ改正俸給ノ五級俸以上ノ各級ニ於ケル在職年數ト看做ス

從前ノ規定ニ依リ五級俸以上ヲ受クル者第二項ノ規定ニ依リ改正級俸ニ相當セザル俸給ヲ受クルトキハ之ヲ從前ノ級俸ト同等ノ改正級俸ヲ受ク

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

前項ノ規定ニ依リ計算スル金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム
 前二項ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年功加俸ヲ受クル者
 ニシテ其ノ年功加俸ト改正本俸トノ合計額ガ奉任官待遇ノ者ニ在リテハ
 年額千三百三十圓未滿、判任官待遇ノ者ニ在リテハ月額九十七圓未滿ノモ
 ノニハ之ヲ適用セズ
 前項ニ規定スル者ハ別表ノ改正ニ拘ラズ現ニ受クル年功加俸ヲ受クルモ
 ノトス

改〔甲學九〇〕

●文部省及直轄各部職員同一市町
 村内出張旅費支給細則

大正十五年二月十七日

文部省訓令第一號

昭和五年四月文部省訓令第四號改正

文部省及直轄各部職員同一市町村内出張旅費支給細則左ノ通定ス
 文部本省 直轄各部

第一條 在勤廳所在地ノ市町村内ノ出張ニシテ其行程二里以上ニ涉ルトキハ
 定額ノ三分ノ一ニ相當スル日當チ其ノ行程四里以上ニ涉ルトキハ定額
 ノ半額ニ相當スル日當チ支給ス

第二條 在勤廳所在地ノ市町村内ノ出張ニシテ引續キ五時間以上公務ニ從
 事スルトキハ定額ノ三分ノ一ニ相當スル日當チ引續キ八時間以上公務ニ
 從事スルトキハ定額ノ半額ニ相當スル日當チ支給ス

第三條 前二條ノ場合ニ官用ノ船馬車ニ依リ出張スルトキハ之ニ支給スヘ
 キ日當ハ更ニ其ノ半額トス

改〔甲學九〇〕

第四條 在勤處所在地又ハ在勤處所在地外ノ市町村内ニ於テ陸路三里、鐵道三十九軒、水路十五海里以外ノ地ニ出張スルトキハ内國旅費規則、文部省及直轄各部職員其ノ他ノ旅費規則ニ依ル鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給ス

交通不便其ノ他ノ事由ニ因リ特ニ多額ノ船車馬賃ヲ要シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

第五條 一日中旅費ノ支給額ヲ異ニスル場合ハ其ノ多キ額ヲ支給ス

附則
本細則ハ大正十五年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

●文部省所管官吏其ノ他ノ者ニ支給スル旅費減額ニ關スル件

昭和五年七月八日
官會一三號文部次官通牒

文部省所管官吏其ノ他ノ者ニ支給スル旅費ハ當分ノ間左記ノ通減額支給スルコトニ決定相成タルニ付御了知相成度依命此段通牒ス

一、内國旅費規則、外國旅費規則、南洋群島關東州南滿洲旅費規則、文部省及直轄各部職員其ノ他ノ旅費規則、判任官以上ノ待遇ヲ受ケル者、囑託職員及傭人ニ支給スル外國旅費規則並判任官以上ノ待遇ヲ受ケル者、囑託職員及傭人ニ支給スル南洋群島關東州南滿洲旅費規則ニ定ムル車馬賃、日當宿泊料ニ付テハ定額ノ一割五分食卓料、支度料、移轉料ニ付テハ定額ノ一割ヲ減額ス

二、各部局ニ於テ定メタル減額旅費並月額又ハ日額旅費ニ付テハ前號ニ準シ減額スルコト

三、前號ノ旅費ノ定額ニシテ普通ノ定額(同一ノ地域ニ於テ同一ノ階級ニ屬スル者ニ對シ支給シ得ル旅費ノ各定額中最高ノ金額)ニ比シ既ニ著シク減額シアル場合ニ付部局長ニ於テ已ムヲ得スト認メタルトキハ前號ニ依ル減額ノ割合ヲ緩和シ得ルコト

四、前各號ニ依リ減額支給スルニ當リ從來定額ヲ留ムルモノニ付テ算出上錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切上ケ錢位トシ圓位又ハ拾錢位ニ留ムルモノニ付テ算出上拾錢未滿ノ端數ヲ生シ其ノ端數五錢以下ナルトキハ之ヲ切上ケ五錢トシ其ノ他ハ之ヲ切上ケ拾錢位トス

五、本決定ニ依ル減額支給ハ昭和五年七月十五日ヨリ之ヲ實施ス但シ外國(關東州及南滿洲ヲ含マス)又ハ南洋群島ニ在ル者ニ付テハ實施期日ハ同年八月一日ヨリトス

(省內各局課長ハ會計課長ヨリ本文ノ趣旨通牒)

直轄各部長宛

車馬賃	付一里ニ
甲地方	日當一日ニ付
乙地方	日當一日ニ付

宿泊料一夜ニ付	甲地方	一五、三〇	一二、七五
乙地方	一〇、二〇	八、五〇	
食卓料一夜ニ付	甲地方	三、六〇	三、一五
乙地方	三、一五	二、二五	
移轉料	甲地方	二七〇圓以內	一九八圓以內
乙地方	一九八圓以內	一三五圓以內	

改(甲學八五)

別表第一號

親任官	一、三〇	一〇、二〇
勅任官	一、〇五	六、八〇
官任(五等以上)	八、〇〇	五、一〇
官任(六等以上)	八、〇〇	四、二五
官任(六級以下)	六、四〇	二、二五
判任(五級以上)	六、四〇	二、一五
判任(六級以下)	六、四〇	一、九〇
文部省及直轄各部職員其他ノ旅費規則		

別表第二號

親任官	一、三〇	一〇、二〇
勅任官	一、〇五	六、八〇
官任(五等以上)	八、〇〇	五、一〇
官任(六等以上)	八、〇〇	四、二五
官任(六級以下)	六、四〇	二、二五
判任(五級以上)	六、四〇	二、一五
判任(六級以下)	六、四〇	一、九〇
文部省及直轄各部職員其他ノ旅費規則		

別表第三號

省丁巡視門衛等	三〇	一、〇五	
給仕小使諸職工	三〇	一、一五	
等	三〇	九五	
車馬賃	付一里ニ	甲地方	日當一日ニ付
乙地方	日當一日ニ付		

親任官	一、一五	甲地方	日當一日ニ付
勅任官	一、七〇	乙地方	日當一日ニ付
官任(五等以上)	一、三〇	甲地方	日當一日ニ付
官任(六等以上)	一、三〇	乙地方	日當一日ニ付
官任(六級以下)	一、三〇	甲地方	日當一日ニ付
官任(六級以下)	一、三〇	乙地方	日當一日ニ付

改(甲學八五)

宿泊料一夜ニ付	甲地方	一五、三〇	一二、七五
乙地方	一〇、二〇	八、五〇	
食卓料一夜ニ付	甲地方	三、六〇	三、一五
乙地方	三、一五	二、二五	
移轉料	甲地方	二七〇圓以內	一九八圓以內
乙地方	一九八圓以內	一三五圓以內	

宿泊料一夜ニ付	甲地方	一五、三〇	一二、七五
乙地方	一〇、二〇	八、五〇	
食卓料一夜ニ付	甲地方	三、六〇	三、一五
乙地方	三、一五	二、二五	
移轉料	甲地方	二七〇圓以內	一九八圓以內
乙地方	一九八圓以內	一三五圓以內	

宿泊料一夜ニ付	甲地方	一五、三〇	一二、七五
乙地方	一〇、二〇	八、五〇	
食卓料一夜ニ付	甲地方	三、六〇	三、一五
乙地方	三、一五	二、二五	
移轉料	甲地方	二七〇圓以內	一九八圓以內
乙地方	一九八圓以內	一三五圓以內	

海軍 明治四十四年九月勅令第三九一號、四年六月第一九二號、大正九年五月第一七六號、
一三年一月第三〇六號、昭和五年三月第五六號改正
陸内國旅費規則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内國旅費規則

- 第一條 官吏公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス
- 第二條 旅費ハ鐵道貨、船貨、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、赴任手當、移轉料及家族移轉料ノ九種トス
- 鐵道貨及船貨ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ從ヒ實際ノ料金ニ依リ、車馬賃日當宿泊料食卓料及移轉料ハ別表ニ掲グルル所ニ從ヒ定額ニ依リ之ヲ支給ス
- 旅費ハ順路ニ依リ之ヲ計算ス但シ公務ノ都合ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル
- 第三條 鐵道旅行ニハ鐵道貨、水路旅行ニハ船貨、陸路旅行ニハ車馬賃ヲ支給ス
- 鐵道又ハ水路ニ依ラサル旅行ハ之ヲ陸路旅行トス
- 第四條 宿泊料ハ夜數ニ應ジ日當ハ日數ニ應ジテ之ヲ支給ス
- 水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セズ但シ官用ノ船舶ニ依リテ旅行スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲ爲ササルトキハ食卓料ヲ支給ス
- 第五條 旅費ノ支給ニ關シテハ旅行日數ハ出張地ニ於ケル滞在日數及途中已ムテ得サル事由ノ爲要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ三百三十軒、水路旅行ハ百海里、陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ズ但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス
- 第六條 赴任ノ場合ニ於テハ別ニ日當五日分宿泊料五夜分ニ相當スル赴任手當、移轉料及家族移轉料ヲ支給ス
- 家族移轉料ハ家族一人毎ニ舊任地又ハ本人ノ居住地ヨリ新任地ニ至ル本

●内國旅費規則

明治四十三年六月十八日
勅令第二百七十四號

改〔甲學八五〕

- 人相當ノ鐵道貨船貨車馬賃日當宿泊料食卓料ノ全額及赴任手當ノ三分ノ二ニ該當スル金額トス但シ十二歳未滿ノ家族ニ付テハ其ノ半額トス
- 家族ノ數三人ヲ超過スルトキハ其ノ超過スル者ニ付支給スル家族移轉料ハ前項ノ規定ニ依リ給額ノ半額トス
- 赴任者赴任後一年内ニ其ノ家族故ナクシテ新任地ニ移轉セザルトキハ家族移轉料ヲ支給セズ
- 第七條 官用ノ船、車、馬等ニ依リテ旅行スルトキハ鐵道貨、船貨、車馬賃ヲ支給セズ
- 第八條 陸路六里未滿、鐵道七十八軒未滿、水路三十海里未滿ノ旅行ニ在リテハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外其ノ支給スヘキ日當ハ定額ノ半額トス
- 一旅行ニシテ陸路、鐵道又ハ水路ニ互ルトキハ鐵道ハ十三軒、水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト見做シ前項ノ規定ヲ準用ス
- 第九條 在勤廳所在地ノ市町村内ノ出張ニシテ遠距離ニ涉ルトキハ定額半額以内ノ日當ヲ支給スルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於テ特別ノ事情アルトキハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ別ニ必要ナル費用ヲ支給スルコトヲ得
- 第九條ノ二 前條第二項ノ規定ハ在勤廳所在地ノ市町村内ノ出張ニシテ遠距離ニ涉ラサル場合又ハ在勤廳所在地外ノ市町村内ヲ旅行シタル場合ニ之ヲ準用ス
- 第十條 私事ノ爲任地又ハ居住地以外ニ滞在スル者轉任ヲ命セラレ又ハ新任用セラレ滞任地ヨリ赴任スル場合ニ於テハ滞在任地ヨリ新任地ニ至ル旅費額力舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費ヲ支給ス
- 前項ノ規定ハ私事ノ爲任地以外ニ滞在スル者滞任地ヨリ旅行スル場合ニ

改〔甲學八三〕

- 之ヲ準用ス
- 第十條ノ二 前項第一項ノ規定ハ舊任地又ハ本人ノ居住地以外ヨリ新任地ニ移轉スル家族ニ付支給スル家族移轉料ニ之ヲ準用ス
- 第十一條 新任用スル爲召喚セラレタル者ニハ官吏赴任ノ例ニ準シ新官相當ノ旅費ヲ支給ス
- 第十二條 特別ノ事情ニ依リ定額ノ車馬賃ヲ以テ其ノ實費ヲ支辨シ難キ場合ニ於テハ實費額ヲ支給スルコトヲ得
- 第十三條 車馬賃ハ其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ定額ヲ異ニスルモ通算上一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス
- 第十四條 年度又ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分計算スルノ必要アル場合ニ於テハ其ノ區分判明ナラザルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區別シ計算ス
- 第十五條 旅行中退官、退職、休職又ハ非職ト爲リタル者ニハ舊任地ニ至ル前官又ハ本官相當ノ旅費ヲ支給ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リテ失官シ又ハ免官セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ場合ニ於テハ第五條ニ定メタル旅程ノ割合ヲ以テ計算シタル日數ニ依リ旅費ヲ支給ス
- 旅行中死亡シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス
- 第十六條 事務引繼殘務調理等ノ爲退官者ニ旅行ヲ命スルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給ス
- 第十七條 所管大臣ハ測量土木工事等ノ爲現場ヲ巡廻スル官吏又ハ當時旅行ヲ要スル官吏ニ關シテ其ノ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

所管大臣ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第十七條ノ二 日當及宿泊料ハ同一地ニ滞在十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ一割、三十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ二割、六十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ三割、百日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ四割ヲ減ス

同一地ニ滞在中一時他ノ地ニ旅行シタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

第十八條 武官、陸海軍文官、鐵道事務ニ從事スル官吏及警察官ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ別ニ之ヲ定ム

第十九條 職員其ノ他本令ニ規定ナキ者ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ本令ニ準シテ之ヲ定ム

第二十條 當分ノ内朝鮮、臺灣、樺太又ハ千島國內ノ旅行ニ限リ所管大臣大藏大臣ト協議シテ旅費ノ定額ヲ增加スルコトヲ得

第二十一條 當分ノ内朝鮮、臺灣、樺太又ハ千島國在勤二年以上ニシテ退官、退職、休職又ハ非職ト爲リ三十日以内ニ同地出發歸郷スル者ニハ前官又ハ本官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得但シ刑事裁判若ハ懲戒處分ニ依リ失官シ若ハ免官セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官若ハ退職シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

在職中死亡シタルトキハ第一項ノ例ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給スルコトヲ得

(別表)

旅費額

改(甲學四六)

第二十二條 樺太ニ赴任スル者、千島國幌延島以北ニ赴任若ハ出張スル者、朝鮮ニ赴任スル者ニシテ江原道平安南道平安北道咸鏡南道咸鏡北道ニ赴ク者又ハ十一月ヨリ翌年二月ニ至ル期間内ニ樺太ニ出張スル者ニハ當分ノ内支度料ヲ支給スルコトヲ得其ノ額ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前轉任ヲ命セラレ、新ニ任用セラレ若ハ新ニ任用スル爲召喚セラレタル場合又ハ退官、退職、休職、非職ト爲リ若ハ死亡シタル場合ニ關シテハ舊令ニ依ル

附則

(大正九年五月勅令百七十六號)

本令ハ大正九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正七年勅令第二百八十五號ハ之ヲ廢止ス

本令施行前轉任ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレ若ハ新ニ任用スル爲召喚セラレタル者本令施行後著任シタルトキハ本令ニ依リ赴任手當及移轉料ヲ支給ス

前項ニ規定スル者ノ家族本令施行後新任地ニ到着シタルトキハ本令ニ依リ家族移轉料ヲ支給ス

附則

(大正十三年十二月勅令第三百六號)

本令ハ大正十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ引續キ同一地ニ滞在スル者ニ對スル第十七條ノ二ノ規定ノ適用ニ關シテハ本令施行前ノ日數ハ之ヲ通算セス

改(甲學八三)

官階	區分		日當	宿泊料		食卓料	移轉料
	一里馬	二付賃		甲地方	乙地方		
親任官	一圓五十錢	十二圓	十圓	十八圓	十五圓	四圓	三百圓以内
勅任官	一圓二十錢	八圓	七圓	十二圓	十圓	四圓	三百圓以内
奏任官	五等以上	九十錢	六圓	八圓	七圓	三圓五十錢	三百二十圓以内
	六等以下	九十錢	五圓	八圓	七圓	二圓五十錢	百五十圓以内
判任官	五級俸以上	七十五錢	三圓	五圓五十錢	五圓	二圓	百圓以内
	六級俸以下	七十五錢	二圓五十錢	四圓五十錢	四圓	二圓	百圓以内

備考

- 一 甲地方トハ大藏大臣ノ指定スル地域、乙地方トハ其ノ他ノ地域ヲ謂フ
- 二 一日中甲地方及乙地方ニ互ル旅行ニ付テハ出發地、用務地又ハ到着地カ甲地方ノ場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額ニ依リ其ノ他ノ場合ニ於テハ乙地方ノ定額ニ依ル
- 三 鐵道旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額、宿泊料ハ乙地方ノ定額ニ依リ水路旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額ニ依ル
- 四 赴任手當ハ甲地方ノ日當及宿泊料ノ定額ニ依リ之ヲ計算ス

● 内國旅費規則第二條ニ依ル鐵道賃、船賃

大正九年五月三十一日
大藏省令第十六號

附則 大正一〇年一月大藏省令第一號、昭和五年三月第五號改正

内國旅費規則第二條ニ依リ鐵道賃、船賃左ノ通相定メ大正九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

第一條 鐵道賃ハ左ノ區別ニ從ヒ旅客運賃(通行稅)及急行料金ニ依リ之ヲ計算ス

- 一、高等官ニ在リテハ一等ノ運賃但シ一等車ノ連結ナキ線路ニ依リ旅行ニ在リテハ二等ノ運賃
- 二、判任官ニ在リテハ二等ノ運賃但シ特別ノ必要ニ依リ一等車ニ乘車シタル場合ニ於テハ一等ノ運賃

トキハ左ノ區別ニ依リ旅費ヲ支給ス
 一 學校職員ニシテ勅任官ノ待遇ヲ受クル者ハ内國旅費規則ニ依リ勅任官ニ給スヘキ額、委任官五等以上ノ待遇ヲ受クル者又ハ委任官ノ待遇ヲ受ケ官等ノ配當ナキ者ニシテ年俸二千六百圓以上ヲ受クル者ハ内國旅費規則ニ依リ委任官五等以上ノ待遇ヲ受ケル者ニ給スヘキ額、其ノ他ノ委任官ノ待遇ヲ受クル者ハ内國旅費規則ニ依リ委任官六等以下ノ待遇ヲ受ケル者ニ給スヘキ額、其ノ判任官ノ待遇ヲ受ケ月俸百圓以上ヲ受ケル者ハ内國旅費規則ニ依リ判任官五級俸以上ノ待遇ヲ受ケ月俸百圓未滿ノ者ハ内國旅費規則ニ依リ判任官六級俸以下ノ待遇ヲ受ケル者ニ給スヘキ額、其ノ判任官六級俸以下ノ待遇ヲ受ケル者ハ内國旅費規則ニ依リ判任官六級俸以下ノ待遇ヲ受ケル者ニ給スヘキ額
 一 市町村職員ハ當該市町村ニ於テ支給スル額
 第九條 藥品監視員及畜牛結核病検査員タル獸醫ニシテ其ノ資格ヲ以テ旅行スルトキハ在官者ハ其ノ本官相當ノ旅費ヲ、在官者ニアラサル者ハ俸給月額百圓以上ヲ受ケル者ハ内國旅費規則ニ依リ判任官五級俸以上ノ待遇ヲ受ケル者ニ給スヘキ額、其ノ百圓未滿ノ者ハ内國旅費規則ニ依リ判任官六級俸以下ノ待遇ヲ受ケル者ニ給スヘキ額ヲ支給ス
 第十條 在勤處所在地ノ市町村内ノ出張ニシテ其ノ行程二里以上四里以内ニ涉ルトキハ定額ノ三分ノ一額ニ相當スル日當額、其ノ四里以上ニ涉ルトキハ定額ノ半額ニ相當スル日當額ヲ支給ス
 前項ノ場合ニ於テ公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要シタルトキハ宿泊料ヲ支給ス
 第十一條 在勤處所在地又ハ在勤處所在地外ノ市町村内ニ於テ陸路三里鐵道三十九軒水路十五海里以外ノ地ニ出張スルトキハ内國旅費規則、内務省所管旅費規則ニ依リ鐵道貨、船貨、車馬貨ヲ支給ス
 交通不便其ノ他ノ事由ニ因リ特ニ多額ノ船車馬貨ヲ要シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ實費ヲ支給ス

第十二條 在勤處所在地ノ市町村内ノ出張ニシテ引續キ五時間以上公務ニ從事スルトキハ定額ノ三分ノ一額ニ相當スル日當額引續キ八時間以上公務ニ從事スルトキハ定額ノ半額ニ相當スル日當額ヲ支給スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要シタルトキハ其ノ實費ヲ支給スルコトヲ得但シ宿泊料ノ定額ヲ超ユルコトヲ得ス
 第十二條ノ二 官用ノ船車馬ニ依リ出張スル者第十條又ハ前條ニ該當スル場合ニ於テハ之ニ支給スヘキ日當額ニ相當スル額ハ更ニ其ノ半額トス但シ其ノ行程六里以上ニ至ルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第十二條ノ三 一日中旅費ノ定額ヲ異ニスル場合ハ其ノ多額額ヲ支給シ定額同シクスル場合ハ其ノ一方ヲ支給ス
 第十三條 本則所定ノ旅費額ハ地方ノ狀況ニ依リ之ヲ減少シ若ハ其ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得
 第十四條 内國旅費規則第十七條ニ依リ月額日額旅費ノ支給又ハ旅費定額ノ減少若ハ其ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルノ必要アルトキハ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得
 第十五條 本則其ノ他別ニ定ムルモノノ外其ノ支給方ハ内國旅費規則ニ依リ
 第十六條 本則中在官者ト稱スルハ退職者ヲ包含セス
 附則 本則ハ大正九年六月一日以降ノ旅行ヨリ之ヲ適用ス
 左ノ規定ハ之ヲ廢止ス
 明治四十三年七月內務省訓令第六號內務省所管旅費規則
 大正七年七月內務省訓令第十一號內務省所管經費支辨ニ屬スル内地旅行者ニ旅費増給方ノ件
 附則 (大正十四年內務省訓令第一號)
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 大正十三年內務省訓令第七號ハ之ヲ廢止ス

改(甲學九五)

(別表)

旅費額

區別	鐵道貨	船貨	車馬貨 二付	日當		宿泊料		食卓料 二付	移轉料
				甲地方	乙地方	甲地方	乙地方		
甲	三等運賃	三等運賃	六十錢	二圓	一圓八十錢	三圓五十錢	三圓十錢	一圓二十錢	五十圓以内
乙	三等運賃	三等運賃	四十五錢	一圓五十錢	一圓三十錢	三圓	二圓八十錢	八十錢	三十五圓以内

改(甲學八三)

備考

- 一、甲地方乙地方ニ關シテハ内國旅費規則中別表備考ニ同シ
- 二、鐵道運賃ニハ通行料ヲ含ム
- 三、鐵道運賃ノ等級ニ階級ニ區分スルモノニ在リテハ低級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車ニ要スル運賃ヲ支給ス
- 四、特別ノ必要ニ依リ上級車ニ乘車シタルトキハ其ノ運賃ヲ支給ス
- 五、八十五軒以上ノ旅行ニ在リテハ普通急行料金ヲ支給ス但シ急行料金ヲ徵セサル線路ニ依リ旅行スル場合ニ於テハ此ノ限リニ在ラス
- 六、特別ノ必要ニ依リ普通急行列車又ハ特別急行列車ニ乘車シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ拘ラス其ノ乘車ニ要スル急行料金ヲ支給ス
- 七、船貨ハ旅客運賃(要スル場合ニ於テハ夕食及朝食ニ對スル所定ノ料金ヲ含ム)及急行料金ニ依リ鐵道貨ノ例ニ準シ之ヲ支給ス

●公立小學校教員疾病療治料給與
 二關スル準則

八正四年四月八日
 文部省令第八號

公立小學校教員疾病療治料給與ニ關スル準則左ノ通定ム
 公立小學校教員疾病療治料給與ニ關スル準則
 第一條 教育基金第五條第二號ノ公立小學校教員疾病療治料ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ給スヘシ

第二條 公立小學校正教員ニシテ兒童ノ衛生上特ニ考慮ヲ要スヘキ疾病ニ罹リ休職ヲ命セラレタル者ニハ勤続年數其ノ他ノ事情ヲ斟酌シ百圓以上二百圓以下ノ疾病療治料ヲ給スヘシ
 第三條 公立小學校正教員ニシテ兒童ノ衛生上特ニ考慮ヲ要スヘキ疾病ニ罹リ休職ヲ命セラレタル者ニハ勤続年數其ノ他ノ事情ヲ斟酌シ二百圓以上四百圓以下ノ疾病療治料ヲ給スヘシ但シ休職期間中退職ヲ命セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス
 第四條 公立小學校准教員ニハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ疾病療治料ノ額ハ休職ノ場合ニハ五拾圓以上百五拾圓以下退職ノ場合ニハ百圓以上二百五拾圓以下トス

第九章 職員 第六節 俸給旅費及諸給

第五條 公立小學校代用教員ニシテ第三條ニ準スヘキ者ニハ勤続年數其ノ他ノ事情ヲ斟酌シ百圓以下ノ疾病療治料ヲ給スヘシ
第六條 地方長官ニ於テ本令ニ依リ公立小學校教員ニ對シ疾病療治料ヲ給セントスルトキハ學校醫又ハ其ノ他ノ醫師ヲシテ該教員ノ身體檢査ヲ行ハシメ診斷書ヲ徴スヘシ

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

市町村立小學校教員住宅費補助ニ關スル規程

明治四十年九月二十六日
文部省令第三十號

市町村立小學校教員住宅費補助ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 明治四十年勅令第二百七十七號第二條ニ依リ北海道地方費及府縣ニ於テ市町村立小學校教員住宅費ニ補助スル場合ハ本令ノ規定ニ依ルヘシ
第二條 住宅費補助ハ教員ノ住宅ヲ建設シ又ハ教員ニ住宅料ヲ給與シ若ハ教員ニ住宅ヲ供給スル爲賃借料ヲ支拂フ場合ニ於テ市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ニ對シテ之ヲ爲スモノトス
第三條 住宅費補助金ノ殘餘ハ市町村立小學校教員加俸令ニ依リ加俸資金ニ編入スヘシ
第四條 本令中市町村、町村學校組合及其ノ區ニ關スル規定ハ市町村制ヲ施行セサル地方ノ小學校設置區域ニ適用ス

附則
本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

改〔甲學二五〔十九四〕

第七節 恩給

恩給法 大正十二年四月十四日
法律第四十八號

昭和八年四月法律第五〇號改正
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル恩給法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 公務員及之ニ準スヘキ者並其ノ遺族ハ本法ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス
第二條 本法ニ於テ恩給トハ普通恩給、增加恩給、傷病年金、一時恩給、傷病賜金、扶助料及一時扶助料ヲ謂フ
普通恩給、增加恩給、傷病年金及扶助料ハ年金トシ一時恩給、傷病賜金及一時扶助料ハ一時金トス
第三條 年金タル恩給ノ給與ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル
第四條 恩給年額並一時恩給及一時扶助料ノ額ノ單位未滿ハ之ヲ單位ニ滿タシム
第五條 恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セザルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
第六條 普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ再就職スルトキハ前條ノ期間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ進行ス
前項ノ規定ハ普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮内職員トシテ就

第九章 職員 第七節 恩給

改〔甲學一〇四〕

職シタル場合ニ付之ヲ準用ス
第七條 時効期間滿了前二十日內ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ妨礙ノ止ミタル日ヨリ二十日內ハ時効完成セス
時効期間滿了前六日內ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁治產者法定代理人ヲ有セサル爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ請求ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル日ヨリ六月內ハ時効完成セス
時効期間滿了前二週法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公證アルトキハ時効期間內ニ權限アル官公署ニ到達セサルモ之ヲ時効期間內ニ到達シタルモノト看做ス

第八條 公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ恩給ヲ併給セラレヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ本法ニ依リ恩給ト宮内官ノ恩給規程ニ依リ恩給ト併給セラレヘキ場合ニ於テ宮内官ノ恩給規程ニ依リ恩給ヲ給セラレタルトキハ本法ニ依リ恩給ハ之ヲ給セス
第九條 年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ權利消滅ス
一 死亡シタルトキ
二 死刑又ハ無期若ハ二年ヲ超ニル懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ
三 國籍ヲ失ヒタルトキ

在職中ノ職務ニ關スル犯罪(過失犯ヲ除ク)ニ因リ禁錮以上ノ刑(陸軍刑

第二十四條 待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 判任官以上ノ待遇ヲ受クル神宮司廳職員、神宮神部署職員及官國幣社ノ神職
- 二 判任官以上ノ待遇ヲ受クル監獄ノ職員（前條第二號ニ掲クル者ヲ除ク）、感化院職員及矯正院職員
- 三 地方待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ
- 四 前三號ニ掲クル者ヲ除クノ外國庫ヨリ俸給又ハ給料ヲ給スル待遇職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

第二十五條 本法ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

- 一 文官ニ在リテハ任官但シ終身官タル文官ニ在リテハ任官ノ外復職ニ在リテハ任官又ハ入替若ハ入團、非現役軍人ニ在リテハ召集ニ依ル部隊編入又ハ志願ニ依リ軍人タル勤務ニ就クコト
- 二 教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命
- 三 警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命但シ巡查若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手警部補ニ任シ又ハ警部補巡查若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ就スルトキハ之ヲ轉任ト看做ス
- 四 現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除志願ニ依リ軍人タル勤務ニ服スル者ニ

第二十六條 本法ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

- 一 文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免官、退官、失官ノ外退職
- 二 現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除志願ニ依リ軍人タル勤務ニ服スル者ニ

改〔甲學一〇六〕

付テハ解職但シ下士官准士官以上ノ軍人ト爲リタルトキハ普通恩給ニ付テハ最短恩給年限ノ計算ニ關シテハ之ヲ退職ト看做ス

三 教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、解職又ハ失職

四 警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職又ハ失職但シ警部補他ノ官職ニ轉シ又ハ他ノ官ヨリ警部補ニ轉シタルトキハ之ヲ退職ト看做ス

五 待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

第二十七條 第二十五條第一號及前條第一號ノ規定ハ準文官ノ就職及退職ニ付テハ準用ス

第二十八條 公務員ノ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給又ハ第八十二條ニ規定スル一時扶助料ノ基礎ト爲ルヘキ在職年月數付テハ前二一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年月數ノ他ノ前在職年月數ハ之ヲ合算セズ

退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ再就職ノ在職年ハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

第二十九條 公務員ニ以上ノ官職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

第三十條 軍人又ハ警察監獄職員ノ恩給額ニ付テハ其ノ在職年ヲ計算スル場合

改〔甲學一〇六〕

ニ於テハ准士官以上ノ軍人ニ付テハ十三年ニ達スル迄、下士官以下ノ軍人及警察監獄職員ニ付テハ十二年ニ達スル迄ハ軍人又ハ警察監獄職員以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ十分ノ七ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス

第三十一條 (削除)

第三十二條 公務員其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ左記各號ノ規定ニ依リ加算ス

- 一 戦地ニ在リテ職務ニ服シタルトキハ從軍期間ノ一月ニ付三月
- 二 戦地外ニ在リテ職務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半

前項ノ規定ハ公務員其ノ職務ヲ以テ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ職務ニ服シタル場合ニ付テハ準用ス

戰爭ノ期間及地域、職務ノ範圍並戰爭ニ準スヘキ事變ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 公務員外國ノ交戦又ハ擾亂ノ地域内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ外國ノ交戦又ハ擾亂ノ地域及期間ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 公務員戒嚴地域内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所カ内國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第三十五條 公務員外國領成ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

第三十六條 航空機乗員タル公務員其ノ職務ヲ以テ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月以内ヲ加算ス

第三十七條 潜水艦乗員タル公務員其ノ職務ヲ以テ在役潜水艦ノ勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月ヲ加算ス

第三十八條 公務員其ノ職務ヲ以テ遠征又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月以内ヲ加算ス不健康ナル業務ニ引續キ一年以上在勤シタルトキ亦同シ

前項ノ地域相互間ノ轉勤ハ之ヲ引續キタル在勤ト看做ス

第一項ノ地域及業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條 海上勤務ニ服スル公務員其ノ職務ヲ以テ遠洋航海ヲ爲シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付三分ノ一月ヲ加算ス一年以上引續キ編隊艦船ニ乗シテ上陸制限ノ下ニ準戰訓練ニ服シタルトキ亦同シ

前項ノ遠洋航海ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條 第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從テ之ヲ算入ス

加算年ヲ附スヘキ基礎在職年ハ加算事由ノ生シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ事由ノ止ミタル月ヲ以テ終ル

二種以上ノ加算年ヲ附セラレハキ期間ニ對シテハ最モ利益ナルモノニ依リ其ノ一ヲ附ス

第四十一條 左ニ掲クル年月數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス

- 一 普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給額ノ基礎ト爲リタル在職年
- 二 第五十一條ノ規定ニ依リ公務員力恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年
- 三 在職中二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ

在職年月數但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受ケルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數

四 公務員退職後在職中ノ職務ニ關スル犯罪(過失犯ヲ除ク)ニ付陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ犯罪ノ時ヲ含ム引續キタル在職年月數

五 公務員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數

六 宮内職員トシテノ在職年月數ニシテ宮内官ノ恩給規程ニ依リ除算セラルヘキモノ

第四十二條 左ニ掲グル年月數ハ之ヲ在職年ニ通算ス

一 宮内官ノ恩給規程ニ依リ宮内官恩給權ノ基礎ト爲ルヘキ宮内職員トシテノ在職年月數

二 準軍人ノ在職年月數

三 高等文官ノ試補又ハ判任官見習引續キ公務員ト爲リタルトキハ公務員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤続年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

四 準教育職員引續キ教育職員ト爲リタルトキハ教育職員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤続年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

第二十八條、第二十九條及第三十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付テ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ準軍人又ハ皇宮警手トシテノ在職年ハ夫々之ヲ軍人又ハ警察監獄職員トシテノ在職年ト看做ス

第四十三條 第三十二條乃至第四十條ノ規定ハ準軍人ノ在職年ノ計算ニ付テ之ヲ準用ス

改〔甲學一〇六〕

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ニ規定スル條件(傷病ノ程度ヲ除ク)ヲ具備スル者ニシテ退職當時ノ傷病ノ程度方前項ノ勅令ニ定ムル程度ニ達セザリシモノノ傷病年金ニ付テ之ヲ準用ス

前條第四項ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リ給スヘキ傷病年金ニ付テ之ヲ準用ス

傷病年金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

第四十七條 前二條ノ規定ハ準文官、陸軍ノ見習士官海軍ノ候補生以外ノ準軍人又ハ準教育職員ニシテ在職中公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノ及陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生ニシテ公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノニ付テ之ヲ準用ス

第四十八條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス

一 勅令ヲ以テ指定スル地域ニ在勤中其ノ地ニ於テ流行病ニ罹リタルトキ

二 戰地ニ於テ又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ

三 公務員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ

前項ノ流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付テ之ヲ準用ス

第四十九條 公務傷病ノ原因ヲ分ツテ戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ト普通公務トス

戰闘ニ準スヘキ公務ノ範圍、公務傷病ニ因ル不具癡疾ノ程度及傷病年金ヲ給スヘキ傷病ノ程度並教育職員、警察監獄職員、待遇職員、準文官、準軍人及準教育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅令

第四十條ノ二及第四十一條ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リ在職年ノ通算セラルヘキ年月ニ付テ之ヲ準用ス

第四十四條 本法ニ於テ俸給トハ本俸及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

本俸ニ準スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公務員ニ以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラルル場合ニ於テハ俸給額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ者ノ俸給額トス

第四十五條 公務員所定ノ年數在職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

第四十六條 公務員公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癡疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

公務員公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癡疾ト爲リ又ハ其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受ケル增加恩給ヲ不具癡疾ノ程度ニ相應スル增加恩給ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖裁定官廳ニ於テ恩給審査會ノ議ニ付スルヲ相當ト認メ且恩給審査會ニ於テ不具癡疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ議決シタル月ノ翌月ヨリ之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ之ヲ改定ス

公務員公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癡疾ト爲ルモ公務員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ノ規定スル恩給ヲ給セス

第四十六條ノ二 公務員公務ノ爲永續性ヲ有スル傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癡疾ノ程度ニ至ラサルモ勅令ノ定ムル程度ニ達シ失格原因ナクシテ之カ爲其ノ職ニ堪ヘスシテ一年内ニ退職シタルトキ又ハ其ノ公務員カ下士官以下ノ軍人ニシテ退職後一年内ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病年金ヲ給ス

テ以テ之ヲ定ム

第五十條 裁定官廳ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具癡疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷病回復セザル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス

前二項ノ規定ハ傷病年金ノ裁定ヲ爲ス場合ニ付テ之ヲ準用ス

第五十一條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受ケルノ資格ヲ失フ

一 懲戒、懲罰又ハ教員免許狀奪奪ノ處分ニ因リ退職シタルトキ

二 在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十六條第二號但書及第四號但書ノ規定ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五十二條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員トシテ在職スルモノニ付テハ總テノ公務員ト退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ退職ノ當日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シテ之ヲ勤続ト看做サルモノニ付テハ後ノ公務員ト退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ恩給ヲ給セサル官職ニ轉シ退職シタルモノニ付テハ其ノ轉任ヲ退職ト看做シ之ニ恩給ヲ給ス

第五十三條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮内職員トシテ在職スルモノニ付テハ本法ニ依リ恩給ハ之ヲ給セ

改〔甲學一〇四〕

第五十四條

普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各

- 一 再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ
二 再就職後公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具瘥疾ト爲リ退職シタルトキ
三 再就職後公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具瘥疾ト爲リ又ハ其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキ

第五十五條

前項第三號ノ場合ニ於テハ第四十六條第三項ノ規定ヲ準用ス

算シ其ノ年額ヲ定メ增加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷病又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具瘥疾ノ程度トシ其ノ恩給年額ヲ定ム

- 一 後ノ傷病又ハ疾病カ職間又ハ職間ニ準スヘキ公務ニ起因スルトキハ別表第二號表甲號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具瘥疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ヨリ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表甲號中其ノ不具瘥疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス但シ後ノ傷病又ハ疾病ノミニ因ル增加恩給年額カ前後ノ傷病又ハ疾病ヲ合シタルモノニ依リ增加恩給年額ト同額ナルトキハ此ノ控除ヲ爲サス
二 後ノ傷病又ハ疾病カ普通公務ニ起因スルトキハ別表第二號表乙號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具瘥疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ニ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表乙號中其ノ不具瘥疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス

コトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割ヲ超ユルコトナシ
前項第四號ノ所得ノ範圍及計算方法並停止方法ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條

文官ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

下士官以上ノ軍人ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

教育職員ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ朝鮮、臺灣又ハ樺太以外ノ地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟ニ對シ其ノ俸給(又ハ給料)ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ
警察監獄職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ毎月其ノ俸給(又ハ給料)ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ
待遇職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ毎月其ノ俸給(又ハ給料)ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第五十九條ノ二

本節ニ於テ退職前ノ俸給年額ト稱スルハ退職前一年内ノ俸給(軍人及準軍人ニ在リテハ各階等ニ付定メラレタル別表第一號表ノ假定俸給額ヲ以テ其ノ階等ニ對スル俸給額トス)ノ總額ヲ謂フ但シ左ノ特例ニ從フ
一 公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲退職シ又ハ死亡シタル者ニ付退職又ハ死亡ノ際昇給アリタルトキハ其ノ爲サレタル昇給ノ中級俸ノ定アルモノ(軍人及準軍人ニ付テハ別表第一號表ノ假定俸給額ヲ

第五十五條ノ二

前二條中增加恩給ノ改定ニ關スル規定ハ傷病年金ヲ受ケル者再就職シ再就職後公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シ增加恩給又ハ傷病年金ヲ受ケヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

- 第五十六條 前三條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス
第五十七條 前四條ノ規定ハ宮内官ノ恩給規程ニ依リ恩給ヲ受ケル者公務員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス
第五十八條 普通恩給ハ之ヲ受ケル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間之ヲ停止ス
一 公務員又ハ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮内職員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實在職期間一月未滿ナルトキ、軍人以外ノ公務員トシテ恩給ヲ受ケル者陸軍若ハ海軍ノ兵トシテ就職スルトキ又ハ准士官以下ノ軍人若ハ準軍人トシテ恩給ヲ受ケル者軍人以外ノ公務員トシテ就職スルトキハ此ノ限ニ在ラス
二 二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受ケルコトナキニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受ケルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス
三 之ヲ受ケル者三十五歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ六分ノ一、三十五歳以上四十歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ八分ノ一ヲ停止ス但シ增加恩給又ハ傷病年金ト併給セラレタル場合ニハ之ヲ停止セス
四 恩給年額千圓以上ニシテ其ノ恩給外ノ所得ノ年額五千圓ヲ超ユルトキハ恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額ノ六千圓ヲ超ユル額ノ二割ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額年額千圓下ラシムル

改(甲學一〇四)
以テ級俸トス)ニ付テハ一級、其ノ定ナキモノニ付テハ昇給前ノ俸給ノ百分ノ十五ヲ限度トシ退職一年前ヨリ昇給セラレタルモノトシテ計算ス
二 前號ニ規定スル場合以外ノ場合ニ於テ退職前一年内ニ昇給アリタルトキハ其ノ昇給前俸給二年以上據置ノ後爲サレタルモノナルトキニ限り前號ノ規定ヲ準用ス
轉官職ニ依リ俸給ノ増額ハ之ヲ昇給ト看做シ前項但書ノ規定ヲ準用ス
前二項ニ規定スル退職前一年内ノ俸給ノ算出方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
實在職期間一年未滿ナルトキハ其ノ俸給額ヲ月數ノ割合ニ依リ一年分ニ換算ス
本節ニ於テ退職前ノ俸給月額ト稱スルハ退職前ノ俸給年額ノ十二分ノ一ニ相當スル金額ヲ謂フ
第六十條 文官在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス
前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス
前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實動績在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ動績在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ動績在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス
在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス
第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテノ在職年七年以上ナルヲ以テ足ル

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號、第五十五條ノ二又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十七條ノ規定ニ依リ準士官ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十三年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第六十一條 准士官以上ノ軍人在職年十三年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ第二十一條第二項第一號ノ準軍人在職年十三年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十三年以上十四年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十四年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前條第三項ノ規定ハ准士官以上ノ軍人ニ付之ヲ準用ス

在職年五十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年五十年トシテ計算ス

陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ二年以上實任シ最高ノ俸給ヲ受ケタル者ニハ高等官八等ノ額ヲ給ス

第四十六條、第四十七條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十三年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十三年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十一條ノ二 下士官以下ノ軍人在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ第二十一條第二項第二號ノ準軍人在職年十二年以上ニシテ

退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十三年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ下士官ニ在リテハ七圓、兵ニ在リテハ六圓ヲ加ヘタル金額トス

第六十二條 教育職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校又ハ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員トシテノ勤続在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤続在職年十七年ヲ控除シタル後ノ勤続在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第二項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ中學校又ハ之ト同等以下ノ程度ノ學校ノ教育職員トシテノ勤続在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤続在職年中十七年ヲ控除シタル後ノ勤続在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

前項ノ中學校ト同等以下ノ程度ノ學校ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十

改〔甲學一〇四〕

改〔甲學一〇四〕

七年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ教育職員ニ付之ヲ準用ス

第四十七條ノ規定ニ依リ準教育職員ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トス

第六十三條 警察監獄職員在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十二年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ警察監獄職員トシテノ勤続在職年十二年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤続在職年中十二年ヲ控除シタル後ノ勤続在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十二年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十四條 待遇職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ警察監獄職員ニ付之ヲ準用ス

第六十七條 文官、教育職員又ハ待遇職員在職年三年以上十七年未滿ニシ

準用ス

第六十四條ノ二 一時恩給ヲ受ケタル後其ノ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年數一年ヲ二月ニ換算シタル月數内ニ召集其ノ他ノ強制ニ依ラスシテ再就職シタル者ニ普通恩給ヲ給スル場合ニ於テハ當該換算月數ト退職ノ翌月ヨリ再就職ノ月迄ノ月數トノ差月數ヲ一時恩給額算出ノ基礎ト爲リタル俸給月額ノ二分ノ一ニ乘シタル金額ノ十五分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ普通恩給ノ年額トス但シ差月數一月ニ付一時恩給額算出ノ基礎ト爲リタル俸給月額ノ二分ノ一ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ勅令ノ定ムル時期ニ於テ返還シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十五條 公務員ノ増加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具癡疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ増加恩給ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十五條ノ二 公務員ノ傷病年額ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及傷病ノ程度ニ依リ定メタル別表第三號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ傷病年額ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十六條 下士官以下ノ軍人公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ傷病年額ヲ給セラルルノ程度ニ至ラサルモ之カ爲退職シ又ハ退職後一年内ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病賜金ヲ給ス

傷病賜金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

傷病賜金ノ額ハ退職當時ノ階等並傷病ノ原因及程度ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

前項ノ傷病ノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 文官、教育職員又ハ待遇職員在職年三年以上十七年未滿ニシ

ヲ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス
前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年
數ヲ乘シタル金額トス

第六十八條 准士官以上ノ軍人在職年三年以上十三年未滿ニシテ又ハ下士
官在職年三年以上十二年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給
ス但シ下士官以上トシテノ在職年一年未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年
數ヲ乘シタル金額トス

第六十九條 (削除)

第七十條 警察監獄職員在職年三年以上十二年未滿ニシテ退職シタルトキ
ハ之ニ一時恩給ヲ給ス
前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年
數ヲ乘シタル金額トス

第七十一條 (削除)

第三章 遺族

第七十二條 本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、
父、母、夫、妻、子及兄弟姉妹ニシテ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡
ノ當時之ト同一戸籍内ニ在ルモノヲ謂フ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前
項ノ規定ノ適用ニ付テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時其ノ戸
籍内ニ在リタルモノト看做ス

第七十三條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其
ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位
ニ依リ之ニ扶助料ヲ給ス
一 在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘ
キトキ

改(甲學一〇四)

二 普通恩給ヲ給セラレル者死亡シタルトキ
前項ノ規定ニ依リ同順位ノ子數人アルトキハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者
ヲ被相続人トシタル家督相続ノ順位ニ準ジ之ヲ定ム
父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父
母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス
先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前
三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限リ之ヲ適用ス
第七十四條 未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス
夫又ハ成年ノ子ハ不具養疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養ス
ル者ナキトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス
養子ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相続人タルトキ又ハ公務員若ハ
之ニ準スヘキ者カ家督相続人ニシテ之ヲ戸主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ
時ニ於テ其ノ家督相続人タルヘキ者ニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス
前項ノ家督相続人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第七十五條 扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

一 公務員又ハ之ニ準スヘキ者戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務員ニ因ル傷疾
疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ全額
二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者普通公務員ニ因ル傷疾疾病ノ爲死亡シタル
トキハ其ノ普通恩給年額ノ十分ノ八ニ相當スル金額
三 其ノ他ノ場合ニ於テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ給セラレル普通
恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

前項第一號又ハ第二號ニ規定スル場合及增加恩給ヲ併給セラレル者ノ死
亡シタル場合ニハ其ノ死亡ノ月ノ翌月ヨリ五年間前項ノ規定ニ依リ扶
助料ノ年額ニ各其ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ加給ス
第七十六條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當

改(甲學一〇四)

スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ
一 子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ
又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ
其ノ家ニ入りタルトキハ此ノ限ニ在ラス
二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去
リタルトキ
三 父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ
第七十七條 扶助料ヲ受クル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタ
ルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受ケルコ
トナキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタ
ルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セズ其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月
ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受ケルコトナキニ至リタル月迄之
ヲ停止ス
前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル
者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス
第七十八條 扶助料ヲ給セラレヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位
者ノ申請ニ依リ裁定官廳ハ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得
第七十九條 前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停
止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス
第八十條 遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失
フ
一 其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タ
ル子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入りタルトキ及子父ノ屬シタ
ル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家
スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入りタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 妻、子又ハ夫婚姻シタルトキ
三 不具養疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキ
ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ
届出ヲ爲ササルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ入りタリト認メラレ
遺族ニ付テハ裁定官廳ハ恩給審査會ニ諮問ノ上其ノ者ノ扶助料ヲ受クル
ノ權利ヲ失ハシムルコトヲ得
裁定官廳ハ前項ノ規定スル事情ヲ調査スル爲必要アルトキハ他ノ官廳又
ハ公署ノ援助ヲ求ムルコトヲ得
第八十一條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者第七十三條第一項各號ノ一ニ該當
シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ
不具養疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限
リ之ニ一時扶助料ヲ給ス
前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分
乃至五年分ニ相當スル金額トス
第八十二條 文官、教育職員又ハ待遇職員在職年三年以上十七年未滿、准
士官以上ノ軍人在職年三年以上十三年未滿、下士官タル軍人又ハ警察監
獄職員在職年三年以上十二年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ
遺族ニ一時扶助料ヲ給ス
前項ノ一時扶助料ノ金額ハ公務員ノ死亡前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ
其ノ公務員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス
第五十九條ノ二第五項ノ規定ハ死亡前ノ俸給月額ニ付之ヲ準用ス
第七十三條中遺族ノ順位ニ關スル規定及第七十四條ノ規定ハ第一項ノ扶
助料ヲ給スル場合ニ付之ヲ準用ス

第八十三條 本法ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十四條 左ノ法令ハ之ヲ廢止ス

- 一 官吏恩給法
- 一 官吏遺族扶助法
- 一 軍人恩給法
- 一 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法
- 一 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法
- 一 明治二十四年法律第四號
- 一 明治二十九年法律第十三號
- 一 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則
- 一 明治二十九年法律第七十八號
- 一 明治三十三年法律第七十五號
- 一 明治三十三年法律第七十六號
- 一 明治三十三年法律第七十七號
- 一 逕查看守退職料及遺族扶助料法
- 一 明治三十五年法律第二十九號
- 一 在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法
- 一 明治四十年法律第四十八號
- 一 明治四十年法律第四十九號
- 一 明治四十一年法律第三十五號
- 一 明治四十四年法律第三十號
- 一 明治四十四年法律第六十一號
- 一 明治四十四年法律第六十七號
- 一 明治四十五年法律第十一號
- 一 明治四十五年法律第十二號
- 一 大正七年法律第三十號

- 一 大正十年法律第三十五號
- 一 大正十年法律第九十四號
- 一 大正十一年法律第十八號
- 一 大正十一年法律第十九號
- 一 明治二十二年勅令第三百三十三號
- 一 明治二十三年勅令第九十八號
- 一 明治二十五年勅令第十八號
- 一 明治二十五年勅令第三十二號
- 一 明治三十二年勅令第九十六號
- 一 明治三十八年勅令第二百二十九號
- 一 明治四十年勅令第八十八號
- 一 明治四十年勅令第八十九號
- 一 明治四十一年勅令第七十一號
- 一 明治四十五年勅令第七十號
- 一 大正七年勅令第六十二號
- 一 大正十年勅令第二百六十八號
- 一 大正十一年勅令第八十七號
- 一 大正十一年勅令第二百八十四號
- 一 明治九年第九十九號陸軍恩給令
- 一 明治十五年第四十一號逕查看守給助例
- 一 明治十六年第三十八號海軍恩給令
- 一 明治十七年第一號逕看官吏恩給令

之ヲ本法ニ依リ受テ又ハ受テヘキ恩給ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依ル恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノカ本法ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ公務員及其ノ遺族ノ種類並給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム

第八十六條 第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩給、退職料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受テヘキ權利ニシテ本法施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依リ請求期間ヲ經過セサルモノニ付テハ適用ス

第八十七條 第十條ノ規定ハ本法施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退職料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ本法施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付テハ適用ス

第八十八條 從前ノ規定ニ依リ内閣總理大臣ノ爲シタル裁定ハ具申、訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ之ヲ本法ニ依リ内閣恩給局長ノ裁定ト看做シ從前ノ規定ニ依リ具申ノ裁決ハ之ヲ本法ニ依リ具申ノ裁決ト看做ス

第八十九條 府縣ニシテ本法施行ノ際市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第十四條ノ規定ニ依リ小學校教員恩給基金ヲ備フルモノハ本法施行後引續キ其ノ恩給基金ヲ備フルコトヲ得

第九十條 本法施行ノ際ニ具申中又ハ訴願中ノ事件ニ付テハ從前ノ手續規定ニ依リ之ヲ完結ス

第九十條 本法施行前ノ在職ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限リ本法施行前ノ在職ト雖加算年ニ關スル規定ヲ除クノ外本法ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

第九十一條 内地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ臺灣、朝鮮、關東州、關東廳及其ノ所屬官署職員ニ付テハ南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム、樺太又ハ南洋群島ニ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキハ當分ノ内在勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

第九十二條 公務員其ノ職務ヲ以テ國境警備又ハ理蕃ノ爲危險地域内ニ勤務シタルトキハ當分ノ内在勤期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

第九十三條 海軍警吏補ヨリ海軍巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ現ニ南洋廳巡查ノ職ニ在ルモノニ付テハ其ノ海軍警吏補トシテノ在

第九章 職員 第七節 恩給

職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十四條 朝鮮總督府巡査補ヨリ朝鮮總督府巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ統監府巡査補及朝鮮總督府巡査補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十五條 臺灣總督府巡査補ヨリ臺灣總督府巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ臺灣總督府巡査補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十六條 大正九年七月三十一日以前ニ休職若ハ待命ト爲リタル者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ休職若ハ待命中ノモノ又ハ其ノ遺族同日以前ノ俸給ニ基キ年金額ヲ受ケヘキ場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

第九十七條 第四十六條第二項第三項及第五十四條第一項第三號第二項ノ規定ハ本法施行前退職シタル公務員ニ付テハ適用ス

第九十八條 第四十八條ノ規定ハ本法施行前傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本法施行後退職シ本法施行後不具疾疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第九十九條 (削除) 第一百條 本法施行前死亡シタル者ノ遺族ノ扶助料ニシテ本法施行後轉給セラルヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル恩給額ヲ標準トスルノ外本法ニ

依リ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受ケタル事ヲ得ル者ノ權利ヲ妨ケルコトナシ

本法施行前ニ扶助料ヲ受ケタルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セサルニ至リタル者ハ之ヲ受ケタルノ權利ヲ本法ニ依リ取得スルコトナシ

第一項ノ場合ニ於テ本法ニ依リ扶助料ヲ受ケタルニ付先順位ニ在ルヘキ者ト雖本法ニ依リ後順位ニ在ル者先ニ扶助料ヲ受ケタル場合ニハ本法ニ依リ扶助料ヲ受ケタルノ權利ヲ有スルコトナシ

大正六年法律第六號附則ノ規定ニ依リ恩給ノ増額ヲ受ケザリシ軍人ノ遺族ハ本法施行後扶助料ヲ轉給セラルヘキ場合ニ於テ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ軍人ノ恩給ハ之ヲ請求ナクテ同法附則ノ規定ニ依リ増額セラレタルモノト看做ス

第一百條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年金額ヲ恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受ケヘキ者ニシテ本法所定ノ恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ増給ス

第一百零一條 明治二十四年八月十六日以降明治四十三年三月三十一日迄ニ退官退職シ又ハ死亡シタル文官、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衛若ハ衆議院守衛又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ俸給令ニ依リ俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給又ハ扶助料ヲ本法施行ノ日ヨリ増額給與ス

前項ノ規定ハ明治四十四年三月三十一日以前ニ退職シタル小學校、實業補習學校、幼稚園及育啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職

第六條 第四十條ノ二ノ改正規定ハ本法施行ノ際現ニ進行中ニ屬スル休職、待命、歸休、停職其ノ他同條ニ規定スル在職期間ニ付テハ其ノ期間ノ終了ニ至ル迄本法施行後ト雖モ同條ノ規定ヲ適用セス

第七條 傷病年金ハ本法施行後公務員ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ニ之ヲ給ス但シ本法施行前職金(之ニ準ズルモノヲ含ム)又ハ傷病賜金ヲ受ケベキ事由ヲ生ジタル者ニハ本法施行前其ノ事由ヲ生ジタルトキト雖モ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病ノ程度ヲ査定シ將來ニ向ツテ之ヲ給ス

第八條 第五十八條第一項第三號ノ改正規定ハ本法施行前普通恩給ヲ受ケタルノ權利ヲ生ジタル者及本法施行ノ際現ニ在職シ本法施行後退職シテ普通恩給ヲ受ケタルノ權利ヲ生ズル者ニハ之ヲ適用セス

第九條 第五十九條ノ改正規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後就職シ又ハ俸給(又ハ給料)ガ昇給若ハ増額セラレタル月ノ翌月ヨリ之ヲ適用ス

第十條 第五十九條ノ二第一項但書ノ場合ニ於テ其ノ公務員ガ同一種類ノ公務員トシテ實在職年二十年以上勤続シタル者ニシテ特殊ノ事情アルモノニ付テハ當分ノ内同但書各號ニ於ケル制限ノ一級ヲ二級、百分ノ十五ヲ百分ノ三十トス

第十一條 本法施行ノ際從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テハ最短恩給年限ニ達シタル者ニハ其ノ者ガ本法施行後改正規定ニ依ル最短恩給年限ニ達セズシテ退職シタル場合ト雖モ退職前ノ俸給ニ依リ之ニ普通恩給ヲ給ス但シ其ノ年額ハ在職年ノ不足一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス

員若ハ巡査又ハ其ノ遺族ニシテ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スルモノニ付テハ準用ス

第九十條 北海道屯田兵ノ現役ニ服シタル年月日數ハ之ヲ公務員ノ在職年ニ通算シ本法施行ノ日ヨリ其ノ者ノ受ケル年金タル恩給ヲ改定シ又ハ新ニ之ニ普通恩給ヲ給ス

第九十一條 前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付テハ準用ス

第九十二條 前二項ノ場合ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第九十三條 第八十五條乃至前條ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 (昭和八年法律第五十號) 第一條 本法ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十六條ノ二、第五十八條第一項第四號及第五十九條ノ改正規定ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本法施行前給與事由ノ生ジタル恩給ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ第五十八條第一項第四號ノ改正規定ハ本法施行前給與事由ノ生ジタル恩給ニ付テモ之ヲ適用ス

第三條 第十三條第二項但書ノ改正規定ハ本法施行前ヨリ行政裁判所ニ繫屬スル事件ニ付テハ之ヲ適用セス

第四條 第十八條第一項ノ改正規定ニ依ル納付金額ハ同項ニ規定スル公務員ニ付テハ附則第九條ノ規定ノ必要ナキニ至ル迄ハ第十八條第一項ノ改正規定ニ拘フズ同項ニ規定スル公務員ガ第五十九條(改正前)又ハ改正後)及附則第九條ノ規定ニ依リ納付スル金額ノ合計額ト同額トス

第五條 本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ加算年又ハ休職等ノ減算ニ關スル改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ規定ニ依ル

第九章 職員 第七節 恩給

第九章 職員 第七節 恩給

三一六ノ二二

第十二條 前條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ休職、再服役其ノ他法令上ノ在職期限ノ定アル地位ニ在ル者ニシテ本法施行後其ノ期間ノ終了ニ因リ從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テハ最短恩給年限ニ達スルモノニ付之ヲ準用ス

第十三條 第六十四條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前受ケタル一時恩給ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十四條 第七十五條第二項ノ改正規定ハ公務員ガ本法施行前死亡シタル場合ニ付テモ之ヲ適用ス但シ此ノ場合ニ於ケル加給ハ本法施行後ニ屬スル殘存期間ニ付テノミ之ヲ爲ス

第十五條 恩給法施行前同法第二十三條ニ掲グル公務員トシテ普通恩給(退隱料)ヲ受ケ引續キ文官ニ任シ同法施行後迄在職シタル後本法施行前退職シ同法第八十五條第一項ノ規定ニ依リ其ノ普通恩給(退隱料)ヲ文官ノ普通恩給ニ改定セラレザリシ者ニ付テハ同項ノ規定ニ拘ラズ特ニ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用シ本法施行ノ日ヨリ本法施行前ノ規定ニ依リ其ノ普通恩給(退隱料)ヲ文官ノ普通恩給ニ改定ス但シ恩給法施行後文官退職ニ因リ一時恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ一時恩給ノ金額ヲ改定ニ因リ増額セラレル普通恩給額中ヨリ支給ニ際シ控除ス

前項ノ規定ハ恩給法施行後本法施行前ニ文官トシテ普通恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第一項ニ規定スル者引續キ本法施行後迄在職スルトキハ恩給法第八十五條第一項ノ規定ニ拘ラズ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用シ同法第二

十三條ニ掲グル公務員トシテノ普通恩給(退隱料)ヲ文官トシテノ普通恩給ニ改定ス

第十六條 第九十一條第二項ノ改正規定ハ本法施行ノ際現ニ在職シ從前ノ同項ニ規定スル期間ヲ經過シタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十七條 本法施行ノ際現ニ在職シ恩給法第九十九條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル者ノ恩給ノ停止ニ付テハ其ノ者ガ引續キ其ノ官職ニ在職スル期間ニ限リ仍同法第九十九條第一項ノ規定ニ依ル

第十八條 本法施行前恩給法第九十九條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケザリシ者又ハ前條ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル者ノ當該在職期間ト他ノ公務員ノ在職年トノ通算ハ仍從前ノ例ニ依ル

第十九條 前條ニ規定スル者ヲ除クノ外恩給法第九十九條第一項ニ規定シタル者ノ大正十二年十月一日以後ノ在職年ハ同日以後ノ他ノ公務員ノ在職年ト通算ス但シ本法施行前ニ給與事由ノ生ジタル場合ニ於テハ其ノ者ガ再就職シ本法施行後退職又ハ死亡シタル場合ニ限リ此ノ規定ニ依ル

前項ニ規定スル者ノ大正十二年九月三十日以前ノ在職年ノ同日以前ノ他ノ公務員ノ在職年ト通算ニ付テハ同日以前ノ舊法ノ例ニ依ル

第一項ニ規定スル者ノ大正十二年十月一日前後ノ在職年ノ通算ニ關シテハ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用ス

(別表) 第一號表

(甲)

改(甲學一〇四)

階等	將官及相		佐		尉		官		及相		當官	
	親任	高等官	二同	三同	四同	五同	六同	七同	八同	九同	十同	十一同
假定俸給年額	七、五〇〇圓	六、五〇〇圓	五、六〇〇圓	四、六〇〇圓	三、九五〇圓	三、二五〇圓	二、三五〇圓	一、七〇〇圓	一、四〇〇圓			

第二號表

階等	准士官		下		士		官		兵	
	一判任	二同	三同	四同	五同	六同	七同	八同	九同	十同
假定俸給年額	一、二〇〇圓	八五五圓	七六五圓	六七五圓	六〇〇圓	五四〇圓	四九五圓	四四五圓		

甲	戰闘		又ハ		戰闘		二準		スハ		キ公		務	
	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項	第七項	第八項	第九項	第十項	第十一項	第十二項	第十三項	第十四項
傷病原因	戰闘	戰闘	戰闘	戰闘	戰闘	戰闘	戰闘	戰闘	戰闘	戰闘	戰闘	戰闘	戰闘	戰闘
階等	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任
特等	一、四〇〇	二、〇〇〇	一、六〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
差等	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	九六〇	七五〇	六〇〇	四〇〇	三六〇	三三〇	三〇〇	二七〇	二四〇	二一〇	一八〇
原因	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任
特等	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	九六〇	七五〇	六〇〇	四〇〇	三六〇	三三〇	三〇〇	二七〇	二四〇	二一〇	一八〇
差等	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	九六〇	七五〇	六〇〇	四〇〇	三六〇	三三〇	三〇〇	二七〇	二四〇	二一〇	一八〇
原因	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任
特等	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	九六〇	七五〇	六〇〇	四〇〇	三六〇	三三〇	三〇〇	二七〇	二四〇	二一〇	一八〇
差等	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	九六〇	七五〇	六〇〇	四〇〇	三六〇	三三〇	三〇〇	二七〇	二四〇	二一〇	一八〇
原因	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任	親任

第九章 職員 第七節 恩給

三一六ノ二二ノ一

改(甲學一〇四)

乙		甲	
普	通	公	務
特別項	第一項	第二項	第三項
一、九二〇	一、六〇〇	一、二八〇	一、〇二四
一、四四〇	一、二〇〇	九六〇	七六八
九六〇	八〇〇	六四〇	五一二
八六四	七二〇	五七六	四六一
七九二	六六〇	五二八	四二三
七二〇	六〇〇	四八〇	三六〇
六〇〇	四八〇	三六〇	二八〇
四八〇	三六〇	二四〇	一六〇
三六〇	二四〇	一六〇	一〇〇

備考 特別項ハ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以内ヲ加ヘタルモノトス

第三號表

號	甲	傷病原因	階等	判		等		兵
				准	下	官	待	
第一	戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公	戰闘	第一	判	官	二八六	二六〇	二六〇
第二	戰闘	戰闘	第二	判	官	二二〇	二〇〇	二〇〇
第三	戰闘	戰闘	第三	判	官	一七六	一六〇	一六〇
第四	戰闘	戰闘	第四	判	官	一四三	一三〇	一三〇

改(甲學一〇六)

第四號表

乙		甲	
普	通	公	務
第一	第一	第二	第三
二五二	一九二	一五六	一三二
二三一	一七六	一四三	一一一
二一〇	一六〇	一三〇	一一〇

改(甲學一〇四)

高等官及同待遇者ニ給スヘキ金額ハ判任一等ノ者ニ給スヘキ金額ニ其ノ十分ノ一二相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス

號	甲	傷病原因	階等	判		等		兵
				准	下	官	待	
第一	戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公	戰闘	第一	判	官	九九〇	九〇〇	九〇〇
第二	戰闘	戰闘	第二	判	官	八二五	七五〇	七五〇
第三	戰闘	戰闘	第三	判	官	六六〇	六〇〇	六〇〇
第四	戰闘	戰闘	第四	判	官	四九五	四五〇	四五〇
第五	戰闘	戰闘	第五	判	官	三三〇	三〇〇	三〇〇
第六	戰闘	戰闘	第六	判	官	一六五	一五〇	一五〇

恩給法施行令

大正十二年八月十七日 勅令第三百六十七號

沿革

大正一二年二月勅令第五二〇號、一三年三月第五一號、二月第四〇七號、一四年四月第五三號、一五年七月第二四四號、九月第三〇四號、昭和二年一月第三六二號、三年四月第七三號、五年二月第一九號、七年四月第六〇號、八年九月第二三六號、一月第三〇五號、九年一月第三九五號、一〇年三月第二四號改正

朕恩給法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

恩給法施行令

第一條 恩給法第九條ノ二ノ規定ニ依ル恩給受給權存否ノ調査ハ受給者ノ身分關係ノ變動ノ有無ニ付之ヲ行フ

遺族タル夫又ハ成年ノ子カ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキコトヲ條件トシテ扶助料ヲ給セラルトキハ其ノ者ニ付テハ前項ニ規定スル事項ノ外特ニ右事情ノ繼續ノ有無ヲ調査ス

第一條ノ二 受給者ハ左ノ區別ニ從ヒ調査上必要ナル書類ヲ裁定官廳ニ提出スヘシ

一 前條第一項ノ事實ヲ證スル爲ニハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者及妻ニ在リテハ戸籍抄本、妻以外ノ扶助料權者ニ在リテハ戸籍謄本

二 前條第二項ノ事實ヲ證スル爲ニハ不具癡疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキコトヲ證スル居住地ノ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書

前項ノ書類ハ事實力裁定官廳ニ顯著ナル場合又ハ他ノ相當官公署ノ證明アル場合ニ於テ裁定官廳力明力ニ之ヲ承認シタルトキハ其ノ承認ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一條ノ三ニ規定スル書類ヲ提出スヘキ月カ恩給ノ裁定ヲ受ケタル月

(證書ノ日附ニ在ル月)ノ翌月ヨリ十二月内ニ在ルトキハ其ノ書類ヲ提出スルコトヲ要セシ

第一條ノ三 各受給者ハ前條ノ書類ヲ左ノ區別ニ從ヒ隔年提出スヘシ

一 公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテ恩給ヲ受ケル者ハ一月

二 遺族トシテ恩給ヲ受ケル者ハ七月

陸軍ノ軍人、之ニ準スヘキ者及警察監獄職員並其ノ遺族ハ昭和ノ偶數年ニ於ケル前項ノ月ニ提出シ他ノ公務員及之ニ準スヘキ者並其ノ遺族ハ其ノ奇數年ニ於ケル前項ノ月ニ提出スヘシ

第一條ノ四 第一條ノ二ニ規定スル書類ヲ提出セサル受給者ニ對シテハ之ヲ提出スヘキ月ヨリ一期隔リタル後ノ支給期以後ノ支給ヲ一時差止ムヘシ

第一條ノ五 恩給法第十條ノ規定ニ依リ恩給ノ支給ヲ受ケヘキ遺族及其ノ順位ハ扶助料ヲ受ケヘキ遺族及其ノ順位ニ依ル

同法第十條ノ恩給權者カ死亡ノ當時家族ナリシトキハ其ノ相續人ハ恩給權者死亡ノ當時之ト同一戸籍内ニ在リタルコトヲ要ス

第二條 恩給法第十條ノ場合ニ於テ死亡シタル恩給權者未タ恩給ノ請求ヲ爲ササリシトキハ恩給ノ支給ヲ受ケヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ死亡者ノ恩給ノ請求ヲ爲スコトヲ得

裁定ヲ經タル恩給ニ付テハ死亡者ノ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受ケルコトヲ得

第三條 恩給法第十二條ノ規定ニ依リ内閣恩給局長以外ノ者ニ於テ恩給ヲ受ケルノ權利ヲ裁定スヘキ場合ハ左ノ區分ニ依ル

一 内地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ

裁定ス

二 前條ニ掲グルモノヲ除クノ外内地ニ於ケル公立ノ學校又ハ圖書館ノ教育職員ニシテ文官ニ非サルモノノ一時恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス

三 朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル公立ノ小學校、普通學校、公學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ裁定ス

四 朝鮮、臺灣、樺太、關東州(南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム以下同シ)又ハ南洋羣島ニ於ケル警察監獄職員(陸海軍ニ屬スルモノ)及樺太ニ於ケル刑務所ニ屬スルモノヲ除ク)及其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督(道ノ警部補、巡查及消防手並其ノ遺族ノ恩給ハ道知事)臺灣ニ在リテハ臺灣總督(州又ハ廳ノ警部補及巡查並其ノ遺族ノ恩給ハ州知事)又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、南洋羣島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ裁定ス

五 内地ニ於テ國庫以外ノ者ヨリ俸給ヲ受ケル警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事(警視廳部内ノ職員ニ在リテハ警視總監)之ヲ裁定ス

六 恩給法第二十四條第三號ニ掲グル待遇職員(國庫ヨリ俸給ヲ給スルモノヲ除ク)及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事(警視廳部内ノ職員ニ在リテハ警視總監)、朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、關東州ニ在リテハ大使之ヲ裁定ス

第四條 恩給法第十七條第一項ノ規定ニ依リ分擔スヘキ恩給ハ普通恩給、扶助料、一時恩給及一時扶助料トシ國庫カ恩給金額ノ分擔ヲ請求スル場

合ニ於テハ當該公務員ノ在職年中ニ恩給ノ負擔者ヲ異ニスヘキ二種以上ノ公務員ノ在職年ヲ含ムトキハ各在職年ノ年數ヲ其ノ各官職ノ退職又ハ死亡前一年内ノ俸給年額ニ乘シタル數ニ比例シテ分擔請求額ヲ定ム但シ退職又ハ死亡ヲ以テ終ラサル在職ニ付テハ右ノ退職又ハ死亡前一年内ノ俸給年額ニ代ヘ在職最終ノ俸給年額(軍人及準軍人ニ付テハ恩給法別表第一號表ノ金額)ニ依ル

前項ニ規定スル退職又ハ死亡前一年内ノ俸給年額ハ恩給法第五十九條ノ二ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算出ス

恩給法第四十五條ノ規定ニ依リテ普通恩給ヲ受ケヘキ所定ノ年數ニ滿タサル在職年ノ者ニ給スル普通恩給及其ノ遺族ニ給スル扶助料ニ付テハ當該所定ノ年數ニ滿タサル年月數ハ分擔請求額計算上之ヲ當該恩給ノ負擔者ニ歸スヘキ在職年ト看做ス

分擔請求額ニ付在職年數ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ割合ニ依リ其ノ基礎タル在職年月數ニ加算ス

一 恩給法第六十二條第三項ノ規定ニ依リ加給スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤績在職年ノ一年ニ付一年

二 恩給法第六十條第三項、第六十一條第四項、第六十一條ノ二第四項、第六十二條第七項、第六十三條第五項又ハ第六十四條第三項ノ規定ニ依リ外國勤績ニ因ル加給ヲ爲スヘキ場合及同法第六十二條第四項又ハ同法第六十三條第三項ノ規定ニ依リ加給ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤績在職年ノ一年ニ付六月

前四項ノ規定ハ恩給法第十七條第二項乃至第四項ノ分擔請求ニ付之ヲ準用ス

第五條 恩給ノ分擔ハ支給義務額ニ依リ之ヲ爲スモノトス

第九章 職員 第七節 恩給

第六條 左ニ掲グルモノハ國庫ヨリ俸給ヲ給セサルモ恩給法第二十條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ文官トス

- 一 地方官官制第二條ニ規定スル府縣判任官
二 都市計畫地方委員會ノ職員ニシテ官吏タルモノ
三 神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員ニシテ官吏タルモノ
四 朝鮮道立醫院ノ職員ニシテ官吏タルモノ

第七條 恩給法第二十一條第二項第二號ノ陸軍又ハ海軍ノ學生生徒トハ陸軍士官學校、陸軍幼年學校、陸軍戸山學校、陸軍工科學校、海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校ノ生徒、陸軍ノ士官候補生、海軍航空豫備學生、海軍豫備生徒並海軍豫備練習生ニシテ軍人ニ非サルモノヲ謂フ

第八條 恩給法第二十二條第二項ノ在外指定學校ハ外務大臣及文部大臣之ヲ指定ス但シ關東州ニ在リテハ大使之ヲ指定ス
前項ノ規定ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣又ハ大使之ヲ定ム

第九條 恩給法第二十二條第三項ノ準教育職員トハ教授心得、助教授心得、教諭心得、助教諭心得、准訓導及判任官ノ待遇ヲ受ケサル保母ニシテ專任教員タルモノヲ謂フ

- 第十條 恩給法第二十四條第三號ノ待遇職員トハ左ニ掲グル者ヲ謂フ
一 道路管理職員制ニ依ル職員
二 地方土木職員制ニ依ル職員
三 地方產業職員制ニ依ル職員(市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)
四 地方測候所職員制ニ依ル職員
五 地方學校衛生職員制ニ依ル職員
六 地方社會教育職員制ニ依ル職員
七 地方社會事業職員制ニ依ル職員
八 地方建築職員制ニ依ル職員

八ノ二 地方警察職員制ニ依ル職員

八ノ三 地方體育運動職員制ニ依ル職員

八ノ四 地方學校營養職員制ニ依ル職員

九 防疫職員制ニ依ル職員

十 稅關官制第二十六條ノ規定ニ依ル職員

十一 臨時海港檢疫所官制ニ依ル職員

十二 廳府縣衛生職員制ニ依ル職員

十三 癩療養所職員制ニ依ル職員

十四 家畜防疫職員制ニ依ル職員

十五 朝鮮地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、產業、衛生、社會事業又ハ測候ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員(府費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)

十六 臺灣地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、建築、衛生、產業、物產検査、社會事業又ハ社會教育ノ事務又ハ技術ニ從事スル職員(市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)

十七 關東州地方待遇職員令ニ依ル地方ノ產業、土木、衛生、教育又ハ行政ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員

第十一條 恩給法第二十四條第四號ノ待遇職員トハ左ニ掲グル者ヲ謂フ

- 一 内閣印刷局醫及内閣印刷局藥劑師
二 造幣醫、專賣醫及專賣藥劑師
三 陸軍ノ通譯ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受ケルモノ
四 靖國神社附屬遊就館職員ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受ケルモノ
五 鐵道醫
六 朝鮮ニ於ケル監獄ノ藥劑師、鐵道醫及鐵道藥劑師並臺灣ニ於ケル警察醫
七 臺灣又ハ關東州ニ於ケル檢疫員及檢疫醫員

第十二條 恩給法第三十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依リ外左ノ各號ノ例ニ依ル

- 一 戰爭開始後戰地ニ到リタル者ニ付テハ戰地ニ到ルヘキ事由ノ生シタル當時所在スル地ノ屬スル地域ヲ離レタル月ヨリ加算ス
二 戰爭中戰地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ其ノ歸還スヘキ地ノ屬スル地域ニ到著シタル月迄加算ス
前項ノ地域トハ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島及之ニ準スヘキ外國ノ地區ヲ謂フ

恩給法第三十二條第一項第二號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依リ外左ノ各號ノ例ニ依ル
一 動員(之ニ準スルモノヲ含ム)部隊ニ編入セラレタル者ニ付テハ編入ノ月、動員(之ニ準スルモノヲ含ム)下令前ヨリ其ノ部隊ニ在リタル者ニ付テハ其ノ下令ノ月ヨリ加算ス

二 戰爭開始後戰務ニ服スヘキ地ニ到リタル者及戰爭中其ノ地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス
前三項ノ規定ハ恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依リ加算ニ付之ヲ準用ス

第十三條 恩給法第三十五條ノ規定ニ依リ鎮戍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依リ外公務員鎮戍ノ爲内國ヲ出發シタルトキハ内國ヲ離レタル月ヨリ加算シ鎮戍ノ終了後直ニ内國ニ歸還シタルトキハ内國歸著ノ月迄加算ス

第十四條 恩給法第三十六條ノ規定ニ依リ航空加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ左ノ區分ニ依ル
一 同月内ニ於テ飛行時數五時間以上飛行機ニ搭乗シ航空勤務ニ服シタ

第九章 職員 第七節 恩給

ルトキ又ハ航空機ニ搭乗シ特ニ危險ト認ムル航空試驗ニ從事シタルトキハ其ノ一月ニ付一月半
二 同月内ニ於テ飛行時數一時間以上飛行機ニ搭乗シ又ハ五時間以上航空船、航行中ノ艦船繫留ノ氣球若ハ自由氣球ニ搭乗シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付一月
三 前二號ニ掲グルモノヲ除ク外航空機ニ搭乗シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付半月

第十五條 恩給法第三十八條ノ規定ニ依リ加算スヘキ邊陲又ハ不健康ノ地域及其ノ加算ノ程度ハ別表第二號表ニ依ル

第十六條 邊陲又ハ不健康ノ地域ノ加算ハ在勤地外ノ地ヨリ其ノ在勤地ニ赴任シタル者ニ付テハ在勤地ニ到著シタル月ヨリ、其ノ地ニ在リテ就職シタル者ニ付テハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ其ノ在勤ヲ止メタル月ヲ以テ終ル

前項ノ地域ニ在勤中引續キ九十日以上其ノ地域ヲ離レタルトキハ全ク地域ヲ離レタル月ニ對シテハ邊陲又ハ不健康ノ地域ノ加算ヲ爲サス

第十七條 恩給法第三十八條ノ規定ニ依リ不健康業務ノ加算ハ一月ニ付半月トス其ノ業務左ノ如シ
一 有毒ノ瓦斯若ハ蒸氣、爆藥類又ハ危險ナル細菌ノ研究又ハ製造ニ直接ニ從事スル勤務ニシテ内閣總理大臣ノ指定スルモノ
二 排水量千噸以下ノ在役ノ驅逐艦、水雷艇若ハ掃海艇乗員トシテノ勤務又ハ鐵道事業ニ於ケル蒸汽機關車乗員トシテノ現業勤務

三 炭坑内切羽ニ於ケル連續的現業勤務
四 肺結核、喉頭結核又ハ癩ノ患者ヲ收容スル病室ニ於テ直接看護ニ從事スル勤務
前項ニ規定スル業務ニ從事中引續キ三十日以上服務セサルトキハ全ク服

務セサル月ニ對シテ不健康ノ業務ノ加算ヲ爲サス

第十八條 恩給法第三十九條ノ遠洋航海トハ北緯五十度以北、東經百六十度以東、東經百六十度北緯四十度ノ點ト東經百四十度北緯二十度ノ點トヲ連結スル線ノ以東以南、北緯二十度以南及東經百十度以西ノ海面ヲ航行シ一航程千哩ヲ超ユル航海ヲ謂フ

第十九條 航海加算ハ初發港出發ヨリ之ニ歸著シ又ハ到達港ニ達スル迄ノ期間ニ對シテ之ヲ爲ス但シ出發ニ當リ内國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ヲ離レタル月ヨリ加算シ歸著ニ際シ内國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ニ到着シタル月迄加算ス

航海中引續キ三十日以上航行セサルトキハ全ク航行セサル月ニ對シテハ航海加算ヲ爲サス

第十九條ノ二 恩給法第四十條ノ二ニ規定スル期間一月以上ニ互ルトハ其ノ期間力在職年ノ計算ニ於テ一月以上ニ計算セラルル總テノ場合ヲ謂フ但シ現實ニ職務ヲ執ルヲ要スル日ノアリタル月ハ在職年ノ計算ニ於テ之ヲ半減セス

第二十條 恩給法第四十四條ノ本條ニ準スヘキモノトハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

- 一 年功ニ因ル加俸
- 二 府縣知事ノ指定地加俸
- 三 官立又ハ公立ノ大學ノ教授又ハ助教教授ノ職務俸
- 四 第一號ニ掲グルモノヲ除クノ外市町村立小學校教員加俸令ニ依ル加俸
- 五 警察監獄職員ノ精勤加俸及功勞加俸

第二十一條 恩給法第四十八條第一項第一號ニ規定スル流行病及地域ハ別

表第三號表ニ依ル

第二十二條 恩給法第四十八條第一項第二號ノ流行病ノ種類左ノ如シ

- 一 マラリア(黑水熱ヲ含ム)
 - 二 猩紅熱
 - 三 コレラ
 - 四 脚氣(戰地ニ限ル)
 - 五 發疹チフス
 - 六 腸チフス
 - 七 パラチフス
 - 八 ベスト
 - 九 回歸熱
 - 十 赤痢
 - 十一 流行性腦脊髄膜炎
 - 十二 流行性感冒
 - 十三 肺チフス病
 - 十四 トリパノゾーム病
 - 十五 ロイルス氏病
 - 十六 カラアザール
 - 十七 黃熱
- 第二十三條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依ル戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷疾疾病トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ
- 一 戰地ニ於テ勤務中敵ノ設置若ハ遺棄シタル危險物ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷疾疾病
 - 二 暴徒鎮壓又ハ集團ヲ爲ス馬賊海賊蕃人等討伐中ノ敵對行動ニ因ル又

ノ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷疾疾病

三 外國ノ交戰若ハ擾亂ノ地域内ニ於テ勤務中又ハ該地域内ヲ職務ヲ以テ旅行中ニ於ケル該交戰又ハ擾亂ニ因ル傷疾疾病

四 航空機ニ乘リ航空勤務中又ハ潜水艦ニ乘リ潛航勤務中ノ不可抗力ニ因ル傷疾疾病

五 職務ヲ以テ兇賊又ハ脱獄囚ヲ逮捕スルニ當リ危害ヲ加ヘラルヘキコトヲ豫斷シ得ルニ拘ラス危險ヲ冒シテ其ノ職務ヲ執行シタル爲加ヘラレタル傷疾疾病

六 職務ヲ以テコレラ又ハベストノ防疫、診療又ハ看護ニ直接從事シシカ爲罹リタル該疾病

七 急流其ノ他生命ノ危險ヲ感スヘキ事情ノ下ニ於ケル潜水勤務ニ因ル傷疾疾病

第二十四條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依リ不具癡疾ノ程度ヲ分チテ左ノ七項トス

特別項症

一 常ニ就床ヲ要シ且複雑ナル介護ヲ要スルモノ

二 重大ナル精神障礙ノ爲常ニ監視又ハ複雑ナル介護ヲ要スルモノ

三 身體諸部ノ障礙ヲ綜合シテ其ノ程度第一項症ニ第一項症乃至第六項症ヲ加ヘタルモノ

第一項症

一 複雑ナル介護ヲ要セサルモ常ニ就床ヲ要スルモノ

二 精神的又ハ身體的作業能力ヲ失ヒ僅ニ自用ヲ辨シ得ルニ過キササルモノ

三 咀嚼及言語ノ機能ヲ併セ廢シタルモノ

四 兩眼ノ視力方視標〇・一チ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

第九章 職員 第七節 恩給

三六ノ二九

五 肘關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ

六 膝關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第二項症

一 精神的又ハ身體的作業能力ノ大部ヲ失ヒタルモノ

二 咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ

三 兩眼ノ視力方視標〇・一チ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

四 兩耳全ク聾シタルモノ

五 腕關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ

六 足關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第三項症

一 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ大ニ妨アルモノ

二 兩眼ノ視力方視標〇・一チ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三 腕關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ

四 足關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第五項症

一 鼻ヲ失ヒ其ノ機能ニ大ニ妨アルモノ

三六ノ二九

- 二 頭部、顔面等ニ大ナル醜形ヲ殘シタルモノ
- 三 一眼ノ視力カ視標〇・二ナ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 四 一側總指ヲ全ク失ヒタルモノ

第六項症

- 一 頸部又ハ軀幹ノ運動ニ大ニ妨アルモノ
- 二 一眼ノ視力カ視標〇・一ナメートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

- 三 一側拇指及示指ヲ全ク失ヒタルモノ
- 四 一側總趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前項ノ各症ニ該當セサル傷疾疾病ノ症項ハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ査定ス

視力ヲ測定スル場合ニ於テハ屈折異常ノモノニ付テハ矯正視力ニ依リ視標ハ萬國共通視力標ニ依ル

第二十四條ノ二 恩給法第四十九條第二項ニ規定スル傷病年金ヲ給スヘキ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ四款トス

第一款症

- 一 一眼ノ視力カ視標〇・一ナ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 二 一耳聾シタルモノ
- 三 一側拇指ヲ全ク失ヒタルモノ
- 四 一側掌丸ヲ全ク失ヒタルモノ

第二款症

- 一 一耳ノ聽力カ耳鼓ニ接セザレハ大聲ヲ解シ得サルモノ
- 二 一側拇指ノ機能ヲ廢シタルモノ

改〔甲學一〇六〕

恩給受給者カ前項ノ地域内ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有スルトキハ右地域外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得ト雖之ヲ恩給外ノ所得中ヨリ除外セズ

第三款症

- 一 一眼ノ視力カ視標〇・一ナ三メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 二 一耳ノ聽力カ十センチメートル以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得サルモノ
- 三 一側示指ヲ全ク失ヒタルモノ
- 四 一側第一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第四款症

- 一 一側中指ヲ全ク失ヒタルモノ
- 二 一側示指ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 三 一側第二趾ヲ全ク失ヒタルモノ
- 四 一側第一趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ傷病ノ程度ノ査定ニ付之ヲ準用ス

第二十四條ノ三 恩給法第五十八條第一項第四號ニ規定スル恩給外ノ所得ハ恩給受給者カ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有スル場合ノ所得ニ限ル但シ左ニ掲クル所得ハ右地域内ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有セザルトキト雖之ヲ所得中ニ算入ス

- 一 恩給受給者カ右地域内ニ有スル資産又ハ營業ヨリ生スル所得
- 二 右地域内ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ヨリ恩給受給者ノ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ俸給、賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與

改〔甲學一一六〕

恩給給與ノ止ムヘキ事由生シタル場合ニ於テハ恩給ノ停止ハ其ノ事由ノ生シタル月分迄ノ恩給ニ付之ヲ爲ス

第二十四條ノ八

年額千圓以上ノ恩給ヲ受クル者ニシテ關東州若ハ南洋群島ニ住所若ハ一年以上ノ居所ヲ有シ又ハ同地域ニ住所若ハ一年以上ノ居所ヲ有セザルモ同地域内ニ有スル資産若ハ營業ヨリ生スル所得ヲ得ルモノハ毎年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ裁定官廳カ内閣恩給局長ナルトキハ夫々關東州又ハ南洋群島ニ經由シテ裁定官廳ニ其ノ申告ヲ爲スヘシ裁定官廳カ地方長官ナル場合ニ於テ恩給受給者カ裁定官廳ノ管轄内ニ住所又ハ居所ヲ有スルトキハ直接ニ裁定官廳ニ、然ラザルトキハ住所若ハ居所又ハ資産若ハ營業ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シテ裁定官廳ニ其ノ申告ヲ爲スヘシ

第二十四條ノ九

恩給法第五十九條ノ二ニ規定スル退職前一年内ノ俸給ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ例ニ依ル

- 一 初任ノ月ニ於テ日割計算ヲ於テ俸給ヲ給セラレタル場合ニ於テモ全月分ヲ以テ其ノ月ノ俸給額トス
- 二 月ノ中途ニ於テ昇給アリタルトキハ昇給後ノ俸給額ヲ以テ其ノ月ノ俸給額トス
- 三 休職、罰俸等ノ事情ニ依リ本來給與セラレヘキ俸給ニ比シ一時的ニ少額ヲ給セラレタル場合ニ於テモ本來給與セラレヘキ俸給額ニ依ル

第二十四條ノ十

恩給法第五十九條ノ二第一項但書ニ規定スル一級ノ昇給

第二十四條ノ四

前條第一項第二號ニ掲グルモノ以外ノ恩給外ノ所得ハ所得税法ニ規定スル個人ノ第三種所得ト同範圍トス

第二十四條ノ五

恩給外ノ所得ノ計算ニ關シテハ所得税法第十四條第一項及第二項並所得税法施行規則第七條及第八條ノ規定ヲ準用ス

第二十四條ノ六

恩給外ノ所得ハ毎年稅務署長ノ調査ニ依リ裁定官廳之ヲ決定ス

裁定官廳ハ恩給外ノ所得ノ調査ヲ要スル恩給受給者ノ氏名、住所又ハ居所及恩給年額ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

稅務署長恩給外ノ所得ノ調査ヲ了シタルトキハ之ヲ裁定官廳ニ報告スヘシ

前三項中稅務署長トアルハ臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ在リテハ各其ノ地域ニ於ケル稅務官署トス

第二十四條ノ七

恩給法第五十八條第一項第四號ノ規定ニ依リ恩給ノ一部停止ハ恩給外ノ所得ノ決定ニ基キ其ノ年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ル期間分ノ恩給ニ付テ之ヲ爲ス但シ其ノ前年以前ノ分ノ恩給ニ付停止ヲ爲スヘキ場合ニ於テ恩給ノ請求又ハ裁定ノ遅延ニ依リ一般ノ手續ニ依リテ恩給外ノ所得ヲ調査決定スルコトヲ得サルトキハ前條ニ規定スル調査決定ノ機關ハ其ノ分ニ付テハ一般ノ場合ニ準シ臨時ニ恩給外ノ所得ヲ調査決定スル場合ニ於テハ其ノ停止額ハ後ノ恩給支給額中ヨリモ之ヲ控除スルコトヲ得

恩給ヲ受クヘキ事由ノ生シタル年分ノ恩給ニ付テハ恩給法第五十八條第一項第四號ノ規定ニ依リ恩給ノ一部停止ノ手續ヲ行ハス

恩給外ノ所得額ノ追加又ハ更訂アリタルトキハ恩給ノ停止額モ之ヲ更正

ニ付テハ左ノ例ニ依ル

- 一 級俸ノ定アル場合ニ於テ當分給トシテ給與級俸ヨリ少額ノ俸給ヲ給セラレタル者ニ付テハ給與級俸ノ直近上位ノ級俸ノ額ニ給與級俸ニ對シ當分俸給力有スル割合ヲ乘シタルモノ(四位未満ハ四位ニ滿タシム)ヲ以テ當分俸給ニ對スル一級上位ノ俸給額トス級俸ノ定アル場合ニ於テ月俸七十五圓未満ノモノニ付級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ給與シタルトキ亦同シ
- 二 同一級俸ニ付上下ノ區分アル場合ニ於テハ其ノ上俸ハ之ヲ下俸ニ對スル一級上位ノ俸給ト看做ス
- 三 轉官職ニ依リ昇給ヲ來ス場合ニ於テハ新官職ニ付定メラレタル級俸中前ノ官職ニ付給セラレタル俸給ニ直近ニ多額ナルモノヲ以テ一級上位ノ俸給トス但シ其ノ額力前官職ニ付給セラレタル俸給ニ其ノ百分ノ十五ヲ加ヘタル金額ニ達セザルトキハ之ニ達スル金額ヲ以テ一級上位ノ俸給ト看做ス

第二十五條 準文官ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 高等官ノ試補ハ判任官一等トシ判任官見習ハ同四等トス
- 二 國庫ヨリ俸給ヲ給セザル官ニ在ル者ニ付テハ其ノ官等階級ニ依ル

第二十六條 準軍人ノ公務傷病等ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生ハ判任官一等トス
- 二 前號ニ掲ケザル陸軍ノ士官候補生、陸軍士官學校生徒、海軍兵學校生徒、海軍機關學校生徒、海軍經理學校生徒、海軍航空豫備學生及海軍豫備生徒ハ判任官三等トス
- 三 前二號ニ掲ケザル陸海軍諸生徒及海軍豫備練習生ノ階等ハ兵ニ準ス

第二十七條 教育職員及準教育職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 教育職員ノ階等ハ其ノ官等階級又ハ待遇官等階級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等階級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等階級ニ依ル
- 二 準教育職員ノ階等ハ公立學校職員待遇官等階級別表第二表ノ例ニ準ス

第二十八條 警察監獄職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ判任官四等トス但シ警部補ハ其ノ等級ニ依ル

第二十九條 待遇職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ其ノ待遇官等階級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等階級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等階級ニ依ル

第三十條 恩給法第六十二條第五項ニ規定スル中學校ト同等以下ノ程度ノ學校トハ左ニ掲ケルモノヲ謂フ

- 一 師範學校
- 二 高等女學校
- 三 專門學校令ニ依ラザル實業學校(實業補習學校ヲ除ク)
- 四 中學校又ハ前二號ニ掲ケル學校ニ準スヘキ學校
- 五 實業補習學校教員養成所
- 六 朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル中學校又ハ第一號乃至第三號若ハ第五號ニ掲ケルモノニ準スヘキモノ
- 七 在外指定學校ニシテ中學校又ハ第一號乃至第三號ニ掲ケル學校ニ準スヘキモノ

第三十條ノ二 恩給法第六十四條ノ二但書ノ規定ニ依ル一時恩給ノ返還ハ

之ヲ負擔シタル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ再就職ノ月ノ翌月ヨリ一年内ニ一時ニ又ハ分割シテ之ヲ完了スヘシ

前項ノ規定ニ依リ一時恩給ノ全部又ハ一部ヲ返還シ失格原因ナクシテ再在職ニ退職シタルニ拘ラス普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生セザル場合ニ於テハ一時恩給ノ返還ヲ受ケタル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ返還者ニ還付スヘシ

第三十一條 恩給法第六十六條第四項ノ規定ニ依リ傷病賜金ヲ給スヘキ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ六目トス

第一目症

- 一 一眼ノ視力カ〇・一ニ滿タサルモノ
- 二 一眼ノ視力カ〇・二ニ滿タサルモノ
- 三 一眼ノ視力カ〇・三ニ滿タサルモノ
- 四 一眼ノ視力カ〇・四ニ滿タサルモノ
- 五 一眼ノ視力カ〇・五ニ滿タサルモノ
- 六 一眼ノ視力カ〇・六ニ滿タサルモノ

第二目症

- 一 一側中指ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 二 一側中指ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 三 一側第二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 四 一側第二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第三目症

- 一 一側環指ヲ全ク失ヒタルモノ
- 二 一側環指ヲ全ク失ヒタルモノ
- 三 一側環指ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 四 一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ヲ全ク失ヒタルモノ
- 五 一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 六 一側小指ヲ全ク失ヒタルモノ
- 七 一側小指ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 八 一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 九 一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第三十二條 第十六條ノ規定ハ恩給法第九十一條又ハ第九十二條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ノ計算ニ付テノ準用ス

第三十三條 恩給法第九十六條ノ規定ニ依リ在職最終俸給年額ニ増加スヘキ金額ハ別表第四號表ノ區分ニ依ル

第三十四條 (削除)

第三十五條 廢官、廢職、廢職、廢校若ハ官職名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官職ニ在リタル者又ハ定員ノ減少ニ因リ退職シタル者即日又ハ翌日他ノ官職ニ任セラレタルトキハ恩給法ノ適用ニ付テハ之ヲ勤続ト看做ス

第三十六條 恩給法第一條ノ規定ニ依ル増額ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 軍人以外ノ公務員ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル俸給力大正九年七月三十一日以前ノ俸給令ニ依ルモノナルトキハ別表第四號表ノ區分ニ依リ増加シタル金額ヲ俸給年額ト爲シ、其ノ他ノモノナルトキハ在職最終ノ俸給年額ヲ基礎トシテ恩給法第六十條、第六十二條、第六十三條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス
- 二 軍人又ハ準軍人ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ別表第五號表ニ依リ當該軍人又ハ準軍人ノ階等ヲ定メ恩給法

八〇〇	一、〇〇〇
七〇〇	八五〇
六〇〇	七五〇
五〇〇	六〇〇
四五〇	五五〇
四〇〇	五〇〇
三〇〇	四〇〇

備考

- 一 本表ノ俸給年額ニハ加俸ヲ包含セス恩給年額算出ノ基礎ト爲リタル加俸ハ其ノ實額ニ依ル
- 一 本表ニ該當セサル俸給ニ付テハ之ニ其ノ俸給年額ノ二割五分ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノヲ以テ假定俸給年額トス但シ其ノ額カ實俸給年額ニ最モ近キ本表中ノ上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ヲ超過スルトキハ之ヲ當該上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ニ止ム

●恩給給與規則

大正十二年八月二十二日 勅令第三百六十九號

沿軍 昭和八年九月勅令第三三七號、二月第三一號改正 朕恩給給與規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

恩給給與規則

第一章 恩給ノ請求

第一條 普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受ケムトスル者ハ普通恩給請求書、增加恩給請求書又ハ傷病年金請求書ヲ退職當時ノ本屬廳ヲ經テ裁定官廳ニ差出スヘシ

改(甲學一〇八)

第二條 前條ノ恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 在職中ノ履歷書
 - 二 戶籍抄本(之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ)(退職後請求迄ノ間ニ於テ作成セラレタルモノ)
- 增加恩給請求書又ハ傷病年金請求書ニハ前項各號ニ掲グル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ
- 一 傷疾疾病カ公務ニ起因シタルコトヲ認ムルニ足ルヘキ書類(例ヘハ現認者ノ現認證明書、所屬長ノ事實證明書等)
 - 二 症狀ノ經過ヲ記載シタル書類
 - 三 請求當時ニ於ケル診斷書

改(甲學一〇八)

恩給ヲ改定スル場合ニ於テ前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前二項各號ニ掲グル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第三條

恩給法第五十條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ再審査ヲ請求スル者ハ再審査請求書ニ前條第二項第二號及第三號ニ掲グル書類ヲ添ヘ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

再審査ノ請求アリタル場合ニ於テ

裁定官廳ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定スル醫師ノ現在症狀證明書ヲ提出ヲ請求者ニ命スルコトヲ得

第四條

一時恩給ヲ受ケムトスル者ハ一時恩給請求書ニ在職中ノ履歷書ヲ添附シ退職當時ノ本屬廳ヲ經テ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第五條

傷病賜金ヲ受ケムトスル者ハ傷病賜金請求書ニ第二條第二項各號ニ掲グル書類ヲ添附シ陸軍軍人ニ在リテハ陸軍大臣、海軍軍人ニ在リテハ海軍大臣ヲ經テ内閣恩給局長ニ之ヲ差出スヘシ

第六條

扶助料ヲ受ケムトスル者ハ扶助料請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ第七條、第八條第一項第二號又ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ扶助料請求書ニ公務員(公務員ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ)ノ在職中ノ履歷書ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ公務員ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第七條

恩給法第七十三條第一項第一號ノ規定ニ依リ第一次扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 公務員ノ在職中ノ履歷書

二 請求者ノ戶籍謄本(之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ)(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

前項ノ場合ニ於テ公務員前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前項各號ニ掲グル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第八條

恩給法第七十三條第一項第二號ノ規定ニ依リ第一次扶助料ヲ請求スル場合ニ於テ前項第二號ニ掲グル書類及前扶助料權者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ添附スル

第九條 職員 第七節 恩給

第九條

恩給法第七十三條第一項第二號ノ規定ニ依リ第一次扶助料ヲ請求スル場合ニ於テ前項第二號ニ掲グル書類及前扶助料權者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ添附スル

第十條

恩給法第七十三條第一項各號ノ規定ニ依リ第二次以下ニ於テ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 前扶助料權者カ扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ失ヒタルコトヲ證スル書類

二 前扶助料權者ノ扶助料證書

三 請求者ノ戶籍謄本(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

前項ノ場合ニ於テ前扶助料權者カ未タ扶助料ノ裁定ヲ經サルトキハ前項第一號ニ掲グル書類及前扶助料權者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ添附スル

第十一條

恩給法第七十三條第一項各號ノ規定ニ依リ第二次以下ニ於テ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 前扶助料權者カ扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ失ヒタルコトヲ證スル書類

二 前扶助料權者ノ扶助料證書

三 請求者ノ戶籍謄本(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

前項ノ場合ニ於テ前扶助料權者カ未タ扶助料ノ裁定ヲ經サルトキハ前項第一號ニ掲グル書類及前扶助料權者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ添附スル

第十二條

恩給法第七十三條第一項各號ノ規定ニ依リ第二次以下ニ於テ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

三一六ノ四七

コトヲ要スル書類ヲ添付スヘシ

第十一條 恩給法第七十四條第二項ニ規定スル扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ第七條乃至前條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ不具癡疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添付スヘシ

第十二條 恩給法第七十八條ノ規定ニ依リ扶助料ノ停止ヲ申請スル者ハ扶助料停止申請書ニ左ノ書類ヲ添付シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

- 一 扶助料權者ノ所在不明ナルコトヲ證スル公ノ證明書
- 二 請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ恩給法第七十九條ノ規定ニ依ル扶助料轉給ノ請求ヲ爲スヘシ

第十三條 恩給法第七十九條ノ規定ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル扶助料轉給請求書ニ請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)ヲ添付シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ但シ前條ノ規定ニ依リ請求者ノ戸籍謄本ヲ添付シタル場合ニ於テハ其ノ添付ヲ要セス

第十四條 恩給法第八十一條又ハ第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ受ケムトスル者ハ一時扶助料請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ第十五條

第二號又ハ第十六條ノ規定ニ依リ一時扶助料請求書ニ公務員ノ在職中ノ履歴書ヲ添付スヘキ場合ニ於テハ公務員ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ
第十五條 恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ不具癡疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途

ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 公務員力既ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)
- 二 公務員力未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ公務員ノ在職中ノ履歴書及請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

第十六條 恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 公務員ノ在職中ノ履歴書
- 二 請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

第十七條 恩給法施行令第二條第一項ノ規定ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ恩給ノ請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ死亡シタル恩給權者力恩給ヲ請求ストセハ其ノ本屬廳ヲ經由スヘキ場合ニ於テハ其ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第十八條 前條ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
一 死亡シタル恩給權者力恩給ヲ請求ストセハ添付スルコトヲ要スヘキ書類
二 請求者ノ戸籍謄本(死亡シタル恩給權者ノ死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

第十九條 恩給法第八十一條ノ規定スル一時扶助料ヲ給セラレヘキ者數人アルトキ又ハ恩給法施行令第二條第一項若ハ第二項ノ相續人數人アルト

改〔甲學一〇八〕

改〔甲學一〇七〕

クルノ權利ナシト認メタルトキハ裁定官廳ハ理由ヲ附シテ其ノ請求ヲ却下スヘシ

第二十三條ノ二 裁定官廳ハ恩給請求書類ニ依リ證明セントスル事實ノ一部ニ付十分ナル心證ヲ得ザル場合ニ於テ爭ナキ部分ノ事實ノミヲ以テスルモ尙恩給ヲ給與シ得ルコトヲ認メタルトキハ之ヲ他ノ部分ト切離シ先ツ其ノ事實ノミニ基キ恩給ノ裁定ヲ爲スコトヲ得但シ之ニ因リテ別種ノ恩給ヲ給與スルニ至ルヘキトキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ場合ニ於テ爭アル事實ニ付立證ヲ得タルトキハ前條裁定ヲ訂正スヘシ

第二十四條 權利者又ハ關係廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ證據書類ヲ添付シ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第二十五條 裁定官廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ認メタルトキハ訂正ノ爲必要ナル手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ關係廳ヲ經テ權利者ニ通知スヘシ

第二十六條 裁定官廳ハ審査上必要アリト認ムルトキハ請求者又ハ申請者ニ出頭ヲ命シ又ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第二十七條 恩給ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ其ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ支給廳ニ呈示スヘシ

第二十八條 年金タル恩給ハ毎年一月、四月、七月、十月ノ四期ニ於テ各其ノ前月分迄ヲ支給ス但シ前支給期月ニ支給スヘカリシ恩給ハ支給期月ニ非サル時期ニ於テモ之ヲ支給ス
年金タル恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テノ其ノ期ノ恩給ノ支給時期ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

三一六ノ四九

キハ其ノ中一人ヲ總代者トシテ恩給ノ請求又ハ恩給支給ノ請求ヲ爲スヘシ

第二十條 恩給ノ請求ニ付恩給證書ヲ添付スヘキ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ添付スルコトヲ得サルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事由ヲ届出ツヘシ

第二十一條 經由廳方廢止セラレタル場合ニ於テハ書類ハ其ノ廳ノ事務ヲ引繼キタル廳ヲ經由スヘシ

第二章 恩給ノ裁定

第二十二條 經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ調査シ不備ノ點ナキコトヲ認メタルトキハ恩給金額計算書ヲ作り履歴書、證明書其ノ他ノ添付書類ニ付其ノ廳ニ於テ證明シ得ヘキモノハ證明シ速ニ裁定官廳ニ之ヲ送付スヘシ

經由廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間内ニ不備ヲ追完セザルトキ又ハ經由廳恩給請求理由由ナシト認メタルトキハ經由廳ハ恩給金額計算書ノ作成ヲ省略シ意見ヲ具シ恩給請求書類ヲ裁定官廳ニ送付スヘシ

第二十三條 裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ審査シ恩給請求書類ニ不備ノ點ナク且恩給ヲ受クルノ權利アリト認メタルトキハ年金タル恩給ニ付テハ恩給證書ヲ、一時金タル恩給ニ付テハ裁定通知書ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ第十七條ノ規定スル恩給ノ請求ニ對シテハ裁定通知書ヲ交付ス

裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得
請求者前項ノ期間内ニ不備ヲ追完セザルトキ又ハ裁定官廳恩給ヲ受

第二十九條 支給應ハ年金タル恩給ヲ受ケルノ權利ノ消滅シ又ハ停止セラレキ原因タル事實アルコトヲ知りタルトキハ其ノ支給ヲ止メ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第四章 異動通知

第三十條 普通恩給ヲ受ケル者官職ニ就キ恩給法第五十八條第一項第一號ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ停止セラレヘキ場合ニ於テハ其ノ就職當時ノ本屬廳ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十一條 年金タル恩給ヲ受ケル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ(恩給法第九條第二項ニ規定スル犯罪以外ノ犯罪ニ付刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキヲ除ク)又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ其ノ宣告又ハ取消ヲ爲シタル裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十二條 年金タル恩給ヲ受ケル者國籍ヲ失ヒ、死亡シ又ハ恩給法第八十條ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ受ケルノ權利ヲ失フ場合ニ於テハ本人、遺族又ハ縁故者ヨリ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十三條 年金タル恩給ヲ受ケル者其ノ本籍又ハ現住所ヲ變更シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ届出ツヘシ

第三十四條 第三十條乃至前條ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給廳トカ異ルトキハ裁定官廳ニ對スル通知又ハ届出ハ支給廳ヲ經由スヘシ

第三十五條 年金タル恩給ヲ受ケル者死亡シ又ハ恩給ヲ受ケルノ權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ恩給ヲ受ケヘキ順位者ナキトキハ恩給證書ヲ占有スル

第五章 恩給證書ノ返還及再交付

第三十六條 前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ其申書ヲ受取リタル日ヨリ十四日以内ニ辯明書及必要ナル書類ヲ添ヘ内閣恩給局長ニ之ヲ送付スヘシ

第三十七條 内閣恩給局長ハ必要アリト認ムルトキハ期限ヲ定メ辯明書ニ對スル辯駁書、再渡辯明書其ノ他必要ナル書類ヲ差出サシメ又ハ具申者若ハ對手者タル行政廳ノ主任者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得

第三十八條 裁決ノ理由ヲ附シタル裁決書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

附則 本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和八年勅令第二百三十七號) 本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條乃至第三條ノ改正規定ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和八年勅令第三百一十一號) 本令ハ昭和八年十月一日以後利ニ處セラレタル場合ニ付之ヲ適用ス

●恩給給與細則

大正十二年十月一日 閣令第七號

沿革 昭和八年九月閣令第二號改正 國庫ノ支辨ニ屬スル恩給中内閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ給與細則左ノ通定ム

第一條 恩給請求書類ニシテ其ノ提出ニ付經由廳ノ定アルモノハ左ノ區分ニ從ヒ先ツ之ヲ經由廳ニ差出スヘシ

一 本屬廳ヲ經由スヘキコトヲ定メタルモノハ高等文官同待遇、高等官試補、軍人及準軍人ニ在リテハ所管大臣ニ、列任文官、同待遇ニ

第九節 職員 第七節 恩給

者ハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第三十九條 前項ノ場合ニ於テ死亡其ノ他ノ事由ニ因リ恩給證書ヲ返還シ得サルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ届出ツヘシ

第三十條 事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ裁定官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第三十一條 證據書類又ハ裁定通知書ノ再交付アリタルトキハ從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十二條 亡失ノ理由トシテ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタル後從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ發見シタルトキハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第三十三條 第三十八條 年金タル恩給ヲ受ケル者其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ恩給證書及戸籍抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ裁定官廳ハ恩給證書ニ改氏名ノ事實ヲ記載シタル上之ヲ權利者ニ返付スヘシ此ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給廳トカ異ルトキハ支給廳ヲ經由スヘシ

第六節 具申及裁決

第三十九條 恩給法第十三條第一項ノ具申ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十條 具申書ニハ左ノ事項ヲ記載シ具申者記名捺印證據書類其ノ他必要ナル書類ヲ添付スヘシ

一 具申者ノ氏名、年齢及住所

二 對手者タル行政廳

三 具申ノ趣旨及理由

第四十一條 具申方内閣恩給局長以外ノ者方爲シタル行政處分ニ對スルモノナルトキハ具申書ハ其ノ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

在リテハ其ノ身分進退ヲ取扱フ廳ノ長官ニ之ヲ差出スヘシ

二 陸軍大臣又ハ海軍大臣ヲ經由スヘキコトヲ定メタルモノ及本屬長官方陸軍大臣又ハ海軍大臣ナルトキハ聯隊區司令官又ハ所屬隊長ニ之ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ聯隊區司令官又ハ所屬隊長ハ順序ヲ經テ之ヲ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ進達スヘシ

三 在外指定學校職員ノ差出スヘキモノハ所管領事官ニ之ヲ差出スヘシ

第三條 裁定官廳ニ直接ニ差出スヘキコトヲ定メタル書類ハ之ヲ内閣恩給局ニ差出スヘシ

第八條 恩給請求書類ハ概ネ別紙様式(第一號乃至第十五號書式)ニ準シ作成スヘシ

第四條 恩給給與規則第六條ノ規定ニ依リ扶助料請求書ヲ直接ニ裁定官廳ニ差出ス場合ニ於テ帝國外ニ居住スル者ハ所管領事官ノ現住證明ヲ受ケ書留郵便ヲ以テ之ヲ内閣恩給局ニ差出スヘシ

第五條 本屬廳其ノ他ノ經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ恩給金額計算書(第十六號乃至第二十一號書式)ヲ作り證據書類ヲ添付シ内閣恩給局ニ送付スヘシ但シ數個ノ經由廳アルトキハ最終ノ經由廳ニ於テ計算書ヲ作成スヘシ

第六條 内閣恩給局ニ於テ給與ノ裁定ヲ爲シタルトキハ貯金局ニ其ノ旨ノ通知ヲ爲スト共ニ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ作り請求者ニ之ヲ交付スヘシ

第七條 恩給ノ請求ヲ却下シタル場合ニ於テハ内閣恩給局長ハ請求者ニ對シ直接其ノ旨ヲ通知スルコト共ニ其ノ要旨ヲ關係廳ニ通知スヘシ

第八條 内閣恩給局ニ於テ恩給給與規則第二十五條ノ規定ニ依リ誤謬ヲ訂正シ又ハ裁定ノ改訂ヲ爲シタル場合ニ於テハ貯金局ヲ經由テ權利者ニ通知シ又ハ新證書ヲ交付スヘシ

三一六ノ五一

改(甲學一〇七)

改(甲學一〇七)

第九章 職員 第七節 恩給

三一六ノ五二

第九條 恩給給與規則第三十一條ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ宣告又ハ取
消ヲ爲シタル裁判所ハ別紙様式(第二十二號又ハ第二十三號ノ書式)ニ準
シ貯金局ヲ經テ内閣恩給局ニ通知スヘシ

第十條 恩給給與規則第三十六條ノ規定ニ依リ恩給證書又ハ裁定通知書ノ
再交付ヲ申請セムトスル者ハ概テ別紙様式(第二十四號書式)ニ準シ再交
付申請書ヲ作り左ノ書類ヲ添附シ之ヲ内閣恩給局ニ差出スヘシ

一 恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シタルモノナルトキハ亡失ノ顛末及
亡失後ニ於テ執リタル措置ヲ記載シタル書類並其ノ事實ヲ證スルニ足
ルヘキ警察官署等ノ公ノ證明書但シ裁定通知書ヲ亡失シタル場合ニ於
テハ警察官署等ノ公ノ證明書ヲ要セス

二 恩給證書又ハ裁定通知書ヲ毀損シタルモノナルトキハ其ノ顛末書及
毀損シタル恩給證書又ハ裁定通知書

第十一條 恩給給與規則ニ依リ支給應テ經テ内閣恩給局ニ差出スヘキ書類
ハ支給郵便局ニ差出スヘシ

第十二條 恩給法施行令第一條ニ規定スル恩給受給權調査票ハ別紙様式
(第二十五號書式)ニ準シ作成スヘシ

第十二條ノ二 恩給法施行令第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ依リ加算ヲ爲
スヘキ勤務ニ服シタルトキハ其ノ所屬長官ハ勤務日誌ヲ作り恩給請求ニ
際シ其ノ寫ヲ差出スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ閣令ハ之ヲ廢止ス

官吏恩給法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

軍人恩給法施行規則

- 明治二十四年閣令第二號
- 明治二十四年法律第四號施行規則
- 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則
- 明治三十四年閣令第一號
- 明治三十五年法律第四十五號施行手續
- 明治三十九年法律第二十號施行手續
- 明治四十三年閣令第九號
- 明治四十四年法律第五十九號施行手續
- 公立學校職員退職料及遺族扶助料支給規則
- 明治二十九年法律第十三號施行規則
- 在外指定學校職員退職料及遺族扶助料等支給規則
- 大正十一年閣令第五號

別紙

第一號書式

普通恩給請求書

年 月 日(官職)ヲ退職致候ニ付普通恩給ヲ給與相成度證
據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

氏 名印

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

改(甲學一〇七)

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ
第二號書式

普通恩給請求書
增加恩給

年 月 日(官職)ヲ退職致候ニ付普通恩給及增加恩給ヲ給
與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年 月 日

氏 名印

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第九章 職員 第七節 恩給

三一六ノ五三

第二號書式ノ二

改(甲學一〇六)

傷病年金請求書

年 月 日(官職)ヲ退職(シ)年 月 日 役ヲ免セラレ
候ニ付傷病年金ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年 月 日

氏 名印

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

增加恩給請求書

年 月 日(官職)ヲ退職致候處在職中ノ傷痕(疾病)爾後重症ニ赴キ候ニ付增加恩給ヲ給與改定相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年 月 日

氏

名印

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

傷病年金請求書

年 月 日(官職)ヲ退職(シ)年 月 日 役ヲ免セラレ候處在職中ノ傷痕(疾病)爾後重症ニ赴キ候ニ付傷病年金給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年 月 日

氏

名印

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

改(甲學一〇六)

扶助料請求書

公務員又ハ普通恩給權者 氏 名

右者 年 月 日死亡候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

本籍地

現住所

年 月 日

氏

名印

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

扶助料請求書

前扶助料權者 氏 名

右者 年 月 日失權候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係

本籍地

現住所

年 月 日

氏

名印

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第九章 職員 第七節 恩給 第六號書式

一時恩給請求書

年 月 日(官職)ヲ退職致候ニ付一時恩給ヲ給與相成度證據書類相添へ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年月日

氏 名印

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第七號書式

一時扶助料請求書

公務員又ハ普通恩給權者ノ退職當時ノ官職名 氏 名

右者 年 月 日死亡ニ付恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添へ請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係

本籍地

現住所

年月日

氏 名印

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第八號書式

一時扶助料請求書

公務員ノ官職名 氏 名

右者 年 月 日在職中死亡候ニ付恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添へ請求候也

公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

年月日

氏 名印

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第九號書式

傷病賜金請求書

年 月 日(官職)ヲ退職(シ)年 月 日 役ヲ免セラレ候ニ付傷病賜金ヲ給與相成度證據書類相添へ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年月日

氏 名印

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十號書式

扶助料轉給請求書

停止中ノ扶助料權者 氏 名

右者犯罪ニ因ル扶助料停止期間中扶助料ヲ轉給相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係
本籍地
現住所

年月日

申請者 氏 名印

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十一號書式

扶助料停止請求書

停止セラレヘキ扶助料權者 氏 名

右者年月日以來所在不明ニ付扶助料ヲ停止相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係

年月日

申請者 氏 名印

内閣恩給局長氏名殿

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

改〔甲學一〇六〕

第十二號書式

再審査請求書

年月日退職ニ因リ普通恩給及增加恩給ヲ給セラレ候處未タ傷疾〔疾病〕回復セサルヲ以テ再審査相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年月日

氏 名印

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十二號書式ノ二

再審査請求書

年月日退職〔シ〕年月日役ヲ免セラレタルニ因リ傷病年金ヲ給セラレ候處未タ傷疾〔疾病〕回復セサルヲ以テ再審査相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年月日

氏 名印

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

改〔甲學一〇六〕

第九章 職員 第七節 恩給 第十六號書式ノ三

前傷病年金證書
記號番號
第 號
金額
圓

傷病年金金額計算書	居住地方地名	支給郵便局名
退職年月日		
兵役免除年月日		退職當時ノ官職名
退職(兵役免除)ノ事由		氏
退職當時ノ階等		
傷病ニ罹リタル年月日		
公務傷病ノ原因	傷病年金金額	
症狀等	金	
差第	金	
右取調候處相違無之ニ付給與相成度		
年 月 日		
內閣恩給局長 氏 名殿	官職 氏	名印
一時恩給金額計算書	支給郵便局名	局
退職年月日		
退職ノ事由	請求者ノ退職當時ノ官職名	
氏		
名		

第十七號書式

改(甲學一〇六)

退職前ノ俸給月額	本俸 加俸 合計	圓 圓 圓	錢 錢 錢
退職當時ノ階等	一時恩給金額	金	圓
右取調候處相違無之ニ付給與相成度			
年 月 日			
內閣恩給局長 氏 名殿	官職 氏		名印
在職年內課			
實 在 職 年	加 算 年	除 算 年	
始 終 期	始 終 期	始 終 期	
至自 年年 年年 年年 年年	至自 年年 年年 年年 年年	至自 年年 年年 年年 年年	
至自 月月 月月 月月 月月	至自 月月 月月 月月 月月	至自 月月 月月 月月 月月	
至自 日日 日日 日日 日日	至自 日日 日日 日日 日日	至自 日日 日日 日日 日日	
合計 年 月	合計 年 月	合計 年 月	
總計 年 月			

第九章 職員 第七節 恩給

三二九

三二八

退職前一年ノ期間	退職前一年ノ期間			加俸	退職前一年ノ期間			本俸	本俸年(月)額	月数ト月額トノ積	總計	合計			始終期	年月數	事由	年月數	
	至自	至自	至自		至自	至自	至自					至自	年	月					日
退職前一年ノ期間	至自	至自	至自	加俸	至自	至自	至自	本俸	本俸年(月)額	月数ト月額トノ積	總計	合計	合計	合計	始終期	年月數	事由	年月數	
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

改(甲學一〇六)

第二十一號書式

改(甲學一〇六)

傷病賜金金額計算書		支給郵便局名	
退職年月日	年 月 日	支給郵便局名	局
兵役免除年月日	年 月 日		
退職(兵役免除)ノ事由			
退職當時ノ階等			
傷病ニ罹リタル年月日	年 月 日		
公務傷病ノ原因			
症 狀 等 差			
右取調候處相違無之ニ付給與相成度			
年 月 日			
内閣恩給局長 氏名 殿		官 職	氏
		名 印	名

第二十二號書式

年 月 日	内閣恩給局宛 (貯金局經由)	裁 判 所
氏 名		

住 所	退職當時ノ官職名又ハ 公務員トノ身分關係	恩給證書ノ記號番號	罪 名	刑 名	刑 期	判決言渡年月日	判決確定年月日	刑期起算年月日	刑期滿了年月日
		第 號				年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日

第二十三號書式

年 月 日	氏 名	住 所	退職當時ノ官職名又 ハ公務員トノ身分關係
內閣恩給局宛 (貯金局經由)			
裁 判 所			

改(甲學一〇六)

恩給證書ノ記號番號	罪 名	刑 名	刑 期	判決言渡年月日	判決確定年月日	刑期起算年月日	刑期滿了年月日	執行猶豫期間	執行猶豫言渡	取消年月日
第 號				年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日

改(甲學一〇六)

第二十四號書式

恩給證書(裁定通知書)再交付申請書	一 恩給證書ノ記號番號(裁定通知書ノ番號)	一 恩給證書ノ日附(裁定通知書ノ日附)	一 恩給金額
右恩給證書(裁定通知書)ヲ亡失(毀損)致候ニ付再交付相成度申請候	年 月 日	年 月 日	年 月 日

退職當時ノ官職名又ハ

公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

氏

名印

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 ○○郵便局

第二十五號書式

恩給受給權調査票

- 一、恩給證書記號番號
- 一、受給者住所氏名
- 一、受給權調査期月 昭和 年 月

備考

用紙ハ成ル可ク半紙四ツ切大又ハ半折大トスルコト

改(甲學一〇六)

●恩給法ニ依リ増額スヘキ恩給中
内閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノ
ノ更正手續

大正十二年八月二十二日
閣令第五號

恩給法第百一條乃至第百三條ノ規定ニ依リ増額スヘキ恩給中内閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續左ノ通定ス

更正手續

- 第一條 恩給法第百一條又ハ第百二條ノ規定ニ依リ増額スヘキ恩給、扶助料等ニシテ大正十二年九月三十日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給スルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タズニテ更正シ其ノ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行ス
- 前項ノ新證書ヲ交付スル迄ハ更正年額ヲ表示シタル支給額票(第一號様式)ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ依リ更正額ヲ支給ス
- 第二條 恩給法第百一條又ハ第百二條ノ規定ニ依リ増額スヘキ恩給、扶助料等ニシテ大正十二年十月一日以後裁定スヘキモノニ付テハ更正年額及從前ノ年額ヲ表示シタル證書ヲ發行ス
- 第三條 支給額票ハ受給權者ノ請求ヲ俟タズ内閣恩給局長ニ於テ之ヲ調製シ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス
- 第四條 第一條ノ新證書ハ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス
- 第五條 第一條ノ新證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ交付請求書(第二號様式)ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ内閣恩給局長ニ差出スヘシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領事館ナキトキハ町村役場若ハ之ニ準スヘキモノノ現住證明ヲ受ケヘシ
- 受給權者ハ内閣恩給局長又ハ支給郵便局ヨリ前項ノ交付請求書ノ用紙ヲ受

ケルコトヲ得

改(甲學九七)

- 第六條 前條ノ交付請求書提出後現住地ヲ變更シタルトキハ其ノ現住地ノ警察官署、領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準スヘキモノノ現住證明書ヲ添ヘ連ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ
- 第七條 第一條ノ新證書ヲ發行シタルトキハ交付請求書ヲ差出シタル者ニ對シ貯金局ヲ經テ其ノ旨ヲ通知ス
- 受給權者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書ニ新證書ノ受領證明ヲ爲シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受ケヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得サル事由ニ因リ從前ノ證書ヲ提出スルコトヲ得サルトキハ内閣恩給局長ノ承認書ヲ以テ從前ノ證書ニ代フルコトヲ得
- 前項ノ承認書ヲ受ケムトスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得サル事由ヲ詳記シタル書面ヲ内閣恩給局長ニ差出スヘシ
- 第八條 支給額票ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ貯金局ヲ經テ内閣恩給局長ニ其ノ再交付ヲ請求スヘシ
- 第九條 大正九年七月三十一日以前ノ日附アル證書ハ大正十二年十月三十一日限り其ノ效力ヲ失フ
- 第十條 大正九年八月一日以後大正十二年九月三十日迄ノ間ニ於ケル日附アル證書及之ニ貼附シタル支給額票ハ大正十四年三月三十一日限り其ノ效力ヲ失フ
- 第十一條 恩給法第百三條ノ規定ニ依リ新ニ恩給又ハ扶助料ヲ請求スル者ハ恩給規則第一條及第二條又ハ第七條及第八條ノ規定ニ依リ外尙
- 第七師團長及陸軍大臣ヲ經テ其ノ請求書ヲ差出スヘシ
- 第十二條 從前ノ規定ニ依リ給スル恩給又ハ扶助料ヲ恩給法第百一條乃至第百三條ノ規定ニ依リ更正増額スル場合ニ於テハ第一條乃至第七條ノ規

第九章 職員 第七節 恩給

定ニ依リ先ツ同法第百一條又ハ第百一條及第百二條ノ規定ニ依ル更正増額ヲ爲シ更ニ受給權者ノ請求ヲ俟ツテ同法第百三條ノ規定ニ依ル更正増額ヲ爲ス
 前項ノ請求ヲ爲ス者ハ更正請求書(第三號様式)ヲ第七師團長及陸軍大臣ヲ經テ内閣恩給局長ニ差出スヘシ
第十三條 陸軍大臣前條ノ更正請求書ヲ受付ケタルトキハ恩給金額計算書ヲ添附シ其ノ他恩給給與規則ノ例ニ依リ之ヲ内閣恩給局長ニ進達スヘシ
第十四條 恩給ノ更正ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ恩給給與規則ヲ準用ス
附則
 本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第一號様式

大正十三年壹月渡以降更正支給額表

更正證書記號番號	更正年額
	圓
現證書記號番號	更正一期額
	圓
肩書及氏名	

(内閣恩給局)

注意(一) 本票ハ證書表面金額ノ上部ニ貼附スヘシ
 (二) 更正額ニ對スル新證書ハ追テ交付スヘキニ付其ノ際現證書ハ之ヲ還納スヘシ

第二號様式 (裏面)

證書記號番號	受給者肩書	氏名	支給郵便局名	現住地府縣
局				
恩給法ニ依ル更正證書及請求候也				
現住地				
受給者氏名印				
右現住者タルコトヲ證明ス				
大正 年 月 日				
警察一分署長 町村長				

改(甲學九七)

(表面)

Carte Postale

郵便局

東京市丸の内

内閣恩給局

〒

(第三號様式)

更正請求書

退職當時ノ官職 氏 名

年月日生

第九章 職員 第七節 恩給

- 一 退職年月日
 - 一 證書ノ記號番號
 - 一 證書ノ日附
 - 一 現恩給又ハ扶助料年額
 - 一 支給郵便局名(又ハ新ニ支給ヲ受ケムトスル郵便局名)
- 恩給法第百三條ノ規定ニ依リ前記恩給扶助料年額更正相成度此段請求候

年月日

本籍地

現住地

請求者 氏 名

内閣恩給局長氏名殿

改(甲學九七)

(注意)

一 請求書ハ第七師團司令部ニ差出スヘシ
 二 請求書提出後本籍地又ハ現住地ヲ變更シタルトキハ速ニ内閣恩給局長ニ届出ツヘシ支給郵便局ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

● 恩給法附則ニ依ル増額恩給更正規則

大正十二年九月一日 逓信省令第五十七號

恩給法附則ニ依ル増額恩給更正規則

第一條 貯金局ニ於テ大正十二年閣令第五號其ノ他恩給法第百一條乃至第百三條ノ施行ニ關スル規定ニ依リ從前ノ恩給、扶助料等ノ證書ニ支給額票貼附ノ手續ヲ爲サムトスルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第二條 受給者前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ從前ノ恩給、扶助料等ノ

三三八ノ五

證書ヲ支給郵便局ニ差出シ支給額票ノ貼附ヲ請求スヘシ
 支給郵便局ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ當該證書ノ表面上部欄外
 ニ支給額票ヲ貼附シ日附印ヲ以テ契印シタル上之ヲ受給者ニ返付スヘシ
第三條 受給者現ニ年金恩給支給規則第十條ニ依リ從前ノ恩給、扶助料等
 ノ證書ヲ貯金局ニ寄託セルモノナルトキハ貯金局ニ於テ前條ニ準シ當該
 證書ニ對スル支給額票貼附ノ手續ヲ爲ス
 前項ノ場合ニ於テハ新ニ保管證書ヲ作成シ支給郵便局ヲ經テ舊保管證書
 ト引換ニ之ヲ受給者ニ交付ス
第四條 受給者新證書交付ノ通知ヲ受ケタルトキハ支給額票ヲ貼附シタル
 從前ノ證書又ハ裁定官廳ノ承認書表面餘白ニ新證書ニ對スル受領證印ヲ
 爲シ之ヲ指定ノ郵便局ニ差出シ引換ニ新證書ノ交付ヲ受ケヘシ
 前項ノ場合ニ於テ同時ニ支給郵便局ヲ改訂スルモノナルトキハ郵便局ノ
 交付スル用紙ニ依リ印鑑届ヲ作成シ之ヲ新支給郵便局ニ差出スヘシ
第五條 第三條ノ支給額票ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ對スル新證書ハ貯金
 局ニ於テ之ヲ引換ヘ保管ス
第六條 恩給ノ更正ニ關シ本規則ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ年金恩給
 支給規則ヲ準用ス

附則
 本規則ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 昭和八年法律第五十號附則ニ依
 ル恩給更正及請求手續

昭和八年九月十一日
 附則第三號

昭和八年法律第五十號附則第十四條ノ規定ニ依リ更正スベキ扶助料中内閣

恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續及同法附則第十五條ノ規定ニ依リ改
 定スベキ普通恩給ノ請求手續左ノ通定ム

昭和八年法律第五十號附則ニ依リ恩給更正及請求手續
第一條 昭和八年法律第五十號附則第十四條ノ規定ニ依リ加給スベキ扶助
 料ニシテ昭和八年九月三十日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給セラレルモ
 ノニ付テハ其ノ金額ヲ更正シ其ノ證書ニ更正年額及之ヲ給スル期間ヲ表
 示ス

第二條 扶助料證書ニ前條ノ表示ヲ受ケントスル者ハ更正額表示請求書
 (別記第一號様式)ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ扶助
 料證書ト共ニ之ヲ内閣恩給局ニ差出スベシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領
 事館ナキトキハ町村役場又ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明ヲ受ケベシ
 受給權者ハ内閣恩給局ヨリ前項ノ更正額表示請求書ノ用紙ヲ受ケルコト
 ナ得

第三條 前條ノ請求書提出後住所地ヲ變更シタルトキハ現住地ノ警察官署、
 領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速ニ其ノ
 旨ヲ届出ヅベシ

第四條 内閣恩給局ニ於テ第一條ノ更正額ノ表示ヲ爲シタルトキハ恩給證
 書ハ之ヲ受給權者ニ送付ス

第五條 前項ノ承認書ヲ受ケントスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得ザル事由
 ナ詳記シタル書面ヲ内閣恩給局ニ差出スベシ

第六條 昭和八年法律第五十號附則第十五條ノ規定ニ依リ普通恩給ノ改定
 ナ請求スル者ハ恩給給與規則第一條及第二條ノ規定ニ依リノ外改定請求

改〔甲學一〇六〕

書(別記第二號様式)ヲ内閣恩給局長ニ提出スベシ

改〔甲學一〇六〕

(別記)
 第一號様式

(裏面)

更正額表示請求書

記號	氏名	年月	郵便局名	備考
證書番	名	生	支	
號		年	給	
		月	便	
			局	
			名	
			考	
			備	

昭和八年法律第五十號附則第十四條ニ依リ更
 正額表示相成度扶助料證書添附及請求候也
 現住地
 受給者
 氏名印
 右現住者タルコトヲ證明ス
 年 月 日
 警察署長
 警察官吏派出所員
 町 村 長

(表面)

きがは便郵

東 京 市 麹 町 區
 丸の内
 内閣恩給局
 御届
 中

貼郵便局切手
 切手

改定請求書
 一、普通恩給證書記號番號
 一、普通恩給證書日附
 一、普通恩給年額
 昭和八年法律第五十號附則第十五條ノ規定ニ依リ前記普通恩給ヲ
 文官普通恩給ニ改定相成度此段請求候也

本籍地
 居住地
 文官退職年月日
 請求者 氏 名印
 年月日
 内閣恩給局長 氏 名殿
 支給郵便局〇〇郵便局

●一時恩給受給者再就職ノ場合恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依ル一時恩給返還等ニ關スル取扱規程

昭和八年九月二十七日
 大藏省令第二十五號

一時恩給受給者再就職ノ場合恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依ル一時恩給返還等ニ關スル取扱規程左ノ通定ム
 第一條 國庫負擔一時恩給ノ受給者再就職シタル場合(以下單ニ再就職者ト

稱ス)恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依リ其ノ一時恩給ノ返還又ハ其ノ者ノ普通恩給ヲ受ケルノ權利ヲ生ゼズシテ退職シタル場合ノ返還金ノ還付ニ關シテハ第二條乃至第八條ノ規定ニ依リ之ガ取扱ヲ爲スベシ
 第二條 再就職者恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依リ一時恩給ノ返還ヲ爲サントスル場合ニ於テハ其ノ就職ト同時ニ勤務廳(又ハ之ニ相當スルモノ)ヲ經由シ本屬廳(以下單ニ就職官廳ト稱ス)ニ對シ履歷書二通其ノ他一時恩給金額ヲ確證スベキ書類ヲ添ヘ一時恩給返還請求書ヲ提出スベシ
 前項ノ一時恩給返還請求書ニハ一時又ハ分割返還ノ意思表示ヲ爲スベシ
 第三條 前條ノ書類ノ提出ヲ受ケタル就職官廳ハ其ノ履歷書一通ニ再就職ニ關スル辭令ノ寫ヲ添ヘ直ニ再就職者ノ受ケタル一時恩給ノ裁定官廳ニ送付スベシ
 前項ノ書類ヲ受ケタル裁定官廳ハ之ニ基キ直ニ恩給法第六十四條ノ二ノ規定ニ依リ一時恩給返還額ヲ算定シ就職官廳ニ通知スベシ
 第四條 就職官廳ハ第二條ノ規定ニ依リ再就職者ヨリ提出ニ係ル書類ニ基キ直ニ恩給法第六十四條ノ二ノ規定ニ依リ一時恩給返還金額ヲ算定シ再就職者ノ就職ノ翌月ヨリ一年以内ニ適宜納付期限ヲ定メ一般會計歲入トシ徵收スベシ但シ再就職者一時恩給ノ返還ヲ完了セズシテ退職シ普通恩給ヲ受ケルノ權利ヲ生ズベキ場合ニ在リテハ其ノ殘額ニ付テハ其ノ際一時ニ之ヲ徵收スベシ
 前項但書ノ規定ハ再就職者死亡ノ場合ニ在リテハ其ノ遺族扶助料ヲ受ケル者ニ付之ヲ適用ス
 第五條 就職官廳ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル一時恩給返還金額ニシテ第三條第二項ノ規定ニ依リ裁定官廳ヨリ通知ニ依ル金額ト相違アリタル場合ニ於テハ之ガ更正ノ手續ヲ爲スベシ

改〔甲學一〇六〕

改〔甲學一〇六〕

前項ノ規定ニ依リ更正ヲ爲シタル爲徵收金額不足アルトキハ之ヲ追徵シ過納アルトキハ其ノ基ク所ノ計算書ヲ添ヘ還付ノ手續ヲ探ルベシ但シ還付ヲ要スベキ金額ヲ其ノ後ノ一時恩給返還金ニ充當スルコトヲ妨グズ
 第六條 再就職者一時恩給返還ヲ完了セズシテ轉官職其ノ他ノ事由ニ依リ就職官廳以外ノ官廳ニ勤務スルニ至リタルトキハ其ノ本屬廳(以下轉官官廳ト稱ス)ニ於テ其ノ殘額ニ付第四條、第五條ノ規定ニ準ジ徵收又ハ還付ノ手續ヲ爲スベシ
 前項ノ場合ニ於テハ就職官廳ハ轉官官廳ニ一時恩給返還ニ關スル一件書類ヲ引繼グベシ
 第七條 再就職者恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ基キ一時恩給ノ返還ヲ爲シ失格原因ナクシテ退職又ハ死亡シタルモ普通恩給又ハ扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ生ゼザル場合ニ於テハ就職官廳又ハ轉官官廳ニ一時恩給返還金還付ノ請求ヲ爲スベシ
 就職官廳又ハ轉官官廳前項ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ審査ノ上還付スベキモノト認メタルトキハ一時恩給返還額ヲ證スベキ書類及履歷書寫其ノ他ノ證憑書類ヲ添ヘ之ガ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スベシ
 第八條 就職官廳又ハ轉官官廳ハ一時恩給返還整理簿ヲ備ヘ各返還者毎ニ一時恩給返還金額、分納期間、分納金額、納期日(場所)、領收濟額、領收未濟額其ノ他一時恩給返還ニ關シ必要ナル事項ヲ記載スベシ
 第九條 國庫以外ノ經濟負擔一時恩給ノ受給者再就職シタル場合恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依リ其ノ一時恩給ノ返還又ハ其ノ者ノ普通恩給給ヲ受ケルノ權利ヲ生ゼズシテ退職シタル場合ノ返還金ノ還付ニ關シテハ第二條乃至第五條及第八條ヲ準用ス但シ第二條中本屬廳及第三條乃至第五條並第八條中就職官廳トアルハ當該一時恩給ヲ負擔シタル經濟ノ第一條中一般會計歲入トアルハ當該一時恩給ヲ負擔シタル經濟ノ歲入ト

●恩給受給權調査ニ關スル證明ノ件

昭和九年一月二十三日
 官廳九號文部大臣官房秘書課長通牒

省內各局部長並直轄各部長宛

普通恩給受給者ニシテ受給權調査上ニ關シ恩給法施行令第一條ノ二第二項ノ規定ニ依ル官廳ノ證明方ニ付別紙ノ通り内閣恩給局ヨリ通知有之タルヲ

前項ノ規定ニ依リ再就職者一時恩給ヲ負擔シタル經濟ニ第二條ノ書類ヲ提出スル場合ニ於テハ其ノ就職ニ關スル辭令ノ寫ヲ添付スルコトヲ要ス
 第十條 再就職者一時恩給返還ヲ完了セズシテ轉官職其ノ他ノ事由ニ依リ他官廳ニ勤務シ更ニ其ノ勤務廳ヲ變更スルニ至リタル場合ニ於テハ轉官前ノ官廳ハ其ノ旨當該一時恩給返還金ヲ收納スベキ經濟ニ通知スベシ但シ一時恩給返還金ヲ收納スベキ經濟ニ轉シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ
 前項ノ規定ハ再就職者退職又ハ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス
 第十一條 再就職者一時恩給ノ返還ヲ爲シ失格原因ナクシテ退職又ハ死亡シタルモ普通恩給又ハ扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ生ゼザル場合ニ於テハ退職前勤務シタル官廳ヲ經由シ一時恩給返還金ヲ收納シタル經濟ニ一時恩給返還金還付ノ請求ヲ爲スベシ
 第十二條 恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依リ再就職者ノ返還スベキ一時恩給ガ國庫以外ノ經濟ノ負擔シタルモノナルトキハ當該經濟ハ前第三條ニ據ルノ外其ノ定ムル所ニ依リ徵收又ハ還付スベシ

附則
 本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

以テ此段通読ス

恩給第一一號

昭和九年一月十九日

内閣恩給局

貴廳勤務中ノ當局裁定ニ係ル普通恩給受給者ニシテ受給權調査(恩給法第九條ノ二參照)ニ關シ恩給法施行令第一條ノ二第二項ノ規定ニ依リ貴廳ノ證明ヲ以テ同條第一項第一號ニ規定スル書類ニ代ヘ當局ノ承認ヲ得

承認申請書

左記證明ヲ以テ昭和 年 月ニ提出スベキ恩給法施行令第一條ノ二第一項第一號ニ規定スル書類ニ代ヘ承認相成度候

年 月 日

普通恩給權者 氏

普通恩給權者 氏

普通恩給權者 氏

名

名

名

内閣恩給局長 殿

證明

證書記號番號	官 職 名 氏	名

右者當廳ニ勤務シ恩給法第九條第一項第一號及第三號ニ該當セザルモノ

ナルコトヲ證明候也

年 月 日

(身分進退ヲ取扱フ廳ノ長官ノ)官職名 氏 名

恩給ノ減額補給及停止ニ關スル

昭和七年六月十八日 法律第十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル恩給ノ減額補給及停止ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 昭和六年六月一日以降減俸ノ爲改正シタル俸給ニ關スル規程ニ依リ俸給ヲ給セラレ勅令ヲ以テ指定スル時期迄ニ退職シ若ハ死亡シタル軍人以外ノ公務員若ハ之ニ準ズベキ者又ハ其ノ遺族ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給額ト改正前ノ俸給ニ關スル規程ニ依レバ受ケベカリシ俸給ヲ基礎トスル恩給額トノ差額ヲ年金額タル恩給額ニ在リテハ退職又ハ死亡ノ翌月ヨリ増給シ一時金額タル恩給額ニ在リテハ追給ス

第二條 恩給法第九十九條第一項ノ規定ニ依リ從前ノ例ニ依リ普通恩給ト其ノ基礎ト爲リタル在職年ニ通算スルコトヲ得ル官職ニ就キ受ケル俸給トノ合算額ノ退職當時ノ俸給ヲ超過スル差額ヲ普通恩給ト停止スル場

附則 改(甲學一〇) 前項俸給額ノ算定ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和七年七月勅令第二百三號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行)

昭和七年法律第十三號施行令

昭和七年七月三十日 勅令第二百四號

昭和七年法律第十三號施行令

昭和七年法律第十三號施行令

昭和七年法律第十三號施行令

第一條 昭和七年法律第十三號第一條第一項ノ規定ニ依リ増額シ又ハ追給スベキ恩給金額ヲ算出スル爲ニ要スル改正前ノ俸給規程ニ依リ受ケベカリシ俸給ハ左ノ各號ニ依ル

一 昭和六年六月又ハ七月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行ノ際在職シ俸給ヲ減額セラレタル者爾後其ノ俸給ヲ變動セラレルコトナクシテ退職シ又ハ死亡シタルトキハ減俸直前ノ俸給トス

二 昭和六年六月又ハ七月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行ノ際在職シタル者爾後其ノ俸給ヲ變動セラレテ退職シ又ハ死亡シタルトキ及該俸給規程施行後就職シタル者退職シ又ハ死亡シタルトキハ

(イ) 本俸ニシテ級俸ノ定アル俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職又ハ死亡當時ノ俸給額ヲ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ該當スルモノナル場合ニハ其ノ級俸定額ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額トシ之ニ該當スルモノナラザル場合ニハ其ノ俸給ニ直近スル下位ノ級俸定額ガ之ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ其ノ俸給額除シタル金額トス但シ其ノ俸給額直近スル上位ノ級俸定額ノ改正前ノ級俸定額ニ還元セラレタル額ヲ超ユルコトナシ

改(甲學一〇)

改(甲學一〇)

(ロ) 本俸ニシテ級俸ノ定ナキ俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職又ハ死亡當時ノ俸給額高等官及同待遇者ニ在リテハ高等官官等俸給額、列任官及同待遇者ニ在リテハ列任官俸給額ニ依リ受ケタルモノト假

(ハ) 本俸ニ準ズベキ俸給ニ付テハ俸給規程ニ於テ其ノ最高限ノミナ規

定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額ガ改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ退職又ハ死亡當時ノ俸給額トシ最高限及最低限ヲ規定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額ガ夫々改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額ニ對シテ有スル割合ヲ退職又ハ死亡當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給額ニ依リテ補間計算シタル割合ヲ以テ退職又ハ死亡當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給額除シタル金額トス但シ本俸及本俸ニ準ズベキ俸給額ノ改正前ノ俸給額ニ還元セラレタルモノノ合算額ハ改正前ノ俸給規程所定ノ最高限ヲ超ユルコトナシ

前項ノ場合ニ於テ前項各號ノ規定ニ依リ算出シタル俸給金額ノ圓位未滿ハ之ヲ切捨ツ

第二條 昭和六年六月二十二日以降官吏又ハ待遇官吏タル二以上ノ地位ニ基キ二以上ノ俸給(本俸ニ準ズベキモノヲ含マズ)ヲ受ケ二以上ノ官職ヲ同時ニ退職シ又ハ二以上ノ官職ニ在職中死亡シタル者前條第一項第二號(イ)又ハ(ロ)ニ該當スル場合ニ在リテハ其ノ本俸ニ付テハ退職又ハ死亡當時

ノ各官職ノ俸給ニ互ニ他ノ俸給ノ額ヲ合算シ各合算額ニ付假ニ前條第一項第二號イ又ハロニ規定スル算出方法ニ依リ減俸前ノ俸給額ニ還元シ各還元額ヲ退職又ハ死亡當時ノ俸給額ノ比率ニ依リテ按分シ其ノ各俸給ニ屬スベキモノヲ以テ改正前ノ俸給規程ニ依リ受クベカリシ各官職ノ俸給額トス

第三條 昭和七年法律第十三號第二條ノ規定ニ依リ退職當時ノ俸給額減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ依ル相當俸給ニ換算スルニハ左ノ各號ニ依リ一 大正十二年十月一日以降昭和六年六月又ハ七月ノ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ノ適用前ニ退職シタル者ノ退職當時ノ俸給ニ相當スル俸給額トス

(イ) 本俸ニシテ級俸ノ定アル俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職當時ノ俸給額改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ對應スル級俸定額ニ該當スルモノナル場合ニハ其ノ級俸定額ニ對應スル減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額トシ之ニ該當スルモノナラザル場合ニハ其ノ俸給額直近スル下位ノ級俸定額ノ爲改正シタル俸給規程ニ對應スル級俸定額トシ之ニ對應スル減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ其ノ俸給額除シタル金額トス

(ロ) 本俸ニシテ級俸ノ定ナキ俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職當時ノ俸給額高等官及同待遇者ニ在リテハ高等官等俸給額、判任官及同待遇者ニ在リテハ判任官俸給額ニ依リ受ケタルモノト假定シイノ規定ニ依リ算出シタル金額トス

(ハ) 本俸ニ準ズベキ俸給ニ付テハ俸給規程ニ於テ其ノ最高限ノミナ規定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額ニ對シテ有スル割合ヲ退職當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ニ乗ジタル金額トシ最高限及最低限ヲ規

定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額ガ夫々改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額ニ對シテ有スル割合ヲ退職當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給額ニ依リテ補間計算シタル割合ヲ退職當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ニ乗ジタル金額トス

二 大正十二年九月三十日以前ニ退職シタル者ノ退職當時ノ俸給額相當スル俸給ハ大正十二年十月一日恩給法ニ依リ更正増額セラレタル恩給ノ基礎ト爲リタル俸給額ヲ以テ退職當時ノ俸給額トシ前號ノ規定ニ依リテ算出シタル金額トス

第四條 昭和六年六月二十二日以前官吏又ハ待遇官吏タルニ以上ノ地位ニ基キ二以上ノ俸給(本俸ニ準ズベキモノヲ含マズ)ヲ受ケ二以上ノ官職ヲ同時ニ退職シ其ノ合算額ヲ基礎トシテ普通恩給ヲ受ケタル者ノ退職當時ノ本俸ノ額ノ換算ニ付テハ昭和六年勅令第四百三十三號ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ昭和六年六月一日以降同月二十二日以前退職シタル者ニ付テハ其ノ俸給額ハ之ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ依ル俸給トス

第五條 減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ於テ改正當時ノ在職者ニ付經過的ニ級俸定額ノ減率ヨリ低キ減率ニ依ル俸給額ヲ給スル規定アリタル官職ガ退職當時ノ官職タリシ者ニシテ同規程施行ノ當時在職シタルモノニ關シテハ引續キ在職スル間ニ限リ前二條ノ規定ニ依ル金額ニ依ラズシテ其ノ退職當時ノ俸給額ニ付定メラレタル低キ減率ニ依ル俸給額ヲ以テ退職當時ノ俸給額ニ相當スル俸給トス

第六條 第三條ノ規定ニ拘ラズ退職當時ノ俸給(二以上ノ地位ニ基キ二以上ノ俸給ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ合算額)ノ年額千四百四十圓以下ナルトキハ其ノ減額率行ハズ千四百四十圓ヲ超エ千二百圓以下ナルトキハ之

改(甲學一〇〇)

改(甲學一〇〇)

千四百四十圓トス但シ前條ノ規定ノ適用ヲ妨グズ
第七條 本令中退職又ハ死亡當時ノ俸給ノ換算ニ關スル規定ハ退職又ハ死亡前一年内ノ各俸給ノ換算ニ付テハ準用ス
附則
本令ハ昭和七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年法律第十三號恩給更正

昭和七年七月三十日 閣令第一號

昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ増給又ハ追給スベキ恩給中内閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續左ノ通定ム

第一條 昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ増給ヲ爲サルベキ年金額タル恩給ニシテ昭和七年七月三十一日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給セラルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タズ其ノ金額ヲ更正シ從前ノ證書ニ代ヘ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行ス

第二條 昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ差額ヲ追給セラルベキ一時金額タル恩給又ハ差額ヲ追給セラルベキ一時金額タル恩給ニシテ昭和七年八月一日以降裁定セラルモノニ付テハ裁定ニ當リ直ニ更正年額ヲ表示シタル證書又ハ更正額ヲ表示シタル裁定通知書ヲ發行ス

第三條 第一條ノ規定ニ依リ發行スル新證書又ハ追給裁定通知書ノ交付ヲ

受ケントスル者ハ交付請求書(別記様式)ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ内閣恩給局ニ差出スベシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領事館ナキトキハ町村役場又ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明ヲ受ケベシ
受給權者ハ内閣恩給局ヨリ前項ノ交付請求書ノ用紙ヲ受ケタルコトヲ得
第四條 前條ノ交付請求書提出後住所地ヲ變更シタルトキハ現住地ノ警察官署、領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速ニ其ノ旨ヲ届出ズベシ

第五條 内閣恩給局ニ於テ第一條ノ新證書ヲ發行シタルトキハ之ヲ貯金局ニ送付シ交付請求書ヲ差出シタル者ニ對シテハ貯金局ヲ經テ其ノ旨ヲ通知ス
受給權者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書ニ新證書ノ受領證明ヲ爲シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受ケベシ

前項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得ザル事由ニ因リ從前ノ證書ヲ提出スルコトヲ得ザルトキハ内閣恩給局ノ承認書ヲ以テ從前ノ證書ニ代フルコトヲ得
前項ノ承認書ヲ受ケントスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得ザル事由ヲ詳記シタル書面ヲ内閣恩給局ニ差出スベシ

第六條 内閣恩給局ニ於テ第一條ノ追給裁定通知書ヲ發行シタルトキハ貯金局ヲ經テ之ヲ交付請求書ヲ差出シタル者ニ送付ス
第七條 恩給ノ更正ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ恩給給與規則ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
(別記)

交付請求書様式

(裏面)

交付請求書

番号 記号 書又 通	氏名	生年月日	支給郵便局名	備考
昭和七年法律第十三號ニ依ル更正證明書及請求候也				
現住地				
受給者氏名印				
右現住者タルコトヲ證明ス				
年 月 日				
警察署長 警察分署長 警察官吏派出所員 町 村 長				

● 昭和七年法律第十三號ニ依ル恩給更正規則

昭和七年法律第十三號ニ依ル恩給更正規則左ノ通定ム

昭和七年七月三十日 逓信省令第二十六號

- 第一條 年金タル恩給受給者新證書交付ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書又ハ裁定官廳ノ承認書表面餘白ニ新證書受領ノ旨記載シ記名調印ノ上指定ノ郵便局ニ差出シ之ヲ引換ニ新證書ノ交付ヲ受ケベシ
- 第二條 受給者現ニ年金恩給支給規則第十條ニ依リ從前ノ恩給證書ヲ貯金局ニ寄託セルモノナルトキハ之ニ對スル新證書ハ貯金局ニ於テ引換ヘ之ヲ保管ス
- 第三條 貯金局ニ於テ前條ニ依リ新證書ヲ保管シタルトキハ其ノ保管證書ハ支給郵便局ニ於テ舊保管證書ト引換ニ之ヲ受給者ニ交付ス
- 第四條 受給者新證書ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ既ニ支給期月ヲ經過シタル給與金ニ對スル更正增加額ハ支給期月ニ拘ハラズ一般ノ例ニ依リ之ガ拂渡ヲ支給郵便局ニ請求スベシ
- 第五條 一時金タル恩給ノ追給ヲ受ケル者ニハ貯金局ヨリ支給郵便局ヲ經由シテ支給通知書ヲ送付ス
- 第六條 受給者前條ノ支給通知書ニ依リ追給ヲ受ケントスルトキハ追給裁定通知書ヲ支給郵便局ニ呈示シテ權利者タルコトヲ證明シタル上支給通知書ノ受領證ノ部ニ記名調印シ現金ト引換ニ之ヲ差出スベシ
- 第七條 恩給ノ更正ニ關シ本規則ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ年金恩給支給規則ヲ準用ス

(表面)

さ が は 便 郵

東京市麹町區
丸の内
内閣恩給局
御 中

郵便切手

附 則
本令ハ昭和七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便官署ヲシテ年金、恩給等支給事務ヲ取扱ハシムルノ件

明治四十三年三月十六日
勅令第二十五號

沿革 大正八年四月勅令第九四號、一四年四月第一二二號、昭和九年一月第三九五號改正

朕郵便官署ヲシテ年金、恩給等ノ支給事務ヲ取扱ハシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
國庫ノ支辨ニ屬スル年金及恩給ノ支給ニ關スル事務ハ逓信省、朝鮮總督府、臺灣總督府、關東局、樺太廳及南洋廳ノ所管ニ屬スル郵便官署ヲシテ之ヲ取扱ハシム
前項給與金ノ支給手續ニ關シテハ逓信大臣ノ定ムル所ニ依ル
第一項給與金ノ支給ニ關シテハ歳入金並歳入歳出外現金ノ交互振替及繰替受拂ヲ爲スコトヲ得

改〔甲學一四四〕

●年金恩給支給規則

大正十二年十一月十日
逓信省令第九十二號

沿革 昭和三年二月逓信省令第五號改正
年金恩給支給規則左ノ通改正ス

第一章 總則

- 第一條 國庫ノ支辨ニ屬スル左ノ給與金ノ支給手續ニ關シテハ本規則ノ定ムル所ニ依ル
- 一、明治二十七年勅令第七十三號金鷄勳章年金令ニ依ル給與金
- 二、大正十二年法律第四十八號恩給法ニ依ル給與金
- 三、特ニ賜與ニ係ル年金、恩給ノ給與金
- 第二條 前條ノ給與金ハ特別ノ場合ヲ除クノ外受給者ノ指定シタル郵便局ニ於テ之ヲ支給ス
- 第三條 繼續給與金ノ支給期日ハ當該支給期月ノ十一日ヨリ二十日迄トス但シ恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合又ハ年金ノ支給ヲ廢止セラレタル場合ニ於ケル給與金ニ付テハ支給期月及期日ニ拘ハラズ之ヲ支給ス
- 一時限ノ給與金ノ支給ニ付テハ前項但書ノ規定ヲ準用ス
- 第四條 受給者居所ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號ヲ附記シ支給郵便局ニ差出スヘシ

改〔甲學一四四〕

第五條 受給者轉居又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ支給郵便局ヲ變更セムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號及新舊支給郵便局名ヲ記載シタル變更請求書ヲ作成シ新支給郵便局又ハ舊支給郵便局ニ差出スヘシ
郵便局ニ於テ支給郵便局變更ノ手續ヲ了シタルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第六條 代人ニ於テ本規則ニ依リ各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ノ委任狀ヲ差出シ代人タルコトヲ證明シ且記名調印ヲ要スル書類ニハ代人タルノ届書ヲ附シ記名調印スヘシ
前項ノ委任狀ハ本人ニ於テ當該書類ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ之ヲ作成スルコトヲ得

第二章 繼續支給

第七條 繼續支給セラルヘキ給與ニ關スル證書ヲ受領シタル者ハ支給ヲ受ケムトスル郵便局ニ就キ其ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑届ヲ作成シ之ヲ差出スヘシ但シ年金タル恩給ヲ受クル者ハ其ノ恩給請求書ニ記載シタル支給郵便局ニ之ヲ差出スコトヲ要ス
受給者印章ヲ改メタルトキハ適宜ノ用紙ニ依リ改印届ヲ作成シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第八條 受給者給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ年金證書、恩給證書其ノ他給與ニ關スル證書ヲ支給郵便局ニ呈示シ權利者タルコトヲ證明シタル上郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ作成シタル給與金受領證書ヲ現金ト引換ニ差出スヘシ
前項給與金受領證書ノ用紙ハ郵便局ノ交付スル用紙ト同一様式ノモノニ限リ之ヲ私製シ使用スルコトヲ得

第九條 受給者支給期月ヲ經過シタル後ニ於テ給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號、給與金高並支給郵便局名

之ヲ控除スヘシ但シ出納官吏俸給(又ハ給料)ノ支拂ヲ爲ス場合ニ於テハ
當該出納官吏之ヲ控除スヘシ
前項ノ規定ニ依リ控除シタル金額ヲ歳入ニ租入レムトスル場合ニ於テハ
當該支出官之方歳入徴收官トシテ徴收ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條 文官又ハ教育職員ニシテ國庫ヨリ俸給(又ハ給料)ノ支給ヲ受ケ
サル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ俸給
(又ハ給料)ノ支拂ヲ爲ス際其ノ支給ヲ爲ス當該官吏又ハ吏員之ヲ控除ス
ヘシ

第十二條 教育職員、警察監獄職員又ハ待遇職員ニシテ國庫ヨリ俸給(又
ハ給料)ノ支給ヲ受ケサル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ府縣其ノ
他國庫以外ノ經濟ニ納付スヘキ金額ハ俸給(又ハ給料)ノ支拂ヲ爲ス際其
ノ支拂ヲ爲ス當該官吏又ハ吏員之ヲ控除スヘシ

第十三條 轉任、轉職、待命、休職又ハ死亡等ニ因リ過渡俸給(又ハ給料)
ノ返納ヲ要スルトキハ前三條ノ規定ニ依リ控除シタル金額ヲ算出シタ
ル場合ニ適用セラレタル割合ヲ其ノ過渡俸給(又ハ給料)額ニ乘シタル金
額ヲ返納者ニ於テ控除スヘシ

第十四條 國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル
經濟方恩給法第十八條第一項ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ毎年
四月十日及十月十日迄ニ其ノ前六月分ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第十五條 府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル
公務員ニ俸給ヲ給スル經濟方恩給法第十八條第二項ノ規定ニ依リ國庫以
外ノ經濟ニ納付スヘキ金額ハ毎年四月十日及十月十日迄ニ其ノ前六月分
ヲ當該經濟ニ交付スヘシ

第十六條 府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル
公務員ニ恩給ヲ給スル經濟ニ對シ恩給法第十八條第三項ノ規定ニ依リ國
庫ヨリ交付スル金額ハ當該經濟方恩給法第十八條第二項ノ規定ニ依リ納
金ヲ收入シタル年度ノ翌年度ニ於テ之ヲ交付スルモノトス

第十七條 本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ其ノ收入支出ニ關スルモノニ付
テハ大藏大臣、其ノ他ノ事項ニ關スルモノニ付テハ内閣總理大臣之ヲ定
ム

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス
一 官吏遺族扶助法納金收入規則
一 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助法納金收入
規則

一 明治四十五年勅令第七十一號
本令施行前内閣總理大臣以外ノ官廳方裁定シタル國庫支辨ノ年金額ハ恩給
退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ
權利ノ存続スルモノニ付テハ當該裁定官廳ハ遡及テ其ノ裁定ノ要項ヲ内閣恩
給局長ニ通知スヘシ
第九條ノ規定ハ前項ノ恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノ
ニ付テハ準用ス

改(甲學一〇)

改(甲學一〇)

本令ハ昭和七年四月一日以後ノ裁定ニ係ル恩給ニ付之ヲ適用ス但シ昭和七
年四月一日以後昭和八年一月三十一日迄ノ裁定ニ係ル增加恩給及一時金タ
ル恩給ニ付履歷書ヲ添付スベキ場合ニ於テハ其ノ際本令ヲ添付スルヲ以テ足
ル

●恩給金額分擔及國庫納金收入等
事務取扱細則 大正十二年十二月七日
大藏省令第三十號

恩給金額分擔及國庫納金收入等事務取扱細則左ノ通相定ム

第一條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第一條ニ規定スル恩給金
額分擔請求通知書ハ別紙第一號書式ニ依リ仕譯書ハ第二號書式ニ依リ之
ヲ調製スヘシ

第二條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十條第一項ノ出納官吏
國庫納金ヲ控除シタル場合ニ於テハ其ノ收入官吏トシテ總テ其ノ規定ニ依リ
整理スヘシ

第三條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條第二項ノ規定ニ
依リ仕譯書ハ出納官吏事務規程附屬第五號書式ニ準シ之ヲ調製スヘシ

第四條 收入官吏前條ノ規定ニ依リ國庫納金ノ納付ヲ受ケタルトキハ所定
ノ現金領收證書ヲ交付シ現金出納簿ノ登記報告等其ノ規定ニ依リ整理ス

附則
本令ハ恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス
左ノ大藏省訓令ハ之ヲ廢止ス
官吏遺族扶助法納金收入規則取扱順序
大正十一年大藏省訓令第二十三號
第一號書式
恩給金額分擔請求通知書

右大正何年分恩給金額分擔額及請求候條國庫ニ送付相成度別紙仕譯書添

何應官職氏名宛
内閣恩給局長

第二號書式
何 應 恩給金額分擔請求仕譯書 (普通恩給、扶助料、一時恩給又ハ一時扶助料)何年分

摘	要	金	額	備	考
文 官			0		
何某外何名ノ分			0		
軍 人			0		
何某外何名ノ分			0		
警察監獄職員			0		
何某外何名ノ分			0		
教育職員			0		
何某外何名ノ分			0		
待遇職員			0		
何某外何名ノ分			0		
合 計			0		

備考 仕譯書ハ普通恩給、扶助料、一時恩給又ハ一時扶助料ニ分チ之ヲ記載スヘシ

●恩給金額分擔及國庫納金收入等
取扱規則ノ規定ニ依ル裁定要項
通知書書式

大正十二年十二月七日
内閣訓令第一號

沿軍 昭和七年二月内閣訓令第一號、八年九月第一號改正
恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則ノ規定ニ依ル裁定要項通知書書式
左ノ通定ム

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第七條ノ規定ニ依ル普通恩給、扶助料、一時恩給及一時扶助料並ニ第八條ノ規定ニ依ル恩給裁定ノ要項通知ハ別記書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

附則 (昭和八年内閣訓令第一號)

本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ改正規定中一時恩給及一時扶助料ニ關スル部分ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

裁定要項通知書			
退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄又氏名	退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄又氏名	勤務總年數	勤務總年數
證書又ハ裁定通知書記號番號第 年 月 日 號	證書又ハ裁定通知書記號番號第 年 月 日 號	在職年數 年 月 日 號	在職年數 年 月 日 號
總恩給金額 年 月 日 號	總恩給金額 年 月 日 號	在職年數 年 月 日 號	在職年數 年 月 日 號

改(甲學一〇六)

第十章 生徒

改(甲學一〇六)

●朝鮮教育令ニ依リ設置セル學校ノ生徒兒童並卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程

大正十二年一月二十二日
文部省令第一號

朝鮮教育令ニ依リ設置セル學校ノ生徒兒童並卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程左ノ通定ム

朝鮮教育令ニ依リ設置セル學校ノ生徒兒童並卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程

第一條 朝鮮教育令ニ依リ設置セル小學校及普通學校ノ兒童並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ小學校令ニ依リ設置シタル小學校ノ兒童並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク但シ修業年限五年又ハ四年ノ普通學校ノ卒業者ハ此ノ限ニアラス

第二條 朝鮮教育令ニ依リ設置セル中學校及高等普通學校ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ中學校令ニ依リ設置シタル中學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第三條 朝鮮教育令ニ依リ設置セル高等女學校及女子高等普通學校ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ高等女學校令ニ依リ設置シタル入學資格及修業年限ノ相當スル學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第四條 朝鮮教育令ニ依リ設置セル實業學校中實業專門學校、工業學校、農業學校、商業學校、商船學校、水産學校ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ

退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄又氏名	退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄又氏名	勤務總年數	勤務總年數
證書又ハ裁定通知書記號番號第 年 月 日 號	證書又ハ裁定通知書記號番號第 年 月 日 號	在職年數 年 月 日 號	在職年數 年 月 日 號
總恩給金額 年 月 日 號	總恩給金額 年 月 日 號	在職年數 年 月 日 號	在職年數 年 月 日 號

右通知ス
年月日
應 御 中

入學轉學ノ關係ニ就キ實業學校令ニ依リ設置シタル入學資格、修業年限及種類ノ相當ナル學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第五條 朝鮮教育令ニ依リ設置セル專門學校ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ專門學校令ニ依リ設置シタル入學資格、修業年限及種類ノ相當ナル學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第六條 朝鮮教育令ニ依リ設置セル師範學校ノ演習科ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ師範教育令ニ依リ設置シタル師範學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第七條 本令ハ朝鮮教育令附則ノ規定ニ基キ舊令ニ依ルモノニ之ヲ適用セ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣教育令ニ依リ設置セル學校ノ生徒兒童並卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程

大正十二年三月二十九日 文部省令第十二號

臺灣教育令ニ依リ設置セル學校ノ生徒兒童並卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程左ノ通り定ム

臺灣教育令ニ依リ設置セル學校ノ生徒兒童並卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程

第一條 臺灣教育令ニ依リ設置セル小學校及公學校ノ兒童並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ小學校令ニ依リ設置シタル小學校ノ兒童並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク但シ臺灣教育令第五條第一項但書ノ規定ニ

改〔甲學一〇六〕

修業年限ヲ短縮シタル公學校ノ兒童及卒業者ハ此ノ限ニアラス

第二條 臺灣教育令ニ依リ設置セル中學校ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ中學校令ニ依リ設置シタル中學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第三條 臺灣教育令ニ依リ設置セル高等女學校ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ高等女學校令ニ依リ設置シタル入學資格及修業年限ノ相當ナル學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第四條 臺灣教育令ニ依リ設置セル高等學校ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ高等學校令ニ依リ設置シタル高等學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第五條 臺灣教育令ニ依リ設置セル實業學校中實業專門學校、臺灣公立商業學校、臺灣公立工業學校、臺灣公立農業學校ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ實業學校令ニ依リ設置シタル入學資格、修業年限及種類ノ相當ナル學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第六條 臺灣教育令ニ依リ設置セル專門學校ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ專門學校令ニ依リ設置シタル入學資格、修業年限及種類ノ相當ナル學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第七條 臺灣教育令ニ依リ設置セル師範學校ノ演習科ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ師範教育令ニ依リ設置シタル師範學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第八條 本令ハ臺灣教育令附則ノ規定ニ基キ舊令ニ依ルモノニ之ヲ適用セ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東州小學校兒童及卒業者他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル取扱方

明治四十年五月十四日 文部省令第十五號

關東州小學校兒童及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令ニ依リ設置シタル市町村立小學校ノ兒童及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

關東廳又ハ南滿洲鐵道株式會社ノ設置セル中學校並高等女學校ノ生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程

大正十五年五月十七日 文部省令第二十一號

關東廳又ハ南滿洲鐵道株式會社ノ設置セル中學校並高等女學校ノ生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程左ノ通り定ム

關東廳又ハ南滿洲鐵道株式會社ノ設置セル中學校並高等女學校ノ生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程

第一條 關東廳又ハ南滿洲鐵道株式會社ノ設置セル中學校及旅順高等公學校中學校ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ中學校令ニ依リ設置シタル中學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第二條 關東廳又ハ南滿洲鐵道株式會社ノ設置セル高等女學校ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ高等女學校令ニ依リ設置シタル

第十章 生徒

改〔甲學一〇三〕

高等女學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

附則

左ノ省令及告示ハ之ヲ廢止ス

一、明治四十四年三月文部省告示第四十號關東廳中學校生徒並卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關シ府縣立中學校同等ト認定

一、明治四十五年三月文部省告示第一號關東廳設置ノ旅順高等女學校ノ生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル件

一、大正五年十一月文部省令第六號關東廳設置大連高等女學校ノ生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ轉學入學ニ關スル件

一、大正十二年九月文部省令第三十九號南滿洲鐵道株式會社ノ設置セル鞍山中學校及撫順中學校並安東高等女學校及長春高等女學校ノ生徒並卒業者ノ他ノ學校ヘ轉學入學ニ關スル件

一、大正十年十一月文部省令第四十四號南滿洲鐵道株式會社ノ設置セル奉天中學校及奉天高等女學校ノ生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ轉學入學ニ關スル件

一、大正十一年十一月文部省令第三十三號南滿洲鐵道株式會社ノ設置セル撫順高等女學校ノ生徒並卒業者ノ他ノ學校ヘ轉學入學ニ關スル件

樺太ニ於ケル中學校及高等女學校ノ生徒並卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程

大正十五年十月十六日 文部省令第三十二號

樺太ニ於ケル中學校及高等女學校ノ生徒並卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程左ノ通り定ム

樺太ニ於ケル中學校及高等女學校ノ生徒並卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程

關スル規程

第一條 樺太廳ノ設置セル中學校ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ中學校令ニ依リ設置シタル中學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第二條 樺太廳ノ設置セル高等女學校及樺太公立高等女學校規程ニ依リ設置シタル高等女學校ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ高等女學校令ニ依リ設置シタル高等女學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

附則

第三條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 大正三年十月三日 文部省令第三十一號大正八年六月五日 文部省令第二十二號及大正十三年十一月二日 文部省令第二十九號ハ之ヲ廢止ス

●財團法人大泊女學校ノ設置セル大泊女學校ノ生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル件

大正十二年十二月十九日 文部省令第四十六號

財團法人大泊女學校ノ設置セル財團法人大泊女學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ高等女學校令ニ依リ設置シタル高等女學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

●南滿洲鐵道株式會社ノ設置セル小學校兒童卒業者ノ他ノ學校ヘ

大正十一年八月二十一日 文部省令第二十七號

大連市ノ設置セル大連市立高等女學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ高等女學校令ニ依リ設置シタル高等女學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク但シ大連市立高等女學校實科ノ生徒及卒業者ハ實科高等女學校及高等女學校實科ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ケルモノトス

者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル件

大正九年文部省令第八號大連市立實科高等女學校ノ生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス但シ大正十一年三月迄ニ大連市立實科高等女學校ヲ卒業シタルモノニ對シテハ仍從前ノ規定ヲ適用ス

●在外指定學校中ノ小學校兒童及卒業者他ノ學校ノ入學轉學ニ關スル件

大正八年十月二十五日 文部省令第三十七號

外務大臣及文部大臣ノ指定シタル在外指定學校中ノ小學校兒童及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ小學校令ニ依リ設置シタル市町村立小學校ノ兒童及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

●在外指定學校中ノ中學校及高等

入學轉學等ニ關スル件

明治四十二年三月二日 文部省令第四十六號

南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル同鐵道株式會社ノ設置セル小學校中其ノ兒童及卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學等ニ關シ明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令ニ依リ設置シタル市町村立小學校ト同等ト認メタルモノ左ノ如シ

瓦房店尋常高等小學校 奉天尋常高等小學校
大石橋尋常高等小學校 昌圖尋常高等小學校
遼陽尋常高等小學校 公主嶺尋常高等小學校
長春尋常高等小學校 撫順尋常高等小學校

●南滿洲鐵道株式會社長春商業學校ノ生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル件

大正十一年二月四日 文部省令第九號

南滿洲鐵道株式會社長春商業學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ實業學校令ニ依リ設置シタル相當實業學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

●大連市立高等女學校生徒及卒業

女學校ノ生徒並卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル件

大正十五年一月七日 文部省令第一號

外務大臣及文部大臣ノ指定シタル在外指定學校中ノ中學校及高等女學校ノ生徒並卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 外務大臣及文部大臣ノ指定シタル在外指定學校中ノ中學校ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ中學校令ニ依リ設置シタル中學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第二條 外務大臣及文部大臣ノ指定シタル在外指定學校中ノ高等女學校ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ高等女學校令ニ依リ設置シタル高等女學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

●在外指定學校中ノ實業學校ノ生徒並卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル件

昭和三年三月十四日 文部省令第三號

外務大臣及文部大臣ノ指定シタル在外指定學校中ノ實業學校ノ生徒並卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル件左ノ通定ム

外務大臣及文部大臣ノ指定シタル在外指定學校中ノ實業學校ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ實業學校令ニ依リ設置シタル入學

格、修業年限及種類ノ相當スル學校ノ生徒卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

南洋廳小學校兒童及卒業者ノ他ノ學校へ入學轉學ニ關スル件

大正十二年八月三日
文部省令第三十三號

南洋廳小學校兒童及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令ニヨリ設置シタル市町村立小學校ノ兒童及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

薩哈噠州派遣軍司令官ノ設置セ

ル亞港尋常高等小學校兒童及卒業者ノ他ノ學校へ入學轉學ニ關スル件

大正十一年十月二十七日
文部省令第三十二號

薩哈噠州派遣軍司令官ノ設置セル亞港尋常高等小學校兒童及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令ニ依リ設置シタル市町村立小學校ノ兒童及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

〔清國〕人ヲ入學セシムル公私立學校ニ關スル規程

明治三十八年十一月二日
文部省令第十九號

〔清國〕人ヲ入學セシムル公私立學校ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ〔清國〕人ノ入學ヲ許可セントスルトキハ其ノ入學願書ニ本邦所在ノ〔清國〕公館ノ紹介書ヲ添付セシムヘシ

第二條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ〔清國〕人ノ入學ニ對シ本人ノ志望ニ依リ其ノ學校所定ノ學科中一科目若ハ數科目ヲ關カシムルコトヲ得

第三條 〔清國〕人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ其ノ教育ニ關係スル職員ノ名簿、〔清國〕人ノ学籍簿、出席簿及往復書類ヲ備フヘシ

前項ノ学籍簿ニハ生徒ノ姓名、原籍、年齢、居所、入學前ノ經歷、入學ヲ紹介シタル官廳ノ名稱、官費私費ノ區別、賞罰、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、轉學退學ノ事由等ヲ記載スヘシ

第四條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ〔清國〕人ノ轉學又ハ退學ヲ許可セ

改〔甲學六八〕

改〔甲學三六〕

〔清國〕人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ毎年一月及七月ノ二回ニ其ノ前六箇月間ニ入學ヲ許可シタル〔清國〕人ノ学籍簿ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

前項ノ規定ハ〔清國〕人ノ轉學者、退學者及卒業者ニ關シ之ヲ準用ス

第六條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ〔清國〕人ノ退學ヲ命ジタル事由ヲ本人ノ入學ヲ紹介シタル〔清國〕公館ニ報告スヘシ

第七條 〔清國〕人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校中文部大臣ニ於テ適當ト認ムルモノハ特ニ之ヲ選定シ〔清國〕政府ニ通告ス

第八條 公立又ハ私立ノ學校ニシテ前條ノ選定ヲ受ケントスルトキハ管理

者又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ既ニ開申シ若ハ認可ヲ得タル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 〔清國〕人ノ教育ニ關スル沿革

二 學則中〔清國〕人ノ教育ニ關スル規定

三 學校長若ハ學校代表者ノ履歷

四 教員ノ姓名、資格、學業履歷及分擔學科目

五 〔清國〕人ノ生徒定員及學年級別現在員數

六 〔清國〕人ノ生徒學校外監督ノ方法

七 〔清國〕人ノ卒業者ノ員數及卒業後ノ情況

八 〔清國〕人ノ生徒ニ充ツル校地校舍及寄宿舎ノ圖面

九 經費及維持ノ方法

十 教科書、教授用器具、器械及標本ノ目錄

前項第二號及第八號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ〔清國〕人ノ生徒ヲシテ寄宿舎又ハ學校ノ監督ニ屬スル下宿等ニ宿泊セシメ校外ノ取締ヲ爲スヘシ

第十條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ハ他ノ學校ニ於テ性行不良ナルカ爲退學ヲ命セラレタル〔清國〕人ヲ入學セシムルコトヲ得ス

第十一條 文部大臣ハ必要ト認メタルトキハ吏員ヲシテ選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ノ試験ニ立會ハシメ又ハ試験問題及其ノ答案ヲ査閲セシムルコトアルヘシ

第十章 生徒

〔清國〕人ヲ入學セシムル公私立學校ニ關スル規程

明治三十八年十一月二日
文部省令第十九號

〔清國〕人ヲ入學セシムル公私立學校ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ〔清國〕人ノ入學ヲ許可セントスルトキハ其ノ入學願書ニ本邦所在ノ〔清國〕公館ノ紹介書ヲ添付セシムヘシ

第二條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ〔清國〕人ノ入學ニ對シ本人ノ志望ニ依リ其ノ學校所定ノ學科中一科目若ハ數科目ヲ關カシムルコトヲ得

第三條 〔清國〕人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ其ノ教育ニ關係スル職員ノ名簿、〔清國〕人ノ学籍簿、出席簿及往復書類ヲ備フヘシ

前項ノ学籍簿ニハ生徒ノ姓名、原籍、年齢、居所、入學前ノ經歷、入學ヲ紹介シタル官廳ノ名稱、官費私費ノ區別、賞罰、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、轉學退學ノ事由等ヲ記載スヘシ

第四條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ〔清國〕人ノ轉學又ハ退學ヲ許可セ

改〔甲學六八〕

改〔甲學三六〕

前項ノ場合ニ於テ試験ノ問題又ハ方法中不適當ト認メタルモノアルトキハ當該吏員ハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十二條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ毎年一月及七月ノ二回ニ其ノ前六箇月間ニ入學ヲ許可シタル〔清國〕人ノ学籍簿ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

前項ノ規定ハ〔清國〕人ノ轉學者、退學者及卒業者ニ關シ之ヲ準用ス

第十三條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ〔清國〕人ノ退學ヲ命ジタル事由ヲ本人ノ入學ヲ紹介シタル〔清國〕公館ニ報告スヘシ

第十四條 〔清國〕人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校中文部大臣ニ於テ適當ト認ムルモノハ特ニ之ヲ選定シ〔清國〕政府ニ通告ス

第十五條 公立又ハ私立ノ學校ニシテ前條ノ選定ヲ受ケントスルトキハ管理

者又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ既ニ開申シ若ハ認可ヲ得タル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 〔清國〕人ノ教育ニ關スル沿革

二 學則中〔清國〕人ノ教育ニ關スル規定

三 學校長若ハ學校代表者ノ履歷

四 教員ノ姓名、資格、學業履歷及分擔學科目

五 〔清國〕人ノ生徒定員及學年級別現在員數

六 〔清國〕人ノ生徒學校外監督ノ方法

七 〔清國〕人ノ卒業者ノ員數及卒業後ノ情況

八 〔清國〕人ノ生徒ニ充ツル校地校舍及寄宿舎ノ圖面

九 經費及維持ノ方法

十 教科書、教授用器具、器械及標本ノ目錄

前項第二號及第八號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ〔清國〕人ノ生徒ヲシテ寄宿舎又ハ學校ノ監督ニ屬スル下宿等ニ宿泊セシメ校外ノ取締ヲ爲スヘシ

第十條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ハ他ノ學校ニ於テ性行不良ナルカ爲退學ヲ命セラレタル〔清國〕人ヲ入學セシムルコトヲ得ス

第十一條 文部大臣ハ必要ト認メタルトキハ吏員ヲシテ選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ノ試験ニ立會ハシメ又ハ試験問題及其ノ答案ヲ査閲セシムルコトアルヘシ

女子師範學校高等女學校生徒學業成績調査等ニ關スル件

明治三十三年三月二十六日
文部省訓令第六號

女子ノ師範學校及高等女學校ニ在學スル年紀ハ心身ノ發育上最モ注意ヲ要スル時期ナリ故ニ右等ノ學校ニ在リテハ女生徒學業ノ成績ハ平素ニ於テ便宜ノヲ調査セシムルコトヲ時期ヲ定メテ一時ニ全學科目ノ試験ヲ行フコト勿カラシムヘシ又月經ノ間ハ其ノ生徒ニ限リ體操科ヲ課セシメサルヲ要ス

生徒德育上ノ注意

明治四十二年九月十三日
文部省訓令第十三號

教育ハ人物ノ養成ヲ以テ主眼トス普通教育ト専門教育トヲ問ハス常ニ重キヲ品性ノ陶冶ニ置クヘキコト論ヲ俟タス故ニ直轄諸學校ニ於テモ從來此ノ

點ニ注意ヲ怠ラザリシハ本大臣ノ認ムル所ナリ是等諸學校ノ生徒ハ既ニ中學校以下ニ於テ修身教育ヲ受ケタルモノナリト雖道徳上ノ觀念尙堅實ヲ缺キ各種ノ誘惑ニ陥リ易ク德育上最モ注意ヲ要スル時期ニ屬ス故ニ自今直轄諸學校ニ於テハ一層力ヲ修身ノ教育ニ致シ定時ニ修身ノ教授ヲ爲スノ外必要ニ應ジ隨時訓誨ヲ施シテ生徒ノ道義的觀念ヲ鍊成シ以テ實踐躬行ノ意志ヲ強固ナラシメシムコトヲ要ス又學校長及教官ハ常ニ協心戮力シ躬ラ學校德育ノ中心ト爲リテ生徒ヲ薰陶シ以テ教育勸語及戊申詔書ノ聖旨ヲ貫徹セシコトヲ努ムヘシ

●行幸啓ノ節學生生徒敬禮方

明治四十三年八月二十六日
文部省訓令第十八號

沿革 明治四十四年七月文部省訓令第一二號 大正五年一〇月第五號改正

北海通商 府縣 直轄學校

行幸啓ノ節學生生徒敬禮方

行幸啓ノ節學生生徒敬禮方

一 武裝換銃ノ場合

學校長及職員ハ全隊ノ右翼ニ指揮者ハ各中隊ノ右翼ニ位置シ豫メ銃ヲ銃ニ裝セシメ前隊ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車方中隊ノ右翼約十歩ニ近キタルトキ「捧銃」ノ號令ニテ一齊ニ捧銃ヲナサシメ御車方中隊ノ左翼約十歩ヲ過キタルトキ元ノ姿勢ニ復セシム

御車方中隊ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長、職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

二 武裝セサル場合(女生徒ヲ含ム)

學校長及職員ハ全隊ノ右翼ニ指揮者ハ各組ノ右翼ニ位置シ前隊ノ見エ

タルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ一齊ニ脱帽セシメ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車方指揮者ノ前ニ達シタルトキ「禮」ノ號令ニテ敬禮セシム(體ノ上部ヲ約三十度前方ニ屈シ御車ニ注目セシム)「直レ」ノ號令ニテ元ノ姿勢ニ復セシム

●行幸啓ノ節學生生徒敬禮方ニ關スル注意

明治四十三年八月二十六日
戊官普一三三號文部次官通牒

各地方長官 直轄學校長宛

今般文部省訓令第十八號ヲ以テ行幸啓ノ節學生生徒ノ敬禮方ニ關シ訓令相成候處右ニ就テハ去ル三十八年中内訓ノ次第モ有之候ヘトモ奉送迎ノ實際ニ當リテハ敬禮方往々區々ニ涉リ整一ナラサルノ憾無之ニアラス且敬禮方ニ付改正ヲ要スヘキ廉モ有之今更ニ訓令相成候次第ニ有之候就テハ自今右訓令ニ據リ平常生徒ヲシテ練習セシムルノミナラス尙禮儀ニ臨ミテ豫メ周到ナル注意ヲ與ヘ區々ナル動作ニ出テス整一セル禮容ヲ保タシムル様特ニ御配慮相成度猶又訓令末段ニ示サレタル如ク「禮」ノ號令ニテ體ノ上部ヲ前方ニ屈シタル後ハ徐ニ元ノ姿勢ニ復シ「氣ヲ付ケ」ノ姿勢ノ儘御車ヲ拜シ奉リ之方爲ニ姿勢ヲ亂スカキコト無之様篤ト御注意相成度依命此段及通牒候也

追テ大雨雪ノ際ハ雨具ヲ用フルモ苦カラス又幼稚園並尋常小學校第二學年以下ノ兒童ハ參列セシメサルヲ可トシ尙第三學年以上ノ兒童ト雖場合ニ依リ參列セシメサルモ差支無之候條御承知相成度此段申渡候也

●學生生徒風紀振肅ニ關スル件

改(甲學八一)

明治三十九年六月九日
文部省訓令第一號

學生生徒ノ本分ハ當ニ健全ナル思想ヲ有シ確實ナル目的ヲ持シ刻苦精勵他日ノ大成ヲ期スルニ在ルハ固ヨリ言ヲ俟タズ殊ニ戰後ノ國家ハ將來ノ國民ニ期待スル所益々多ク今日ノ學生生徒タル者ハ其ノ責任一層ノ重キヲ加ヘタルヲ以テ各々學業ヲ勵ミ一意専心其ノ目的ヲ完ウスルノ覺悟ヲカカヘカラス

然ルニ近來青年子女ノ間ニ往々意氣銷沈シ風紀頹廢セル傾向アルヲ見ルハ本大臣ノ憂慮ニ堪ヘサル所ナリ現ニ修學中ノ者ニシテ或ハ小成ニ安シ奢侈ニ流レ或ハ空想ニ煩悶シテ處世ノ本務ヲ閑却スルモノアリ甚シキハ放縱浮靡ニシテ操行ヲ紊リ恬トシテ恥ヲサレ者ナキニアラス斯ノ如キハ家庭ノ監督其ノ方ヲ誤リ學校ノ規律漸ク弛緩セルノ致ス所ニシテ今ニ於テ嚴ニ戒慎ヲ加フルニアラスハ禍害ノ及フ所實ニ測リ知ルヘカラス

社會一部ノ風潮漸ク輕薄ニ流レムトスルノ兆アルニ際シ青年子女ニ對スル誘惑ハ日ニ益々多キヲ加ヘムトス就中近時發刊ノ文書圖畫ヲ見ルニ或ハ危激ノ言論ヲ掲ケ或ハ厭世ノ思想ヲ説キ或ハ陋劣ノ情態ヲ描キ教育上有害ニシテ斷シテ取ルヘカラスルモノノ多シトモハ之ヲ勸奨スルト共ニ苟モ不良ノ結果ヲ生スヘキ虞アルモノハ學校ノ内外ヲ問ハス嚴ニ之ヲ禁遏スルノ方法ヲ取ラサルヘカラス

又頃者極端ナル社會主義ヲ鼓吹スルモノ往々各所ニ出沒シ種々ノ手段ニ依リ教員生徒等ヲ誑惑セムトスル者アリト聞ク若シ夫レ斯ノ如クシテ建國ノ大本ヲ藐視シ社會ノ秩序ヲ紊亂スルカ如キ危險ノ思想教育界ニ傳播シ我教育ノ根柢ヲ動カスニ至ルコトアラハ國家將來ノ爲メ最モ寒心スヘキナリ事ニ教育ニ當ル者宜シク留意戒心シテ矯激ノ僻見ヲ斥ケ流毒ヲ未然ニ防クノ

用意ナカレヘカラス

改(甲學八一)

本大臣ハ國運ニ照シ時弊ニ鑑ミ特ニ茲ニ訓示ス教育ノ當局者及ヒ學校長教員等ハ克ク本大臣ノ旨ヲ體シ父兄保護者ト協心戮力シテ風紀ヲ振肅シ元氣ヲ作興スルニ努メ學生生徒ハ自ラ修メ己ニ克ク學業ヲ成就スルニ專ニシテ上下齊ヒ率キ以テ教育ノ效果ヲ完リセムコトヲ期スヘシ

●未成年者喫煙禁止法

明治三十三年三月七日
法律第三十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル未成年者喫煙禁止法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 未成年者喫煙禁止法
- 第二條 未成年者ハ煙草ヲ喫スルコトヲ得ス
- 第三條 前條ニ違反シタル者アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ喫煙ノ爲ニ所持スル煙草及器具ヲ沒收ス
- 第四條 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者情ヲ知りテ其ノ喫煙ヲ禁止セザルトキハ一圓以下ノ科料ニ處ス
- 第五條 親權ヲ行フ者ニ代リテ未成年者ヲ監督スル者亦前項ニ依リテ處斷ス
- 第六條 未成年者ニ其ノ自用ニ供スルモノナルコトヲ知りテ煙草又ハ器具ヲ販賣シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●學校生徒ノ喫煙ニ關スル件

明治三十三年三月二十六日
文部省訓令第五號

北海通商 府縣 文部省直轄學校

學校生徒ノ喫煙ニ關シテハ小學校ニ在リテハ明治二十七年文部省訓令第六號ヲ以テ生徒ノ喫煙スルコト及煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘキ旨訓令シ中學校等ニ在リテモ實際喫煙ヲ禁止セルモノ多シ蓋シ學校生徒ノ喫煙ハ衛生上有害ナルノミナラス風紀ニ關スルコト少ナカラス殊ニ此際未成年者喫煙禁止法ノ發布アリタルニ就キテハ小學校中學校師範學校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ在リテハ取締上其ノ生徒ノ成年以下ナルト以上ナルト學校ノ内外トテ間ハス喫煙シ及煙草煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁止スヘシ其ノ他ノ學校ニ在リテモ特ニ注意ヲ加ヘ法律違反ノ者ナカラシムコトヲ期スヘシ

未成年者飲酒禁止法

大正十一年三月三十日
法律第二十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル未成年者飲酒禁止法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

未成年者飲酒禁止法

- 第一條 未成年者ハ酒類ヲ飲用スルコトヲ得ス
未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者若ハ親權者ニ代リテ之ヲ監督スル者未成年者ノ飲酒ヲ知リタルトキハ之ヲ制止スヘシ
- 營業者ニシテ其ノ業態上酒類ヲ販賣又ハ供與スル者ハ未成年者ノ飲用ニ供スルコトヲ知リテ酒類ヲ販賣又ハ供與スルコトヲ得ス
- 第二條 未成年者力其ノ飲用ニ供スル目的ヲ以テ所有又ハ所持スル酒類及其ノ器具ハ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ沒收シ又ハ廢棄其ノ他ノ必要ナル處置ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第三條 第一條第二項、第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス
- 第四條 營業者力未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ

改(甲學八一)

能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス
明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

學校生徒飲酒取締ノ件

明治四十二年九月九日
文部省訓令第十二號

學校生徒ノ飲酒ハ教育上取締ヲ要スヘキハ言ヲ俟タズ從來各學校ニ於テモ常ニ適當ノ方法ヲ講シテ調戒監督ヲ怠ラサルハ本大臣ノ認ムル所ナリ然レトモ調育ノ目的ヲ貫徹セント欲セハ學校ト家庭ト常ニ聯絡ヲ保タシムコトヲ要ス因テ各學校ニ於テハ自今飲酒ノ取締ニ就キ一層家庭ト聯絡ヲ保ツコトニ注意シ以テ教育ノ效果ヲ完ウセシムコトヲ努ムヘシ

兒童生徒ノ個性尊重及職業指導

ニ關スル件

昭和二年十一月二十五日
文部省訓令第二十號

學校ニ於テ兒童生徒ノ心身ノ傾向等ニ稽ヘテ適切ナル教育ヲ行ヒ更ニ學校卒業後ノ進路ニ關シ青少年ヲシテ其ノ性能ノ適スル所ニ向ハシムルハ時勢ノ進歩ト社會ノ推移トニ照シ洵ニ喫緊ノ要務ニ屬ス隨テ學校ニ在リテハ平等ヨリ兒童生徒ノ個性ノ調査ヲ行ヒ其ノ環境ヲ考慮シテ實際ニ適切ナル教育ヲ施シ各人ノ長所ヲ發揮セシメ職業ノ選擇等ニ關シ懇切周到ニ指導スルコトヲ要ス是ノ如クシテ國民精神ヲ啓培スルト共ニ職業ニ關スル理解ヲ得シメ勤勞ヲ重ニスル習性ヲ養ヒ始メテ教育ノ本旨ヲ達成スルニ至ルモノナルヲ以テ自今各學校ニ於テハ左ニ掲ケル事項ニ就キ特ニ深ク意ヲ用フヘシ

- 一 兒童生徒ノ性行、知能、趣味、特長、學習情況、身體ノ情況、家庭其ノ他ノ環境等ヲ精密ニ調査シ教養指導上ノ重要ナル資料トナスコト
- 一 個性ニ基キテ其ノ長所ヲ進メ卒業後ニ於ケル職業ノ選擇又ハ上級學校

改(甲學七九)

ノ選擇等ニ關シテ適當ナル指導ヲナスコト
一 學校ハ前掲ノ教養指導等ニ關シ父兄及保護者トノ連絡提携ヲ密接ニスルコト

生徒ノ服忌ニ關スル通牒

明治四十四年八月二十九日
官報

地方長官ハ克ク以上ノ旨趣ヲ體シ其ノ目的ノ達成ニ力メムコトヲ望ム
生徒ノ服忌ニ關シ本月二十一日文部次官ヨリ各地方長官ニ左ノ通牒ヲ發セリ(文部省)
服忌ノ制ハ夙ニ明治七年太政官布告第八號ヲ以テ規定相成居候儀ニ有之候處近來小學校其他諸學校ニ於テ往々其生徒ノ父母祖父母等ノ死亡ニ際シテモ右ノ制度ヲ等閑ニ附スルカ如キモノモ有之ヤニ相聞エ道德教育上頗ル遺憾ノ次第ト被存候就テハ小學校及中學程度ノ諸學校ニ於テハ自今生徒ヲシテ克ク服忌ニ關スル心得ヲ會得セシメ又之ニ丁リタル者ニ對シテハ相當期間休業ヲ認許シ尙試驗ノ時期等ニ際シテハ特別ノ取扱ヲ爲ス等便宜ノ方法ヲ講シ以テ苟モ孝悌ノ至情ヲ傷ハシメサル様深ク注意スヘキ旨御示達相成依命此段及通牒候也
追テ貴管内公私立専門學校ニ對シテハ本文ノ趣旨ニ依リ取扱候様本文ハ參考トシテ御示達相成依命此段申添候也